史料紹介

深井孫七郎「大坂店勤番日記」その一

――天明六・七年の大坂両替店――

「大坂店勤番日記」は、三井大坂両替店に勤番として派遣された京両替店の重役手代、深井孫七郎の手になる日記であり、大坂両替店に残されていたものである。深井孫七郎の在坂期間は天明六年（一七八六）二月七日から同八年（一七八八）七月三日のその死に至るまでであるが、残存する勤番日記は、着任した当日から翌七年二月六日までの一年分のみで、それも途中八月から一〇月の間の分を欠いている。

この「大坂店勤番日記」の欠除した分である天明六年八月から一〇月にかけては、恰度権勢を誇った老中田沼意次の罷免、失脚に至った時期であるが、たまたま天明五年十二月に出された大坂御用金と、六年七月の全国にかけられた融通金が田沼失脚の直接の引金になったといわれている。(1)「勤番日記」は、欠除した部分を境にして大坂両替店が田沼末期の政策にふり回される前半と、失脚後の後半に分けられるとでもいえそうである。しかし全体的にみれば天明期の幕府や諸藩との交際、諸商人、町との関わりが日常的にとらえられているのみならず、安永持分け期間中の越後屋(大坂本店)との交流関係、他に献立、祭や行事への参加といった、上級手代の生活の一端をも窺い知ることができて興味深い。

また、日々の営業に関する記録という点では、別に大坂両替店自身作成した「日記録」(2)があるので、両者をつき合わせてみれば、欠本部分に限らず、内容を相補い合い、より豊かなものにすることができよう。両者には共通の記事が結構多い。深井孫七郎が店を離れている期間の事柄、逆に店の方で書き漏した事柄を互いに補填し合っている節もまま見受けられる。両者とも大坂両替店にとって一番重要な幕府御用に関する記事が多いのはもちろんであるが、対諸藩の御用関係の記事も多く、特に三井家とは因縁の深い笠間藩牧野家（老中）関係の記事が目につく。

筆記者の深井孫七郎は、初め堀孫七といい寛保二年に京糸店へ初出勤したが、延享四年（一七四七）六月に京両替店へ勤務替えし、宝暦一〇年（一七六〇）二月組頭となった。翌宝暦一一年春

深井家に養子に入った。深井家は、糸店出身の深井幸右衛門を初代とし、二代深井助九郎は京両替店の元〆役までいった家督の家である。孫七郎は深井家三代目として名がある。[3] この勤番日記の書き始め頃は元方掛名代であったが、在坂中の天明六年八月一六日付をもって加判名代役に昇格した。京両替店の中では、元〆役丸山弥兵衛に次ぐ地位である。屋敷方としては大坂城代阿部能登守（武州忍藩）と土岐美濃守（沼田藩）の二家の御用を担当していた。この京両替店の重手代であった深井孫七郎が、大坂両替店勤番となったことについては、次のようないきさつがある。

天明五年（一七八五）一一月、大坂店の重役（勘定名代）であった中井嘉平次が急死し、経営に携わる重役陣が元方掛名代の井口孫兵衛と後見役の山中半兵衛の二人だけになってしまった。この大坂店上部の手薄な状況をみた三井家の長老三井宗巴（中立売家＝現伊皿子家三代高登）が、京都店の重役を一人「引越勤め」[4]させるようもちかけたのである。京両替店には元〆役丸山弥兵衛を筆頭に、深井孫七郎、藤田助右衛門（勘定名代）、五十川清太郎（名代）、西田新四郎（後見）ほかに支配役の寺井頼兵衛と揃っていたが、結局のところ、深井、藤田、五十川、西田の四重役の間で半季交代の勤番制をとるということに落ちついたのである。その一番手が深井孫七郎であった。勤番料は半季分で金六両、宿は堂島一丁目の大坂両替店抱屋敷内であった。

彼地店（＝大坂店）、近来不勘定之儀、時節トは乍申、全体取組筋之仕方万端巨細ニ不行届様ニ相見得、此義第一取直シ申事肝要ニ候、其外取〆り方風義相直シ、倹約等随分相立候様万事気ヲ入、立直シ候様ニ取計可被申候

右は、天明六年正月付で三井三郎助の名で四重役に宛てられた勤番料の申渡書[5]の前書の部分である。大坂両替店は、加賀藩への貸付金返済滞りを機に、右の引用史料にもみられるごとく慢然とした赤字経営が続き、天明期は最も落ち込んでいる時期であった。要は深刻な経営立直しが必要になっていたのである。

深井は大坂へ着くと早速抱屋敷の検分をはじめ、店使用人や出入、退役した者に至るまでの塞り銀を調べるなど、店の取締にも取り組んでいる。また営業に関わる金や銭・米（肥後米、五月から筑前米に変る）、のちには為替打銀の相場も日々欠かさずつけている。これらの相場は、店の「日記録」にはつけられていなかったのであるが、天明七年から「勤番日記」と同じ様につけ始められるようになった。これも深井の指導によるものと思われる。

大坂両替店は、御金蔵銀の下貸付や、蔵米を引当とする屋敷貸、家賃貸、質物貸、河内の新田経営等々、多用な営業科目を抱えている。これらの業務に付随する様々の実務、例えば、幕府や貸付相手との交渉、証文、帳簿の作成、京都、江戸店との連絡その他に携わる奉公人はどれ程いたであろうか。

深井が赴任してきた当時は、先にあげた元方掛名代井口孫兵衛、後見の山中半兵衛の下に、杉本久次郎、岡田喜三郎という支配

役が二人、組頭に竹内文次郎がいて、役付だけだと五名おり、その下は平手代が九ないし一〇名程、子供が五名程いる。ほかに雇[6]勤の岡田彦次郎[7]のような者もいるが、全体人手不足であったようである。天明六年二月に杉本久次郎が通勤支配、竹内文次郎が支配役となって、二人で御用方を勤めることになるけれども、井口孫兵衛もすでに身体をそこねており（天明六年九月死亡）、中井嘉平次の死去後、京都店から重役を迎えるに至ったことは万止むを得ないことであった。

そもそも両替店グループ（＝両替店一巻）では呉服店グループ（＝本店一巻）のように、京都店から重役を江戸・大坂勤番として派遣することをしていない。[8]少なくとも天明に入ったこの時期まで制度としてあったという記録は見当らない。呉服店が江戸・大坂の営業、人事を京都において一本に統轄するという機構であるのに対し、両替店は三都の各店舗がそれぞれの経営基盤をもって、独自の利益収取を図る、という営業形態であったからであろうか。

ここで、この「勤番日記」の前半部分に出てくる二つの御用金について少し触れておこう。

天明五年十二月十三日、大坂市中の富家に融通貸付のための幕府御用金が賦課された。越後屋大坂本店は、三井八郎右衛門の名前で金七万両という大金を課せられ、少しでも低い金額に押えようとその対策に苦慮し、裏にまわって紀州家の援助を願い出た。一方、両替店は本店からの依頼によって京都店の支配役（天明六年二月通勤支配となる）寺井瀬兵衛を、八郎右衛門の使いとして、大坂町奉行佐野備後守家老森繁平との交渉に当らせている。両替店側は初めこそ傍観者的立場で、状況をみていたが、翌天明六年一月十九日に森繁平から呼び出しがあり、三井次郎右衛門にも御用金が課されることになった。もっとも、これは表向きのことで、内密は上田三郎左衛門ともども御為替御用を引き受けているとの理由で、御用金上納を免除されるであろうということであった。両替店では万が一に備え、免除の願書を提出する。深井孫七郎が勤番として着任した直後から出てくる御用金関係の記事は、右のような大坂両替店の立場によって記述されている。

もう一つの御用金というのは、七月五日に江戸両替店から緊急に入った情報である。すなわち日本全国の寺社、山伏、百姓、町人に五か年継続して賦課された大規模な御用金で、大坂に設置する会所において大名への貸付を行なうというものである。この御用金の徴収に江戸・大坂の三井組および上田組が指定されることになった。御用金取扱になったことについて、江戸店は京都店に宛て世間の噂を「兎角此方ヲ山師之様ニ申作シ、此度之義相願候而徳用も有之様ニ存族も有之、端々ニ至候而は、色々之悪説ヲ申触し、此御用相始り、役所ニ而も建候ハヽ、打潰シニ参可申、或ハ上江之面ヲ当テン打潰し可申なと、又ハ見附次第打擲可致なと申説有之[9]」と書き送っている。江戸の三井店四軒（本店、向店、芝

口店、両替店）はこのため「店々安全之為」三廻山に参詣したという。右の書状をみても、いかにこの御用金が悪評且つ迷惑であったかが知られる。この御用金令では、町人は間口一間に付銀三匁を納めねばならず、多くの抱屋敷をもつ三井家にとって、この点でも深刻な問題であった。深井孫七郎には、七月十一日の段階では、八月に入れば勤番を交代して京に戻るよう指令がでていたが、その後の番状によって交代延引が伝えられている。(10)

此度不存寄ユ印御用（融通金）被仰付候ニ付而ハ、大坂ニ重立候頭役無之候而ハ相済申間敷、幸孫七郎在坂取締方も致事ニ候得ハ、ユ印頭役申出候様ニ可致候、助右衛門交代被申出聞届候得共、其後ユ印御用被仰渡候得ハ、助右衛門交代相止させ申候、孫七郎ユ印頭役申渡候趣意ハ、此度之御用甚太切成事、其上武家方応対も有之事、中々内役之者ニ而ハ勤り兼可申存候、孫七郎事ハ年来御用方勤来候事ニ付申渡候、尤大坂店取締方も兼帯ニ候、尤一両年も詰越可被申候、其内ニハ代り役も出来、交代為致可申候

全国の反撥を買った融通御用金は、「関東筋出水ニ付」という名目で八月二三日差留の内意が示された。老中田沼意次の罷免となる直前の日である。九月十三日に正式に御触が出され、これにより深井孫七郎の役割は大坂店取締に重点をおくものとなった。この直後、病気がちだった井口孫兵衛が死去、深井は家族を大坂に移して通い勤めすることになる。

深井は天明八年七月三日病い急変して勤番先の大坂で死亡した。大坂店は中井、井口の上に深井まで失ない、上部に人を入れる必要があったが、京都店でも天明八年大火の直後の混乱で繁雑になっていたために、以前深井とともに輪番に名のあがっていた残る三人、藤田助右衛門、五十川清太郎、西田新四郎が一ヵ月交代で勤番につくことになった。さらに京糸店支配退役の石田十兵衛を大坂両替店に通勤支配として再勤させることとなった。

形体は半紙サイズ、全五冊を二分冊に合綴して収蔵されている。墨付分を合わせると全三〇五丁にも及ぶ分量のため、紙幅の制約上、一度に掲載することができない。二回に分けて掲載するのでご了解願いたい。分載の仕方は左のとおりである。

○一回目

「大坂店勤番日記」　天明六年二月七日～同年三月廿九日　別一五七一―一

「同　　」　天明六年四月一日～同六月二四日　別一五七二―一

「同　　」　天明六年六月二五日～同七月二八日　別一五七二―二

○二回目

「大坂店勤番日記」　天明六年十一月一日～天明七年二月六日　別一五七一―二

「同　　」　天明七年正月元日～同二月六日　別一五七一―三

（1）　中井信彦『転換期幕藩制の研究』第一章第二節。天明五

年十二月の大坂市中御用金令に、三井が御用金免除のため紀州家に懇願したことから、単なる「領分の町人」のためにではなく、幕府への対抗上紀州家が動いたとされる。

(2) 三井文庫所蔵史料　本一～一一一
享保二年から明治六年に至るまで全一一五冊が揃っている（欠本三九冊）。

(3) 「京両替店筋代々取調書控」（三井文庫所蔵史料　追六一〇―一）。なお、本文史料中にみえる深井助九郎は四代目であり、天明六年当時は平手代である。

(4) 「《京都内番来状》」（三井文庫所蔵史料　別八一三二）。
三井家は、宝暦期以来の打ち続く内紛と経営不振により、安永三年に家産共有制を崩して呉服店、両替店、松坂店の各巻を三井十一家で持ち分けた（安永持分け）。両替店一巻は、中立売家（二男家、現伊皿子家）、竹屋町家（四男家、現室町家）、南家（六男家・現同称）、出水家（九男家、現小石川家）の四家の持ち分となっている。京両替店から重役を「引越勤」させず勤番とした理由の一つに、「随分爰元店ハ人数打揃有之候得共、只今ニ而ハ御持分四軒之引請壱人ツヽ有之」ということを挙げている。「四軒之引請壱人ツヽ有之」という意味ははっきりしないが、同苗四軒の財産管理を重役四人がそれぞれ担当していたということであろうか。

(5) 「《大坂店申渡書》」（三井文庫所蔵史料　続一五九八―三）。

(6) 本文史料三月六日の記事に、「店若キ者九人共遣過銀」とあるが、「《天明五巳年秋季中手代子供小遣銀入目々録》」（三井文庫所蔵史料　続六一一二―三）では一一名が平（うち二名は八月暇）と思われる。しかし「宗旨手形之事」《「案文帳」（同　本一六三七）》によると、住込みは岡田喜三郎、杉本久次郎を除くと、子供と思われる二名を含め七名いることになる。史料を対照すると、平手代でも住込みでなく、通いであったらしい者が五名程いたことが判る。なお、組頭の竹内文次郎も通いである。

(7) 岡田彦次郎は、元大坂両替店支配格。天明二年十二月十六日退役と同時に雇勤（嘱託のようなもの）になっている。

(8) 呉服店グループの本店格（ほんてん）である京本店には、名代役、後見役手代の江戸勤番を規程づけた「京名代後見在江勤録」（本一四三）という江戸勤番の重役によって書かれた帳面がある。勤番の主たる職務は、江戸三店（本店、向店、一丁目店＝のち芝口店）の半季の勘定をあらまし見届け、下附目録を京本店に持ち帰るが、この間に気がついたことで江戸本店の為になる意見を書き留めたのが、右の帳面である。半季交代にする訳は、「元来其土地ニ一ケ年も居住候得は、諸色万端ニ付、其所之気ニ移差繰已下共ニ却而難見得」と新鮮な目で物事が見れる様にすることにあったようである。本店の勤番

制については、享保四年に定められた「名代要式」に名代役の勤として記載がある。

(9)「《内番来状》」(三井文庫所蔵史料　別八〇九乙)。

(10)「同右」八月四日付。但し七月一八日付ですでに三井宗巴より交代延引の内意が示されている。

(樋口知子)

凡例

一、漢字、仮名ともに現行の字体を用いた。

一、読みやすくするために読点を適宜につけた。欄外書は当該の条項の後へ※印をつけて「　」で括り、右肩に(欄外)と注記した。

一、符帳は、できるだけ行間に実数を付したが、技術的に入れることが困難な個所は省いてある。使用されている付帳は左の二種類である。

一二三四五六七八九十百千貫匁分

イセマツサカエチウシ舟仙〆ゝ入

曽野見江佐留所於戒敬

一、献立の中で「午尻」とあるのは「午房」のことである。注記を入れる余白がないため、そのままにしてある。

（表紙）
「天明六午二月七日ゟ同三月廿九日迄

大坂店勤番日記

深井孫七郎」

（別一五七一―一）

午二月七日　晴天　金サシサヽエ入イ厘　銭ウヽセ入マ厘　昼エ入サ厘　肥後米サシチヽセ入

一今朝五ツ時前着坂ス

一料理汁　ちさ　絵（餘）おろし大根　花かつほ　平皿甘鯛　長いも　土佐ふ　焼物なし

一着坂ニ付為届左之通

本店　奥村　中西庄　清水并小畠

井口　山中　中井嘉　野崎　三好門

岡田　小野　竹内　中西　石井

但着為悦本店中西氏并支配人一人被参候、

其外両替店掛り之衆中追々被参候

右之通山中半兵衛同道相廻ル

一中食並之通り　汁大根小口切　平塩鯛あら　割昆布

一着坂為祝儀夜分盃事有之

吸物鯛切身うと　小皿同ぬた　硯蓋鯛小串玉子煮ぬきくわゐ

鮒（鮒）焼ほうほ　同したし物

〃

一着坂為届丸山ゟ広岡迄宛書状一通、宿元江一通

但此度ゟ半季代り大坂店勤番被仰付候付、大坂店并別宅之衆中江土産物持参之儀、於京都勤番四人申合候処、時節柄之儀無用可然旨ニ付、其訳着坂之上内々申達ス、勿論帰京之砌も主中様方并別宅中江土産物不致旨示合置候事

〃

二月八日　晴天　初午　金サシサヽエ入サ厘　銭ウヽセ入ウ厘　昼相場休　米相場休

一御両殿稲荷、大屋様御屋敷同、田沼様御屋敷同

一権現様御社稲荷江も参詣、夫ゟ天満天神江参詣ス、尤子供案内也

一大坂店遊金イ仙両（一千）、銀舟野シ〃ヽ（旦二十貫目）京都店江登ス、宰領藤次郎并幸七、京都出入藤兵衛付添罷登ル、尤藤兵衛儀者孫七郎召連下り候付、今夕右ニ付添為差登申候、右金方不残大坂店改　銀方サシ〃ヽ常是包残りエシ〃ヽ　大坂店改

一初午ニ付昼赤飯　汁天王寺かふら之角　向畑菜からしあゑ

一今晩四ツ半時ゟ思案橋西詰大津屋新助方ゟ出火、南隣信濃屋弥左衛門、播磨屋忠次郎、川崎屋清兵衛、右四軒焼失、夜半時過火鎮申候

但西御役所程近ニ付久次郎、文次郎并若キ者共為御見舞罷越候、炭屋五郎右衛門、炭屋善五郎隣家ニ付人遣ス、右何れも為見舞飯酒煮染等夫々為持遣ス、且平野町抱屋敷程近ニ有之候処別条無之、将又山中半兵衛宅弐町程間有之候、右

播磨屋忠次郎方者戸崎弥兵衛娘参り居候由、尤火元は大津屋ニ而二階ゟ焼出候由ニ御座候

〆

一新田ゟ拙者出坂為悦何れも罷越候

二月九日　小雨　金サシサヽエ入イ厘　昼ヱ入　銭ウヽセ入エチ厘　肥後米サシチヽサ入

一西御役所江逗火為恐悦久次郎罷出候、右之節森氏江懸御目、此間御内意相伺申候融通御用金願書弥明十日御表江差上候段内々御届申置候

二月十日　晴天　金サシサヽエ入イ厘　昼ヱ入サ厘　銭ウヽセ入エ厘　米サシチヽサ入

一融通印願書并例書共今日久次郎持参、松井官左衛門殿江向差出候処、御請取即刻御前江被仰上、無程御立出安井新十郎殿御立会、右願書御留置被成候間差置罷帰り可申旨被仰聞候付、引取申候、且右願書差出候節松井氏被申聞候は、其元ゟ別ニ断書差出候様被仰聞候付、則相認差上申候、尤右断書松井氏御添削被下候而何れも至極和らかニ御取扱被下候、右之通願書相納候付、即刻森印江罷越右御挨拶申上候処、心々心遣ニ及不申候旨呉々御申聞被成候、右之通之趣候得者無故障相済可申と被存候

一京本店上島太郎兵衛紀州ゟ今日罷帰り候由ニ而入来、彼地御聞請も宜候旨、尤今夕舟ニ帰京候旨

一宇野藤五郎伊勢代参無故障相勤、今夕方罷帰り候、且又小野藤次郎京都ゟ今朝罷帰り候

二月十一日　晴天　金サシサヽエ入エ厘　昼ヱ入サ厘　銭ウヽセ入ウ厘　肥後米サシチヽツ入

一八郎右衛門様御儀先達而ゟ御不快ニ付、当地御両殿江年始御礼御下向不被遊候間、御名代ニ而相勤可申旨京都ゟ申来り候付、今日久次郎定式扇子并目録持参、八郎右衛門様御不快之御断申上差上申候、且御家中方へも定式之通音物差送り申候

一今日西御屋敷江久次郎罷出候節森氏被仰聞候は、昨日被差出候願書ニ而先御呼出者有之間敷旨今明日中ニ江戸表江御通達有之筈ニ候間、前以申入置候通、右願書ニ而大方相納り可申候得共、万々一押而可申参も難計候条、右御通達已前於江戸表致入魂願置可申旨、今日も呉々御申聞被成候、依之右之趣京都店江別紙連名ヲ以申遣シ、彼地店ゟ江戸表江委細通達有之筈候

一森印御内証大戸源内殿法事用ニ付、明十二日昼舟ニ上京有之候付、右之段も京店江及通達候

二月十二日　晴天　金サシサヽチ入サ厘　昼ウ入サ厘　銭ウヽセ入カエ厘　肥後米サシウヽイ入

一今日相記候用向無之候

二月十三日　晴天　金サシサヽウ入マ厘　昼チ入チ厘
銭ウヽセ入エチ厘
肥後米サシチヽチ入

一家方為見分半兵衛同道罷越左之通

高麗橋一町目南側
表口十二間　八郎右衛門様御名前　元方持
表口六間余　元五郎様御名前　元方持
〆表口拾八間余　右本店地面也
八百屋町角
表口拾三間　宗龍様御名前　元方持
高麗橋一町目本店東隣
表口三間　宗龍様御名前（六十二）　元方持
但此屋敷地尻凡カシセ坪程本店江地貸
高麗橋一町目北側
表口六間半　元五郎様御名前（百四十匁）　元方持
但加藤東助貸宿賃凡月舟ツシヽ程之由
右同町北側
表口四間半　宗龍様御名前　元方持
但合羽屋江貸
平野町一町目
表口弐十五間半　源右衛門様御名前　御持分
裏行弐拾間
代享保銀舟セシ〆ヽ（百二十貫目）　但此屋敷三ケ所ニ続有之

本天満町
表口六間　小野藤次郎名前　大坂店持
裏行七間
代銀シマ〆サ舟ヽ（十三貫五百目）
白髪町南側角屋敷
表口弐拾七間半　八郎右衛門様御名前　大坂店持
裏行二十三間
代銀セ舟シウ〆ヽ（二百十九貫目）
山本町
表口八間　次郎右衛門様御名前　大坂店持
裏行拾四軒六尺
代銀マシカ〆サ舟ヽ（三十六貫五百目）
奈良物町（屋）
表口拾弐間三尺九寸　阿波屋伊兵衛名前　大坂店持
裏行拾四間四尺
代銀ツシ〆ヽ（四十貫目）
普請入用シイ〆サ舟ヽ（十一貫五百目）
〆銀サシイ〆サ舟ヽ（五十一貫五百目）
古手町
表口七間五尺　次郎右衛門様御名前　大坂店持
裏行二十間余
代銀マシ〆セ舟ヽ（三十貫二百目）

四郎兵衛町一町一屋敷三方面
表口四拾九間半　次郎右衛門様御名前　大坂店持
裏行北四十七間　南五拾壱間　四尺三寸
代銀表向帳切セ舟サシ〆〆ニ而マ舟サシカ〆〆
堂島新地一町目
表口拾間
裏行東二十七間　西二十九間　一尺　次郎右衛門様御名前　大坂店持
代銀チシウ〆サ舟〆
高麗橋三町目両替店西隣
表口三間半二尺八寸　山中半兵衛名前　大坂店持
裏行弐拾間　(三十一貫目)
代銀マシイ〆〆
斎藤町三ケ所続屋敷
表口五十壱間三尺余　源右衛門様御名前　御持分
裏行二十間ゟ長キ所　三十六間四尺余
代文字銀舟サシマ〆〆　但右三ケ所続屋敷也
梶木町
表口七間七寸弐歩　次郎右衛門様御名前　御持分
裏行二十間　(十五貫五百目)
代享保銀シサ〆サ舟〆
江戸堀二町目南側
表口拾五間　源右衛門様御名前　御持分

裏行二十間　(三十一貫六百二十五匁)
代享保銀マシイ〆カ舟セシサ〆
右続新筑地屋敷
表口十四間　右御同人御名前　御持分
裏行十壱間半　(四十一貫百五十二匁二分六)
代文字銀ツシイ〆舟サシセ〆セ入カ厘
麹町右続北側
表口拾五間　源右衛門様御名前　御持分
裏行十四間　(三十一貫目)
代享保銀セシイ〆〆
右三ケ所両町南北続屋敷也
高麗橋三町目両替店地面
表口九間半三寸五歩　源右衛門様御名前　御持分
裏行弐拾間　(三十八貫目)
代二宝銀マシチ〆〆
本鞦町本店地尻
表口弐間　八郎右衛門様御名前　元方持
裏行十三間三尺　(五貫九十匁)
但本店地面并右鞦町地尻共一ケ年地代サ〆ウシ〆
玉水町浜側
表口四間四尺　次郎右衛門様御名前　元方持
裏行七間

但右弐ヶ所続屋敷
京町堀四町目
表口三拾四間　元五郎様御名前　元方持
裏行二十間
備後町四町目
表口八間　次郎右衛門様御名前　元方持
裏行二十間

右之通追々致見分候処、四郎兵衛町家守支配兼居申候笠屋五郎兵衛と申者、右借家之内中之通南側殊之外及大破候間、建直シ候ハヽ借人可有之、且西浜側之所貸蔵建候ハヽ余程蔵敷上り可申候間、何卒及相談呉候様相願罷在候

二月十四日　晴天　金サシサヽウ入セ厘　銭ウヽセ入チ厘　肥後米サシエヽウ入　昼チ入サ厘

一江戸両替店ゟ二月六日出書状到着、今六日午刻過小石川白山御殿前ゟ出火、乾風強大火ニ相成、火口数ヶ所ニ而焼立、町方、御簾本様方、丸山阿部様、小石川右京様御屋敷焼、春日町ゟ水道橋牧野遠江守様御屋敷其外御屋敷方、小笠原様御屋敷、御簾本様方桜馬場火消屋敷ニ而火留ル、一方は丸山ゟ菊坂元町、御茶之水、本郷二町目、壱町目、湯島六町目焼、大根畑廿二日之焼残場所と一所ニ相成、戌刻前火鎮り申候、長サ凡壱里、余巾一町位ゟ六七八町位も可有之候、委細之儀は相知レ不申候、尤右出火西北風強、店表近辺江糞灰吹来り、小石川辺風下ニ而御屋敷方女中立退被申、町方も同様店表通り通り被申候付、店表も不残相仕舞申候、右同刻本材木町五町目中程河岸通りゟ出火有之、是者四五軒焼火鎮り申候段為申登候

一八郎兵衛様御儀当地御用向ニ付明後十六日夕舟ニ御下り被遊候間用意可被致旨、右御台所并京両替店ゟも案内申来り候、依之奥向掃除等申付置候

一京都ゟ内番状ヲ以杉本久次郎、竹内文次郎御用有之候間為差登可申旨、乍然両人共御用方相勤申候付、先久次郎計罷登り、文次郎儀者久次郎帰坂之上為差登可申段申来り候、依之今夕舟ニ久次郎一人罷登ル

二月十五日　晴天　金サシサヽチ入マツ厘　銭ウヽセ入カエ厘　肥後米湿槃ニ付休日　昼チ入サ厘
夕方ゟ純天

一今日相記候用向無之候、但天王寺江参詣ス

二月十六日　純天　金サシサヽウ入マ厘　銭ウヽセ入チ厘　肥後米右同断　昼同断
折々小雨

一今朝御為替銀請取文次郎罷出ル、左之通
（九十二貫五百目）　チシカ〆サ舟ヽ　十人組
ウシセ〆サ舟ヽ　手前　セシイ〆ヽ　上田組
（二百貫目）　（二十貫目）
〆銀セ舟〆ヽ渡り高　内小玉セシ〆ヽ有　上納五月十八日
右割合之通無故障請取申候

一京本店田中嘉右衛門当地本店用向ニ付、昨夕舟ニ罷下り候由ニ而入来、依之為挨拶岡田喜三郎罷越ス

二月十七日雨天　金サシサヽウ入カエ厘　昼ウ入サ厘　銭ウヽセ入チウ厘　肥後米サシエヽサ入
暮半時ゟ快晴

一八郎兵衛様御儀、昨夕舟ニ御出坂、舟中無御故障昨夜八ツ時過両替店江御着坂被遊候、御供木村利兵衛　中村文三郎

但御着舟中ゟ御案内有之候得者、支配人一人舟場迄御出迎申上ル、扨両替店御着之節、後見役已上店詰合之分玄関迄罷出ル、通勤支配已下組頭迄玄関前土間江出迎、夫ゟ奥江御通り被遊候上、何れも罷出御着坂御悦申上ル仕来り之由、依之勤番孫七郎玄関迄御出迎申上候、井口、山中者夜中之儀ニ付罷出不申、翌朝御着坂御悦申上ル

一当地本店奥村次右衛門殿、中西庄右衛門殿、清水藤兵衛殿、支配人一人組頭一人、且京本店田中嘉右衛門殿御着為御悦両替店江被参、八郎兵衛様御逢被遊候事、右之節奥村氏、孫七郎、孫兵衛江今夕於本店御寄合御座候間、両人共出座可致旨、尤暮時過猶又案内可有之段被申聞候、依之承知之旨及返答置

一昨十六日於京都月並御寄会之上左之通

一京両替店　是迄支配役　寺井瀬兵衛
一大坂両替店　右同断　杉本久次郎　此度上京ス

右両人此度通勤支配役望性銀等被仰渡候

一京両替店　是迄組頭役定次郎事　乾市右衛門
一右同断　右同断　松野安次郎
一大坂両替店　右同断　竹内文次郎　此度不罷登追而為御礼上京之積り也

右三人此度支配役被仰付候

一京両替店　是迄組頭格　桑孫次郎

右此度組頭本役被仰付候

一糸店　是迄組頭格　平井吉兵衛

右此度組頭本役被仰付候

一間之町店　是迄組頭役　高橋善兵衛

右此度支配役被仰付候

一右同断　右同断　伊東弥助

右此度支配格被仰付候

一京両替店　是迄支配役　前川多十郎

右年来無滞相勤申候処、持病度々差発難相勤御座候付、御暇之願差出申候、誠無拠趣ニ相聞得候付、願之通首尾能御暇、望性銀等被仰付候

右之通何れも結構被仰渡候段、京都店ゟ通達有之候、依之当時八郎兵衛様御逗留被遊候付、深井、井口、山中共御礼申上候、尤竹内文次郎自分御役替御礼申上候事

一爰元店杉本久次郎、竹内文次郎儀此度御役替被仰付候付、諸向御礼状之儀、久次郎者上京ニ付彼地主中様方并店々且当役中江御礼相廻り相済申候、依之文次郎御礼状之儀、京都主中様方御

連名宛壱通、本店筋当役中惣宛一通、両替店筋惣宛壱通、右三通計為差登申候、尤江戸并松坂江之御礼状之儀者竹内氏共京都御役替之衆中連名ニして差下相済申候由、杉本久次郎方ゟ喜三郎文次郎江申越候、依之文次郎御礼状者京都江三通差登せ候計ニ而、江戸、松坂江者指下不申候、尤当地本店并当役中江今日御礼相廻申候事

一爰元店諸帳面着坂已後致一覧、猶又是迄之仕法等承り候処、何角入組候仕方ニ而、容易ニ相分り兼申候、然ル処、当店支配組頭者勿論、平手代并子供且出入方之面々ニ至迄夥敷塞り銀相見得申候、尤当店退役之衆中も同様之儀ニ付、向後相改可申と并口、山中江も及内談、存寄之趣別帳面ヲ以京都店江今夕孫七郎方ゟ為差登申候、尤右帳面扣別ニ有之写略ス

一八郎兵衛様御儀今日本店ゟ天満天神江御参詣被遊、無程御帰店被遊候

一杉本、竹内御役替被仰付候付立寄会有之、店惣中江申達候事

但暮早々也

一今夕本店御寄会江八郎兵衛様御出勤被遊候、尤暮時過本店ゟ若キ者店相片付候間、御出勤被成下候様案内申来り候上御出被遊候事

一右御寄合江孫七郎、孫兵衛引続罷越候処、本店役人一通り挨拶有之、直ニ二階江案内有之、右於席御役替并年褒美等被仰渡候、則御役替左之通

是迄組頭
奥田吉太郎　支配役

是迄役頭
古森幸右衛門
民谷藤次郎　組頭役

是迄平
千葉善次郎
市川文蔵
村山勘助　上座役

是迄支配役
小畠久兵衛
規矩文兵衛　首尾能御暇
望性銀被仰渡候

右之通被仰渡相済候而、夫ゟ惣中江年褒美被仰付候、尤人数十弐三人程宛五六段ニ罷出ル、右相済候上八郎兵衛様御一方二階ニ而御夜食差上、孫七郎、孫兵衛、京本店田中嘉右衛門三人は賄方ニ而夜食出ル　向　鯛切重　小鳥たゝき　岩茸　葛切　平□□ほうせん　いりこ　すくい玉子　しいたけ　汁たいらき　ちさ　いり酒　焼物小鯛

右之通差出被申、何れも一通り挨拶有之、無程又々八郎兵衛様御立会本店惣中於会所御寄会有之ル、依之孫七郎、孫兵衛者勝手次第無挨拶引取ル、尤後之御寄会江者両人共出座不致候

二月十八日　朝之内天気　九ツ過ゟ雨降　夜中雨天　彼岸入　金サシカゝセマ厘　銭ウゝセ入ツサ厘　昼カゝイ入　肥後米休日

一八郎兵衛様御儀今早朝ゟ角芝居江御出被遊候

一本店次右衛門殿、庄右衛門殿、藤兵衛殿并昨夜御役替御暇等被仰渡候面々共為御礼不残入来

一両替店筋御役替被仰付候為悦、本店別宅衆中并支配人中共入来

但田中嘉右衛門殿も入来

一本店江昨夜之挨拶且御役替被仰付候面々江悦旁孫七郎、孫兵衛罷越ス、半兵衛喜三郎も罷越ス

一中井敬純百ケ日ニ付店ゟ西方寺江壱人参詣可致処、無人ニ付幸方江断申遣ス

二月十九日終日雨天　金サシサヽウ入ツサ厘　昼チ入サ厘　銭ウヽセ入カ厘　肥後米サシエヽチ入

一今朝坂崎江両替仲間組々行司罷出候様、昨夜申来り候付、則罷越候処左之通

一旧冬小判弐朱判無差別致通用候様猶又被仰渡候付、弐朱判継賃之儀相伺候処、右継賃表立相究候儀者御差支之儀御座候間、取渡之節銘々可為対談次第旨被仰渡候間、此段相心得可申旨

右之通申通有之候付、手前組合江右之趣廻文ヲ以申達候事

一八郎兵衛様今日本店江御出、無程御帰り被遊候

一高麗橋三町目町内申合左之通

番人廻り方覚

一割竹三度　立番三人

一金棒三度　立番三人

一りん一度　自身番

直廻り

但たゝき番夜半ゟ八ツ迄之間一度、尤風吹候節者不限一度ニ候事

一かね一度　自身番

借屋衆廻り

一金棒一度　垣外番

右之通一時ニ九度宛宵ゟ明六ツ時迄無滞入念相廻り候様申付候間、其度毎札御受取可被成候、以上

天明四辰十月十九日　年寄　月行司

一八郎兵衛様御儀当地御用向相済候付、天気次第明朝御乗船御帰京被遊候御積りニ付、本店奥村次右衛門殿御暇乞被申上候、尤右之趣京都江も申遣

二月廿日朝之内天気　其後小雨降　風立晴　金サシサヽウ入サ厘　昼ウ入　銭ウヽセ入エ厘　肥後米エシサヽセ入

一八郎兵衛様御儀今朝六ツ時御乗船御帰京被遊候、尤為御暇乞本店ゟ支配人壱人、組頭一人罷越ス、本店、両替店、別宅御暇乞罷出候儀御用捨之御使被遣候処、其内井口、山中者致出店候付店於玄関御暇乞申上ル、支配人者同土間ニ而御暇乞申上、夫ゟ御舟場迄御見立申也、且御供木村利平次者道明寺御代参被仰付参詣、今夕舟歟明昼舟ニ帰京之積ニ候

一当月御月番小田切土佐守様、寺尾善左衛門様、下シ番十人組ニ候

一昨日西御役所融通掛りゟ今日四ツ時罷出候様口上ニ而申来り候付、即刻森氏江為内聞文次郎罷越候処、早速御逢被成候付、右之趣申達内々相尋候処、気遣成義曽而無之候、是者極内々之儀ニ有之候、次郎右衛門殿方ハ最早相済有之趣ニ御座候、明日表方ゟ申渡方之儀何そ相替候儀有之候ハヽ可被申聞候、先日被差

出候願書ニ而随分宜候得共、旦那被申候者是迄別紙書付之通御用向多ク相勤罷在候付而者、此度之御趣意猶更難有奉存、少金ニても奉差上度奉存候得共、近来不繰合ニ付乍恐御断奉申上候、御憐愍ヲ以御赦免被成下候様と書加江可然旨被申聞候、就夫先日申入候於江戸表最早御手入も可有之歟ニ候得共、格別其儀ニも及申間敷候、兎角此上者御物入無数様致進度旨懇ニ被申聞候、依之程能御礼申上退出ス、扨今廿日西御役所江文次郎罷出候処融通掛り安井新十郎殿御逢、去ル十日被差出候願書之趣ニ而随分宜候得共、御用向数十ケ所被相勤候付而者格別ニ相進ミ、縦少金ニ而も奉差上候筈と申儀被書加可然、尤趣意ニ相替儀無之旨御申聞、此間差上候願書者御差戻シ被成、改下書御渡右之通相認明日差上候様被申聞、例書者御差戻シ不被成候、依之久次郎乍当分不快罷在候段申上候処、左候ハヽ文次郎印形ニ而差上可申旨被申聞候付、御請申上置候、尤右御下書者明日本紙と一所ニ差上可申旨至極柔和ニ被申聞候、右相済候上即刻森印江文次郎罷越懸御目、程能及挨拶候処、昨日御内々御咄申候通り候得は、右下書之通御認出候ハヽ無滞相済可申候間、必々気遣致間敷旨御申聞被成候、尤森氏方ニてハ久次郎俄ニ無拠内用有之、上京仕候段申上置候、右之通之趣ニ御座候得は、無程相済可申哉ニ付、江戸表手入ニも及申間敷哉之旨京都店江委細及通達候一森氏御内証京都ゟ一昨日御帰坂被成候付、今日為悦生肴一折久次郎、文次郎ゟ差送り申候、尤於京都御逗留中芝居并知恩院町於抱屋敷振舞申候段申来り候

一今初夜前店門口江侍壱人被参、番頭江内々相尋度儀有之候、尤町内会所ニ而も逢可申候得共、夫ニてハ表向ニ相成迷惑候間、外方ニ而蜜談申度旨被申聞候、其節表ニ庄助居合、外方ニ而御面談申上候も如何ニ有之候、不苦候間御通り被成候様申取、店於玄関懸御目候処被仰聞候者、一昨年正月当町内江男子捨有之候処、右捨子爰元世話ニ而相片付被申候由内々及承候、右者何方江相片付被申候哉、今ニ無難罷在候哉、右捨子実籏本之粋ニ有之候得共、無拠訳有之一旦捨候得共、此節右之様子ニ寄引戻シ申度候付、極蜜右之者居所相尋申候間、片付向委細申聞呉候様被申聞候付、則其節之扣帳操出し、御役所江之届方并相片付候向方は津村東之町俵屋九兵衛借屋近江屋忠兵衛と申者方江相片付申、右請人者備中屋七兵衛と申者、右両人之証文取之相片付、則御役所へも右之趣御届申上候段相咄申候処、彼地世話ニ相成候旨被申聞、右片付先名所覚書被致、罷帰り被申候事

二月廿一日　晴天　風立　昼七ツ過雪降

金サシサヽエ入チ厘
銭ウヽセ入チウ厘
肥後米休日

一融通筋願書昨日之御下書之通相認、今日西御役所江文次郎持参、御懸り松井官左衛門殿、安井氏江懸御目、猶又口上取繕、右願書并御下書共差出候処御請取、今日者殿様御留守ニ候間差上置罷帰り可申旨被仰聞候付、猶又程能及挨拶引取申候、夫ゟ森氏江

も致参上候処御客来有之様子ニ付一通り申置罷帰り申候、尤右願書例書者別ニ扣有之写取略之ス

二月廿二日　天気　昼八ツ時ゟ折々雪降余寒強　金サシサヽカ入ウ厘　銭ウヽセ入チウ厘　肥後米休日

一杉本久次郎御用向相済、昨夕舟ニ罷帰り今朝無難致着候、右之節竹内文次郎御役替被仰渡御書付持帰り候付、則今夕立会右御書付一通文次郎江相達候、尤右同人為御礼上京之儀此節無人ニも有之候付、追而御用向有之候節上京、其節御礼申上此度罷登り候ニは不及申、此間御礼為差登候付、右ニ而相済可申旨昨夕内番状ヲ以申来り候付、同人為差登候儀相止申候、則右之趣文次郎江申聞せ候

一杉本久次郎此度於京都御役替被仰渡、今日致帰坂候付、当地本店初其外別宅之衆中江為御礼相廻り申候

一今日天王寺江参詣ス

二月廿三日　天気　余寒強　金サシサヽカ入マツ厘　銭ウヽセ入サカ厘　肥後米サシエヽエ入　昼同事

一今朝御為替銀為請取文次郎罷出左之通

（九十二貫五百目）ウシセ〆サ舟ヽ　手前　（八十六貫五百目）チシカ〆サ舟ヽ　十人組
（二十一貫目）セシイ〆ヽ　上田組
（二百貫目）〆銀野舟〆ヽ渡り高　小玉セシ〆ヽ共（二十貫目）　上納五月廿六日

一右同日清水御為替左之通

（四十六貫目）ツシカ〆ヽ　手前　（四十三貫五百目）ツシマ〆サ舟ヽ　十人組
（十貫五百目）シ〆サ舟ヽ　上田組
（百貫目）〆銀舟〆ヽ　渡り高　小玉シ〆ヽ共（十貫目）　上納右同断

右割合之通無故障請取申候

一融通筋願書一昨日相納候付、其節森印江文次郎為挨拶罷越候処、御客来有之懸御目不申候ニ付、猶又今日参上懸御目及挨拶候処、一昨日差上候願書ニ而随分相済可申候、扨先日之願書并例書とも江戸表江御伺被遣仰候得共、其元之儀別而年来数十ケ条御用向被相勤候事ニ候得者、此度之御用金不被仰付候様取繕、此方ゟ落着致遣候故、最早被仰付候儀決而有之間敷候間、致安心候様、且又此間も申入候通、何れニ於江戸表御手入ニも及申間敷、兎角失壁無之様致進度候間、此段京都へも可然可申遣、将又右之通ニ而大方済寄候間、乍御太儀為挨拶瀬兵衛殿毎ニても罷下り被申可然存候、尤此儀拙者ゟも一両日中可申遣候得共、猶又宜可及通達旨、呉々懇意被申聞候付、程能御礼申上退出ス

一上田方於江戸表手入之儀内々承合候処、森氏ゟ御差図者無之候得共、於彼地和泉印様江両度内意相伺、御肴等も差上候得共御請不被遊御戻シ被遊候、尤御用人衆被申聞候者、此度之一件其元方江者不被仰付相済可申旨、旦那被申候段被申聞候旨相咄申候、将又右ニ付上田方ゟ佐印様江之上ケ物其外音信等之儀内々相尋試候処、是者弥御聴済有之候上、殿様奉始森印者勿論、御

懸り与力衆へも差送り申積、尤安印ハ随分気ヲ付可申、松井、安東両氏ハ致同様差送り可申、併手前、上田同様も如何可有之候間、此儀者猶致勘弁熟談致可申旨申聞候

一右之通之趣ニ付、今夕京都江委細及通達候、尤瀬兵衛殿罷下り被申候儀、本店者勿論、当店筋之挨拶も差含罷下り可被申候、左候ハヽ当店筋之儀得と相片付申候上ニ而出坂可然哉之段申遣候、若森氏ゟ寺井氏出坂之儀申参り候共、右之趣差含味合能返書ニ可被及旨為申登候

二月廿四日　晴天　金サシサヽカ入マツ厘　昼カ入サ厘
少暖気成　銭ウヽセ入チ厘
肥後米サシエヽチ入

一南都御役所御為替被仰付、上田方当番ニ付罷越候処今日渡、左之通

（三貫四百九十匁九分三厘一毛）
マ〆ツ舟ウシヽウ入マ厘ィ毛　十人組
外カヽウ入チ厘セ毛入目
（八百匁）
チ舟ヽ　上田組
外イヽカ入　入目

三十年賦御取立
〆銀エ〆チ舟ウシヽウ入マ厘ィ毛渡り高上納五月廿六日
外シサヽウ入チ厘セ毛　入目

（一貫二百目）
一イ〆セ舟ヽ　手前
外セヽツ入入目

（一貫二百七匁五分八厘四毛）
イ〆セ舟エヽサ入チ厘ツ毛　十人組
外セヽツ入イ厘サ毛入目
（三百目）
マ舟ヽ　上田組
外カ入　入目

御貸付之利
〆銀セ〆エ舟エヽサ入チ厘ツ毛渡り高上納　右同日

外サヽツ入ィ厘サ毛　入目
右之通無故障請取割合申候

二月廿五日　晴天暖気　金サシサヽカ入セマ厘　昼カ入イ厘
銭ウヽセ入ウ厘
肥後米サシエヽウ入

一今日道明寺江店代参兼帯ニ而孫七郎参詣ス

一天神講今日相勤候、尤是迄夜食ニ而家督并退役衆中江廻文ヲ以為知遣候得共、此度ゟ相改天神講、影待共中食ニ相改、尤家督退役衆中江之廻文も相止申候、乍然折節参合被申居候ハヽ格別之事、但献立是迄之通　汁（わかめ）　平（揚とうふ）　守口大根（からし）　茶食　酒有

二月廿六日　五ツ過ゟ雨降　金サシサヽツ入イ厘　昼マ入サ厘
銭ウヽセ入サカ厘
肥後米サシエヽエ入

一二月八日昼日光山出火有之、坊中之内四拾六院并町家も少々焼失致候由、且久能山御供所も此間致焼失候風聞有之候旨江戸店状ゟ申来候

二月廿七日　雨天　金サシサヽセ入サカ厘
銭ウヽセ入サカ厘
米相場休日

一京都店ゟ爰元店取〆り方一件返書并取調へ方帳面等今日致到着候付、則今夕致寄会、支配人中者勿論、惣若キ者江京都差図之趣立会、夫々申渡候事

二月廿八日　雨降　金サシツヽウ入サ厘　昼ヱ入
銭ウヽセ入セ厘
暮時過雨止　米相庭休日

一融通筋一件於江戸表和泉橋小日印江内意等申込、和泉橋江願書差上候処御聞請宜、此上は大坂表ゟ之御通達次第無故障相済可申候旨被仰聞候段、江戸店ゟ京都店江通達有之候付、則右通達状今日京都店ゟ爰元店江下ル

二月廿九日　快晴（ママ）　金サシツヽウ入
銭ウヽセ入セマ厘
米休日

一宗十郎様御妹御喜勢様御儀、今般一融様ゟ小野田宗休老方江被進、右之方ゟ竹井東蔵方江被嫁（ママ）付、当月十六日婚礼相済申候旨当地本店并京店ゟも申来り候付、竹井東蔵方江計歓状相認、今夕京店江向為差登申候

二月晦日　雨天　金サシツヽチ入ツサ厘　昼サヽセ厘
銭ウヽセ入マツ厘
米休日

一今暁六ツ時前伏見堀西両国町浜納屋一ケ所焼失、早速相鎮り申候

三月朔日　朝之内小雨
昼時ゟ先晴
夜中雨降　金サシツヽウ入ゟサヽ
銭ウヽイ入チウ厘ゟセ入
米休日

一周防紅花三十丸質入置主富島二町目肥前屋七兵衛、請人右同町阿波屋三郎右衛門方ゟ申来、尤一丸ニ付凡八貫目入、右引当百目ニ付ツヽサ入之積、当時直打サヽカ入位之由、入目高シ〆ヽ迄（四匁五分）（五匁六分）（十貫目）右之趣申来り候付、京都店へも聴合之儀今夕申遣候

一当月御月番佐野備後守様御金奉行酒井与左衛門様下シ番手前也

一長堀平野屋又兵衛久々病気有之候処、養生不相叶昨夜致死去候段、子息五十川源太郎ゟ為相知候

一今朝料理方猪口鱠大根花鰹　平午尻（こもふ）小いも　汁よめな

一右同所　昼　汁三つ菜　焼物はまち醤油□り　夜分酒有　肴長いも飯たこ　ほら小串

三月二日　雨降　金サシサヽイ入サエ厘
銭ウヽイ入サ厘ゟセ入
米休日

一今日相記候儀無之候

三月三日　朝之内晴
九ツ時ゟ小雨
夜中風立　諸相庭休日

一今朝御礼御両殿并御家中、御金方且天満与力衆へ久次郎、文次郎罷出候、尤上ケ物なし、御城代御中屋敷并御家中江者久次郎罷出候、且笠間御屋敷江者文次郎罷出候

一今日御礼孫七郎本店并井口、山中宅へも罷越候、尤兼而申合脇差羽織ニ而上下着用ニ不及候由

一今朝料理方　鱠大根あさつき　平湯とうふあんかけ　汁常之通
汁はまくり　平鯛山丹め　酒有肴なし

一右同所昼赤飯

三月四日朝之内鈍天（ママ）　昼時過ゟ晴　風立其後小雨　金サシサヽゟイセ厘　銭ウヽイ入ゟイ厘　昼ツヽウ入サ厘　米休日

一今日相記候儀無之候、御触有之京都江登ス

三月五日　雨降　金サシツヽチ入サチ厘　銭ウヽエチ厘　昼エ入　肥後米サシウヽエ入　夜中共

一今朝御為替銀為請取久次郎罷出左之通

（九十二貫五百目）ウシセ〆サ舟ヽ　手前　（八十六貫五百目）チシカ〆サ舟ヽ　十人組　（二十一貫目）セシイ〆ヽ　上田組　（二百貫目）〆銀セ舟〆ヽ　渡り高　（二十貫目）〆ヽ　小玉セシ〆ヽ　上納六月六日

右割合之通無故障請取申候

三月六日　朝之内小雨　昼時過ゟ天気　金サシツヽツ入サ厘ゟサ入　銭ウヽ也　肥後米休日　昼休

一今夕店寄会相勤左之通

一岡田喜三郎遣過銀之内江御役料一割通り宛半季毎返納、猶其上ニも随分出情相納候様猶又申渡、右之趣請書取之置候

一竹内文次郎遣過銀且宿元拝借銀等之儀ニ付猶又急度申付、則絹并文次郎連名請書取之置候

一岡田彦次郎遣過銀（二貫九百三十匁一分一）セ〆ウ舟マシヽイ入イ厘、右同人ゟ外方江貸銀有之候付、右之内ヲ以此度為相済候、且右之者居所家守役ニ付無宿料ニ而相住居申候、依之此度相改外並ニ宿料申付候、将又右同人雇料是迄半季ニ銀カシヽ（六十匁）宛遣し候得共、已来相改半季毎銀舟チシヽ（百八十匁）宛遣候段申渡、則右等之訳書一札取之置候

一店若キ者九人共遣過銀償之儀者是迄年々被下候褒美銀致差引、残銀済方之儀者年々被下置候銘々小遣銀之内、半季毎一割通り引之相渡候段、猶又改申渡、則右九人連判請書取之置候、尤右之内中井嘉十郎儀者右年褒美致差引、残銀之儀者直ニ表江付出シ、右同人差引口ニ而致勘定相済申候

一三好門兵衛貸銀五口ニ而都合シイ〆マ舟チシイヽサ入マ厘（十一貫三百八十一匁五分三）無引当ニ而貸シ有之候、右済方一向手段無之候付、不得止事今午年ゟ無利足二十ケ年賦返納之積り一ケ年カ舟ヽと（六百匁）相定、三五七九十極月六度ニ銀舟ヽ宛節季急度返納可致、尤（百匁）醤油代銀有之候ハヽ右舟ヽ之内江引継可遣候間、舟ヽゟ内（百匁）之醤油代銀ニ有之候ハヽ残銀其即日無間違持参、右六季毎ニ銀舟ヽ宛、外ニ如何様之難渋有之候共、其無頓着急度可致返納旨申渡、則右之趣承知一札取之置候、且右之外故三好又次郎貸イ〆マ舟サシカヽ（但渡辺甚兵衛事（二貫三百五十六匁））店帳面ニ記有之候付、相糺候処、右之者存生之中拝借有之候儀及承不申候段申之候、然レ共、外ニ引請可相済筋合之仁無之候間、其元引請前件年賦銀相済候上、右イ〆マ舟サシカヽ（二貫三百五十六匁）之口済方可致旨申付、則右請書之追加ニ右之訳も為相認置候、将又当時存生三好又次郎過上銀舟イヽ（百一匁）済残有之候間、其元ゟ伏見右之者住居

江引合、右銀高急々相納可申、若不承知候ハヽ、其元ゟ取替急度相納可申段申渡遣候

一小野平五郎遣過残銀セ〆サ舟カシウヽ有之、無利年賦済之姿ニ相成有之候、右之者儀当時質物致商売、既店表江久留米御屋敷貸銀高セシ〆ヽ之証文差入、銀高シ〆ヽ迄利足月サ朱之懸合ヲ以通帳ニ而致取引遣候得は、右遣過残銀迚無利年賦ニ而済遣し候儀、当り障り之儀も有之候付、難相成候間、右過上銀之分当時不残可致返納候、其儀難相成候ハヽ、右遣過残銀高も改商売同様通帳江付出シ、利足之儀も是迄月サ朱ニ候得共、向後相改月カ朱之積りヲ以懸合可申候、勿論先納相成候時者店表ゟ不及申利足相払不申候、右之通定ニ而其元商売勝手ニも相成候ハヽ、致取引可遣候、若右之趣不承知候ハヽ、店表ゟ勤メ候筋ニてハ無之候、其元勝手次第可被致候段申渡候処、私儀御店ゟ御取引不被成候ハヽ而者世間躰見込悪敷、商売方甚差支ニ相成難渋仕候、此度万端御仕法相改候段も承知仕候得者、右被仰渡候趣御請申上候間不相替御取引被成下候様申之候付、猶又聢と申渡置候、則右件遣過銀セ〆サ舟カシウヽ改通帳江為相記、向後月カ朱之差加年々請取遣候積対談相済申候

一岸本安次郎方当時貸シ方ハ無之候得共、全体久留米御屋敷江加入銀セシ〆ヽ有之、右証文店表江預り、安次郎方入用之節ハ通帳ヲ以利足ニ不抱取替遣し来り候由ニ候得共、已来相改右セシ〆之加入銀相白眼銀高シ〆ヽ迄者利足月カ朱之積双方ゟ懸合、是迄之通通帳ヲ以致取引遣候積、右同人并世話人小野平五郎江も申渡、則右之趣改証文取置申候

一岡田金兵衛方江両国町居宅引当銀高エ〆サ舟ヽ利足月ツヽサ入之積りヲ以取替遣、右之外ニ銀セ舟ウシヽカ厘当座差引尻貸ニ相成有之候、然ル処右両国町家屋敷引当此節不丈夫ニ有之候付、今夕金兵衛店表江相招無何角此度店表仕法万端相改候間、右銀高外方ニ而振替、当座貸セ舟ウシヽカ厘共一先可被致返済旨申渡候処、承知之段申之候付、猶又得と申談遣候

一出入方之者、当三月前払銀之内ニ而左之通

一和勢屋新兵衛二口合イ〆カ舟サシツヽ之内此度セシヽ引

一和勢屋仁兵衛舟ツシヽ之内此度セシヽ引落ス

一津国屋十助イ〆ヽ之内江此度サシヽ引落ス

一出入佐兵衛サシヽイ入之内江此度シヽ引落ス

一出入又兵衛舟マシサヽ之内江此度セシヽ引落ス

一出入利兵衛チシセヽマ厘之内江此度シヽ引落ス

一出入平兵衛舟チシセヽ之内江此度サヽ引落ス

一出入幸七ツ舟チシヽ之内江此度舟チシヽ引落ス

一出入儀兵衛セ舟ツシヽ之内江此度シヽ引落ス

一出入卯兵衛マ舟サシヽ之内江此度シヽ引落ス

一天満屋吉兵衛セ舟ゝ之内江此度セシゝ引落ス（二百匁）（二十匁）
〆銀マ舟サシサゝ　当三月節季銘々引落高（三百五十五匁）

右之外当座貸有之分対談之上致差引相渡ス

一此度於藤次寺京都小野御殿弘法大師開帳有之候付、寄附相頼申度由ニ而、藤次寺并小野御殿役人両人同道扇子弐本持参、米袋百寄附相頼被申候、尤本店江も同様持参相頼被申候由、依之猶本店江も申談可及返答旨申遣候、右米袋凡四五合入と相見得申候

三月七日　晴天　金サシマゝサ入サ厘　銭チゝウ入サエ厘　肥後米サシエゝ　昼マゝマ入

一太田俔校（ママ）殿今日出坂、津久井氏方ニ被致逗留候付、孫兵衛、文次郎ゟ生肴一折差送り、猶又文次郎御見舞申候処、俔校（ママ）殿ニも為挨拶御入来被成候

一紅花質之儀京都聞合返答有之候付、猶又於当地承合候処、全体右置主気質不宜候由、先達而も妖（カ）敷荷物致取扱及出入候儀有之旨承之候付、程能断申遣候

三月八日　晴天　金サシマゝセ入　銭チゝウ入サ厘　肥後米サシエゝ　昼セゝマ入

一京都ゟ本状到来、昨七日夜糸店御寄会之上、同所平頭中村嘉助儀此度組頭内格ニ被仰付候段申来ル

一佐々木左京殿去冬ゟ丸亀江被参、今日帰坂、店表江入来、直ニ今夕舟ニ而被致帰郷候由、尤最早京都江者立寄不被申候旨被申聞候

一中西登那并右一家渡辺新右衛門悴新三郎店表江相招、中西方拝借銀エ〆サ舟ゝ并外ニ当座貸差引残銀ツ〆エゝ有之候付、右弐口共返済方之儀彼是相談申候処、兎角不繰合難渋而已申双（ママ）猶予之儀相願申候、依之色々押合候上エ〆サ舟ゝ之方当時サ舟ゝ元済為致、残銀エ〆ゝヲ是迄之通月サ朱之利付ニ而今年ゟ一ケ年セ舟サシゝ宛元入為致、且ツ〆エゝ之方も半銀エゝ当時請取、残銀ツ〆ゝヲ無利足一ケ年セ舟サシゝ宛年々無相違右両口共相済可被申候旨申渡候処、漸承知之致返答候付、則右之趣請書取之相済申候、尤前件ツ〆ゝ之口皆納、翌年ゟエ〆ゝ之口江元済セ舟サシゝ相増、一ケ年サ舟ゝ宛相納候様、猶又申渡被致承知候（七貫五百目）（四貫七匁）（七貫五百目）（七貫五百目）（五百目）（五厘）（四貫七匁）（七匁）（二百五十匁）（四貫目）（七貫目）（四貫目）（五百目）（二百五十匁）

三月九日　晴天　金サシゝウ入ウ厘ゟイゝ　銭チゝチ入チウ厘　肥後米サシエゝ

一新田目録出来ニ付為押切今日同所支配人弥助、利平次出坂、目録押切相済、但延銀マ〆ツ舟ツシエゝエ入イ厘（三貫四百四十七匁七分一）

一右目録尻銀子持参候哉と孫七郎相尋候処、当時銀子有合不申候付通帳致持参候間、相記呉候様申聞候付、夫者一向不相済仕方ニ候、先頃ゟも申入候通下地通帳貸尻シマ〆ゝ余当店利まといニ相成候間、追々入銀被致候様申談置候処、目録計持参、銀子不被相納目録尻マ〆ツ舟ゝ余ヲ下地之姿ニ通帳江貸シニ付置候（十三貫目）（三貫四百目）

得者、又候夫丈爰元店利まとい相増申候、此間も申入候通、向後聊之儀ニても通帳へ付増之儀者曽而相成不申候間、此度之目録尻マ〻ツ舟丶余、且先月九日京都持登り為替銀代りセ〻丶余(三貫四百目)(二貫目)先右之弐口正銀急々相納可被申候、無左候半而者京都江目録為差登不申候、且右ニ限り候儀ニて者無之候、銘々自分貸シも彼是余程有之候、是等迚も同様之事ニ候間随分被致工面一度ニハ出来申間敷候間、追々返済可被致候、不及申向後之所ハ一銭目之儀ニても貸増相成不申候間、此段相心得被申、先当目録尻并先月京都持登り為替之代り銀急々未進取立相納可被申候、何れニも右目録尻マ〻ツ舟丶余正銀差入不被申内者京都店江目録為差登不申候、急々相納可被申候、且右ニ限り不申当時通帳シマ〻チ舟丶余之内へも年々一弐割程宛致返済被申連々相済候様、且自分貸シ之分も随分出情追々返済可被致候、右之通申渡候迚俄新田目録是迄ゟ相減シ候様成取計方ニて者猶更相済不申候間、此段心得違不被致専倹約ヲ以建方急度相改可被申旨申渡候処致承知、猶罷帰り利作江も申聞返答可致段、両人共申之候、(十三貫八百目)(七、八百目)将又右之節樋普請入用銀エチ舟丶も相懸り可申旨ニ而、則書付差出し申候付、京都店江申遣跡ゟ可及返答旨申遣置、右書付京都江為差登申候

一京都店ゟ本状ヲ以、当八日晩間之町店御寄合之上、同所平頭福田新助と申者組頭内格被仰付候旨申来り候

一江戸状致到着候処、先月廿九日於御勘定所被仰出候者臨時御入用御座候由ニ而、弐朱判イ万サ仙両、日数六十日限江戸御金蔵江相納可申旨被仰渡、右御添簡当月朔日御渡被遊候処、道中川支ニ而今日致到着候、依之右御状早速於御月番吉野勝之助殿江久次郎持参、直ニ差上御渡方之儀相伺候処、来ル十六日ゟ金高野仙サ舟両宛六建ニ御渡可被下段被仰渡候(一)(五千)(二千五百)

三月十日　晴天　金サシマヽエ入　昼マヽ
銭ウヽマツ厘
肥後米サシエヽサ入

一今日江戸状致到着候処、上野宮様当三日御発輿被為成、当月十七日御着座之御積御上落(マヽ)被為在候段申来り候、且又先月廿八日山田御奉行山田肥後守様御儀大御目付、山田御奉行江御目付野一色頼母様、西御丸小十人頭井上助之進様御目付江、御徒頭川野十兵衛様西御丸御目付江、西御丸御書院番頭岡野備中守様御組間宮友三郎様御徒頭江、御寄会長田摂津守様西御丸小十人頭江、右之通被仰付候段申来り候

三月十一日　晴天　金サシマヽマ入
銭チヽチ入
肥後米サシエヽセ入

一今日相記候儀無之候

三月十二日　晴天　金サシイヽサ入ゟセヽ　昼セヽ
銭チヽウ入セマ厘
肥後米サシエヽサ入
夜中小雨

一爰元店支配已下若キ者遣過銀取調ヘ、其外当店退役中取替銀、且諸出入方取替銀等取調ヘ方今日迄ニ対談相片付候分、下地京都江為差登候帳面江又々附紙并下ケ札等いたし、今夕為差登申候

三月十三日　雨降　金サシセヽチ入ゟマヽ　昼セヽチ厘　銭チヽウ入エチ厘　肥後米サシエヽマ入

一宗慶様十三回忌正当ニ付、今日於西方寺御法事阿弥陀経執行御回向有之候付、孫七郎、半兵衛、文次郎参詣ス、本店無人ニ付支配人吉太郎参詣ス

右之節非時出ル、猪口（うと）あへ物　平（やわらかふ）漬松茸（わらひ）　菓子椀花くわい丸むき午尻むきかけ　吸物もときのり　天王寺かふら汁　御酒肴鉢くわん草したし物　硯蓋焼いも浄敬寺納豆こう茸　ふき小口切

一右之節持参包銀左之通、当年番本店之由

一御斎米壱斗　一和尚江　銀野両（二）

一御華代カヽ料シヽ（十匁）　一弟子中江　銀イ両（二）

一御盛物（百）　一貞玉尼江　銀セヽ（百）

一卒都婆料舟文　一家来中江　舟文

〆銀（三十二匁七分）マシセヽエ入　内セシイヽセ入サ厘　シイヽツ入サ厘　本店カサ割　両替店マサ

但右之外ニ銀イ両（二）本店、両替店ゟ遣ス、是者二ツ割

右七廻忌之格之由、尤本店、両替店ゟ参詣計外なし

一京都小野御殿開帳生玉於藤次寺有之候付、此間両替店江米袋百宛持参被致候、依之両店相談之上右米袋者相戻し、御供米料と（二百）して金子舟（百）疋宛、両店ゟ金野舟疋差送り候、今日右之席吉次郎文次郎持参ス

三月十四日　天気　金サシセヽエ入　昼同事　銭チヽウ入マツ厘　肥後米サシチヽ

一明後十六日御為替渡り高為伺今日文次郎罷出候処、仲間江銀（二千五百）セ舟〆ヽ定式且弐朱判セ仙サ舟両臨時御渡可被成下由、則割合書并後明家質書付并先月廿六日、当月六日上納相済候御証文五通御金方御月番江差上、御書替十人組江持帰り候事

一当店去冬季目録下附出来、今夕京都江登ス

一小野藤次郎病気ニ付、為養生宿元小野儀右衛門宅江引取致養生申候、医師竹内宗硯老也

三月十五日　雨降　金サシマヽサ厘ゟイ入　昼同事　銭チヽウ入エチ厘　肥後米サシチヽセ入

一今朝御礼且明日渡御為替証文弐通文次郎持参、御金方御月番江差上御書替申請十人組江持帰り候

三月十六日　晴天康申　金サシセヽウ入ゟマヽ　昼マヽイセ厘　銭チヽウ入ツサ厘　肥後米休日　余寒強

一今朝御為替金銀為請取文次郎罷出左之通

一ウシセ〆サ舟ヽ（九十二貫五百目）　手前　一（八十六貫五百目）チシカ〆サ舟ヽ（二十一貫目）セシイ〆ヽ　十人組　上田組

〆銀(二百貫目)セ舟〆ゝ渡り高　内小玉(二十貫目)セシ〆ゝ　上納六月十八日

右之外臨時六十日限御為替弐朱判左之通

一皆弐朱判(一千百五十)イ仙舟サシ両　手前　(同)(一千百)イ仙舟両　十人組
(同)(一百五十)セ舟サシ両　上田組

〆金(二千五百)セ仙サ舟両　渡り高　上納五月十八日

右之通割合無故障請取申候、且右之節先月廿六日、当月六日上納相済候、御納札御書替と先達而差上置候御為替手形引替相済申候、将又右銀子駄賃之儀御城馬場ゟ手前店迄拾貫目一箱ニ付鳥目(二十六)セシカ文之定、但サ〆ゝゟ内八貫目(五貫目)割サ〆ゝ以上ハ矢張一箱分セシカ文之由

一伊勢講行事加東藤助、中村孫兵衛ゟ当役奥村次右衛門殿初組頭退役迄三十弐人宛廻文到来、明後十八日北野於播磨屋宇兵衛方伊勢講相勤申候間、懸銀(九匁)ウゝ宛御持参、四ツ時ゟ御出会可被下候以上

右之通申来ル

三月十七日　小雨降　金サシマゝイセ入　昼同事
銀チゝウ入カ厘
肥後米サシチゝサ入

一井上三郎兵衛先年大坂両替店勤仕之節、遣過銀(二貫目)セ〆ゝ有之内舟(百五十匁)サシゝ宛両度致元済、残銀(二貫七百目)イ〆エ舟ゝ近々於京都取立可申旨申来り候、依之右セ〆ゝ之手形一通彼地江為差登申候

一太田(ヤシ)検校殿御事当地用向相済、昨夕舟ニ被致帰京候旨、笠間御屋敷ゟ乍序為御知被下候

一大脇利左衛門殿当月三日店表江入来、下地預金野(二十)シ両有之候処右之節又々セ(二十)シ両持参、都合金ツシ(四十)両之預りニ相成有之候、然ル処今日右同人弟之由宜然と申禅僧、利左衛門殿自筆書状持参、若利左衛門殿違変ニても有之候ハヽ右宜然手形并割印被致持参候ハヽ相渡呉候様、若外方ゟ手形計致持参候共相渡候儀無用致呉候様申来り候付、承知之段致返答遣候、尤右宜然本国尾州者之由

三月十八日　晴天　金サシマゝツサ入　昼マゝツ入
銀チゝウ入ツサ厘
肥後米サシウゝセ入

一京都元方御状到着、一昨十六日月並御寄会之上
江戸本店支配人卯春退役
田所　忠七

右此度江戸本店江再勤、後見役被仰渡候段申来ル

一今日北野於播宇座敷伊勢講有之候付、孫七郎、孫兵衛、半兵衛久次郎、喜三郎参ル、献立左之通

前酒　硯蓋(白板岩蓙生貝)　同(花玉子千鳥鮫いり鮎)　吸物(もろこしたんこかれい切身)　虎屋饅頭二ツ

大砂大浜焼鯛　小皿(ふりぬた)　鉢(すいたくわい)

鱠(かれい切重白髪うど しそう身)　汁(あゆ若菜)　菓子椀(へき貝いりこ しいり茸わらひかれる)　炙物預り

初焼(はせ一切)　二(したし みつ葉)　三吸物(一塩鯛さんしう)

右之通ニ而七ツ半時過帰店ス、本店奥村、清水支配人之内一人参ル、但中西氏不快之由ニ而断

三月十九日　晴天　金サシマヽツ入　昼マヽエ入
銭チヽウ入エチ厘
肥後米サシチヽイ入

一加州御屋敷ゟ呼来り候付、庄次郎罷越被仰渡、埒合帳ニ扣有之、此所略ス

一当町堺屋与一取替銀段々及対談、二口ニ而銀イ〆舟シツヽツ入（一貫百十四匁四分九）（四十四匁四分九）ウ厘之内、此度ツシツヽツ入ウ厘請取、残銀イ〆エシヽ之一紙（一貫七十匁）手形ニ相改ル

三月廿日　晴天　金サシマヽイ入　昼同事
銭ウヽセ厘
肥後米サシチヽイ入

一井上三郎兵衛遣過残銀イ〆エ舟ヽ於京都店取立代り銀付替申来り候（一貫七百目）

三月廿一日　雨天　金サシマヽマ入　昼マヽセ入
銭ウヽイ厘
肥後米休日

一明後廿三日御為替渡り高為伺久次郎罷出候処、三組江銀野舟〆（二百貫目）ヽ并臨時六十日限弐朱判野仙サ舟両御渡可被下段被仰渡候、依（二千五百）之割合書後明書共御月番酒井与左衛門様江差上申候

三月廿二日　雨天　金サシマヽセ入サ厘　昼セ入
銭チヽウ入サ厘
肥後米サシチヽセ入

一明日渡御為替銀証文一通、臨時渡り弐朱判証文壱通久次郎持参、御月番江差上、御書替者十人組江持帰り申候

三月廿三日　晴天　金サシマヽチウ入　昼エ入
銭ウヽセマ厘
肥後米サシチヽイ入

一今日御為替金銀為請取、久次郎罷出左之通

（九十二貫五百目）（八十六貫五百目）
一ウシセ〆サ舟ヽ手前　一チシカ〆サ舟ヽ　十人組
（二十一貫目）
一野シイ〆ヽ　上田組
（二十貫目）
〆銀野舟〆ヽ渡り　内小玉セシ〆ヽ　上納六月廿六日
（二百貫目）

右之外臨時六十日限御為替弐朱判左之通

一上同イ仙舟両（一千百）　十人組
（一千百五十）
一皆弐朱判イ仙舟サシ両手前　一上同セ舟サシ両（二百五十）　上田組

〆皆弐朱判野仙サ舟両（二千五百）

右之通無故障請取申候

一京都店江今夕小判舟両（百）、弐朱判野仙ツ舟両（二千四百）、都合金方野仙サ舟（二千五百）
両、銀野舟サシ〆ヽ内シチ〆ヽ小玉銀方（二百五十貫目）不残常是包、右之通小（十八貫目）
野平五郎并出入方平兵衛、儀兵衛付添為差登申候

三月廿四日　晴天　金サシマヽチ入サ厘　昼エ入
銭ウヽセマ厘
肥後米サシエヽウ入

一今日相扣候事無之候

三月廿五日　金サシマヽカ入サ厘　昼同事
銭チヽウ入チウ厘
肥後米サシチヽセ入

一河州道明寺江為代参新太郎参詣ス
一出入平兵衛、儀兵衛、昨夕舟ニ罷下り今朝無難致帰坂候、尤小野平五郎儀者内用有之候付、暫京都ニ逗留ス
一江戸元方御状致到着候処、左之通
　一江戸本店　是迄加判名代　杉山仙右衛門
右此度元〆役被仰渡候段申来り候

三月廿六日　天気　金サシマヽサ入　昼マヽセ入
銭ウヽ也
肥後米サシチヽエ入

一今日相記候儀無之候

三月廿七日　雨天　金サシセヽチウ入　昼セヽサ入
銭ウヽ
肥後米サシチヽセ入

一岡田金兵衛方家質貸(七貫五百目)エ〆サ舟ヽ外方ニ而振替致返納候筈ニ候処、時節柄故相手無之難渋之段、度々断申来り候、右者引当も丈夫成物ニ付断之趣聞届遣し候、尤当七月迄改本家質ニ致、利足之儀者下地之通月ツサ、乍然当七月迄ニ若相済不申候時者本家質(三百七十五匁)(四五)は勿論利足月カ朱(六厘)ニ相改申積り申渡置候、将又半銀マ舟エシサヽ当座貸有之候、此口両度ニ相納皆済相成申候

三月廿八日　快晴　金サシセヽマサ入　昼セヽエ入
銭チヽウ入チウ厘
肥後米サシチヽイ入

一紀印納銀(三十貫目)マシ〆ヽ米屋平右衛門江相渡、若山御元〆中宛所之手形取之、京都江為差登可申旨、尤半銀ハ当地本店ゟ請取可申旨申来り候付、則本店江右之趣申遣候処、未京都店ゟ通達無之候間、今夕尋ニ遣、様子相分り次第相渡可申段申来り候
一京都丹波屋五郎左衛門下り為替道明寺会式料銀六百目、今日同所木戸与左衛門店表江入来ニ付、相対之上道明寺当座取替銀元利差引右六百目之内ニ而、左之通

一銀六百目　会式料為替高
内
(三百目)マ舟ヽ　御屋根葺替入用取替銀(一貫目)イ〆ヽノ済
残請取相済(三百匁)
右マ舟ヽ巳年四月ゟ午二月迄十一(十九匁八分)シウヽチ入
月分利足月カ朱(六)(二十七)
取替金セシエ両代銀(一貫六百二匁四分五)イ〆カ舟セヽ(二百二匁四分五)セ舟セヽツ入サ厘
ツ入サ厘之内江元済ニ請取(一貫六百目)
右イ〆カ舟ヽ巳七月ゟ午二月迄八(七十六匁八分)エシカヽチ入
ケ月分利足月カ朱
差引〆銀九分五厘　残銀相渡遣ス

右之通致差引遣ス、尤御屋根葺替之方元済当座請取書遣置、追而本証文引替有之筈、且又金代之方者致通帳遣、向後元済度毎右通帳江相記遣、追而可致差引旨致相対候事

三月廿九日　朝之内快晴　金サシマヽマ入　昼同事
九ツ過雷鳴　銭ウヽ
夫ゟ雨降　肥後米サシエヽウ入

一笠間御屋敷旧冬手前方御埒合御不足之由ニ而、於当地内々当座振替之儀無拠御頼被成候付、不得止事銀高マシエメヽ(三十七貫目)御取替申上候処、右之内シメヽ者当二月ニ御内済有之、残銀セシエメヽ(十貫目)(二十七貫目)

并右利足共今日御渡被成請取則差引左之通

一マシカメチ舟マシセヽ(三十六貫八百三十二匁)　旧冬残金カ舟ツシ(六百四十五十七匁五分五)　両代

但シサシエヽサ入サ厘替

一セ舟ヽ(二百目)　右之内シメヽ当二月御内済口

巳十二月ゟ午二月迄之利足

但チ歩之積(八)(三十六貫目八百三十二匁)

一エ舟シサヽサ入セ厘(七百十五匁五分二)　右残銀セシカメチ舟マシセヽ

巳十二月ゟ午三月迄利足

右同断

メ銀マシエメエ舟ツシエヽサ入セ厘(三十七貫七百四十七匁五分二)

右之通ニ而此口元利相済候付、京都店江今夕店状ゟ致借り遣候

一紀印納銀之内シサメヽ京都本店ゟ通達有之候由ニ而、今日当地本店ゟ請取申候、依之今日米屋平右衛門方江都合銀マシメヽ(十五貫目)(三十貫目)相渡、若山御元メ中宛請取書取之、今夕京都店江為差登申候

一加州御屋敷御埒合之儀ニ付、井川善助方へも内々入謁致相頼、猶又浜方ニても承合御仕法御書付等借請、其上牧野平左衛門殿御方へも久次郎参相頼申候得共、何れニても御為替之訳相立申間敷、一同御仕法之内江加り申候方ゟ外致方有之間敷趣相聞得難渋成物ニ候、然レ共其侭ニも難差置、成ル不成者格別之儀、猶又加州御屋敷江御願申上、蔵元井川方へも致手入、其上牧野平左衛門殿へも申込候積りニ候、扨此度之御仕法書、去冬被仰出候御趣意ニ何も相替儀無御座候由ニ御座候、右一同之割方御仕法ニして手前方一ケ年割凡左之通

一銀ツ舟サシメ舟ヽ(四百五十貫百目)　御為替高

内

舟チシメヽ(百八十貫目)　去ル未年ゟ子年迄六ケ年分渡り高

ツメヽ(四貫目)　但年々マシメヽ(三十貫目)宛

去ル丑寅両年ハ御断延、去ル卯年三ケ一渡り之又三ケ一

残銀セ舟カシカメ舟ヽ(二百六十六貫百目)

此石高八千八百七拾石　但一石ニ付マシヽ(三十匁)替之積

百石ニ付セシサヽ(二十五匁)宛

一ケ年渡り高銀セメセ舟シエヽサ入宛ニ当ル(二貫二百十七匁五分)(千百九十四貫百五十匁)

一銀イ仙舟ウシツメ舟サシヽ　米賃之方

内

（二百六十七貫七百一匁九分一厘七毛）
セ舟カシエメエ舟イヽウ入イ厘ヱ毛　去ル午年年ゟ子年迄
七ケ年渡り高
（三十八貫二百）
但年々マシチメセ舟
四十三匁一分三）
ツシマヽイ入マ厘イ
毛宛
（五貫九十九匁八厘四毛）
サメウシウヽチ厘ツ毛　去ル丑寅両年御断延、
去ル卯年三ケ一渡り之
上又三ケ一
残銀（九百三十一貫三百四十八匁九分九厘九毛）
ウ舟セシイメマ舟ツシチヽウ入ウ厘ウ毛
此石高三万七百拾壱石六斗三升三合三夕
（三十匁）
但一石マシヽ替之積り
百石ニ付（二十五匁）セシサヽ宛
（七貫六百七十七匁九厘八毛）
一ケ年渡り高銀エメカ舟エシエヽウ厘チ毛宛ニ当ル
（六十八貫七百八十五匁一分八）
一銀カシチメエ舟チシサヽイ入チ厘　右先納済残高
（六貫七百四十三匁五分二）
一銀カメエ舟ツシマヽサ入セ厘　新先納済残高
（七十五貫五百二十八匁七分）
メ銀エシサメサ舟セシチヽエ入
但最初先納高
（八十三貫目）
銀チシマメヽ　但一石ニ付マシヽ替之積り
（三十匁）
此石高弐千七百六拾六石六斗三升
百石ニ付（二十五匁）セシサヽ宛
（六百九十一匁六分五厘七毛）
一ケ年渡り高銀カ舟ウシイヽカ入サ厘ヱ毛宛ニ当ル
右口々一ケ年渡り高
（千貫五百八十六匁二分五厘五毛）
メ銀シメサ舟チシカヽセ入サ厘サ毛
右之通御座候、尤御屋敷御仕法書御文言等一円合点参り不申候
得共、御米直段相分り有之候付、算当前件之通御座候、将又何
方承り合候而も同様紛敷御書付と計申之、井川井浜方ニても、
委儀不存候段申之罷在候、依之右御仕法書并手前方割方等別紙
ニ写取、今夕京都江為差登、猶又右之趣及通達候
一今暮時過羽子板橋西北詰出火有之、無程相鎮り申候

（表紙）
「天明六年四月朔日ゟ同六月廿四日迄

（別一五七二―一）

大坂店勤番日記

深井孫七郎」

四月朔日　（マヽ）飽天冷気　金サシマヽゟイ入　昼セヽチウ入
昼七ツ過天気　肥後米サシチヽイ入　銭チヽウ入サカ厘
一今朝御礼文次郎罷出候、笠間御屋敷江者孫兵衛罷出申候
一当月御月番小田切土佐守様、御金奉行春田半十郎様、下シ番十
人組ニ而相勤申候
一種村定右衛門殿御事先月廿日江戸表御出立、東海道十六日経当
五日京都御泊、翌六日御着坂之御積り之由、且田沼様御家老井
上伊織殿御事も此度御出坂、種村氏と御一所ニ讃州江御参詣之

御積候間、当地御逗留中程能相勤可申旨江戸表ゟ申来り候付、当地勤方之儀京都江今夕尋遣候

一今朝汁菜　鱠大根しそう　平こもふ　昼汁常　炙物鱈骨切　夜分酒肴ゆりね鱈骨切いり鮎

一宗十郎様御方御富様御儀、先月十二日暁御安産御女子様御出生、御二方様共御機嫌能御肥立被遊候由、右御名御村様と申候段京都店ゟ申来り候付、一融様、宗十郎様宛御悦状今夕京都江向為差登申候

一中西とな方名跡相続人之儀、当地本店ニ当春迄支配相勤申候規矩文兵衛相極申度旨、先頃願書差出申候付、本店江も懸合候処、右之趣相願遣シ呉候様奥村氏被申聞候付、右願書此間京都江為差登申候処、願之通御聞済被下候段昨夕出内番状より申来り候付、則今夕中西とな并村井新三郎呼ニ遣、於店表孫七郎、孫兵衛、半兵衛立会、右願之通首尾能御聞済被遊候段申渡シ候

一石井ゆの方取替銀之内舟賃并家賃貸之方ハ店表江引請、利足取立遣無引当サ〆舟ツシイヽツ入之方向後節季毎ニツシサヽ宛相渡、連々相済候様格別之用捨ヲ以申渡承知之趣ニ有之候処、其後右ツシサヽ宛節季毎相納候儀難相成候間、節季毎セシヽ宛ニ而致用捨呉候様再応相頼候付、猶又今夕ゆの店表江呼、彼是押合候上ニ而不得止事節季毎セシサヽ宛三、五、七、九、十、極、六ケ度ニ急度相納可申旨改及対談、則右之趣請書取之、当三月分セシサヽ并端銀イヽツ入共正銀請取相済遣候

（五貫百四十一匁四分）（四十五匁）（二十五匁）（二十五匁）（一匁四分）

四月二日　天気　金サシセヽエ入サ厘ゟチ入　昼チウ入　銭チヽウ入ツサ厘　肥後米サシチヽセ入

一今日相記候儀無之候

四月三日　晴天　金サシマヽイ入　昼セ入　銭チヽウ入ツサ厘　肥後米サシチヽツ入

一明後五日渡り御為替金銀為伺今日文次郎罷出候処、三組江定式之方銀野舟〆ヽ、臨時六十日限之方弐朱判野仙舟両御渡被下候段被仰渡候、則割合後明書付差上申候、且右之節先月十八日上納相済候御証文弐通御月番春田様江差上、御書替手前江持帰り申候

（二百貫目）（三千五百）

一丸山弥兵衛当店目録為押合、昨夕舟ニ罷下り、則今日目録押合無故障相済申候、尤夕飯汁焼とうふ　平鱈大はんへい　鱠皮鱈大根

酒肴鯛小串　鯛玉子煮〆　吹田くわい　夜酒肴上同

惣中鱠同様　汁かい割な　平貝長いもつとふ　但役人平共焼物なし且已来干菓子止ニ申渡

一右押合相済候上此度当店取調へ方之儀弥兵衛、孫七郎内談、猶又宗巴様被仰付候通、孫兵衛、半兵衛、久次郎ゟ取計方不行届不念之段誤り証文取之、其外支配人并惣若キ者、且新田会所役人、家督并退役中共貸銀遣過銀懸合有之候趣今夕何れも店表江呼出し、店役人之分不残立会、弥兵衛ゟ孫七郎取調へ、夫々請書取置候通弥無相違相済可申、勿論向後一銭目ニても貸過且遣過等急度不相成候段、改急度申渡候

四月四日　晴天　金サシマヽイセ入　銭チヽウ入ツサ厘　肥後米サシウヽ　昼セマ入

一明日渡御為替金銀証文弐通今日文次郎持参御月番江差上、御書替手前江持帰り申候

四月五日　雨天　金サシマヽカエ入　銭チヽウ入ツサ厘　肥後米サシチヽセ入　昼ツヽ

一今朝御為替金銀為請取文次郎罷出左之通

一ウシセ〆サ舟（九十二貫五百目）ヽ　手前　チシカ〆サ舟（八十六貫五百目）ヽ　十人組　一（二十一貫目）セシイ〆ヽ　上田組

〆銀野舟（二百貫目）〆ヽ渡り高内小玉セシ〆ヽ上納七月六日

右之外臨時六十日限御為替弐朱判左之通

一皆弐朱判イ仙舟サシ（一千百五十）両　手前　一　上同イ仙舟両（一千百）十人組

〆皆弐朱判野仙サ舟（二千五百）両渡り高　上納六月六日　上同セ舟サシ（二百五十）両上田組

右之通無故障請取申候、且右之節先月十八日上納相済候、御納札御書替と引替相済申候

一丸山弥兵衛当地用向今昼舟ニ罷登り申候、右之節本目録、小目録并当店取調へ扣帳且賄方取締扣帳等持登り申候

一本店支配退役小畠久兵衛今日宿入婚礼弘相務候ニ付、当店ゟ為祝儀金舟（百）足并井口、山中、杉本右三人組合チヽウヽ位之鰹節一連（八九匁）先格振合ヲ以差送り、何れも悦ニ罷越、尤向方ニ而座敷江罷通り熨斗昆布ニ而相祝、銘々江饅頭二ツ宛差出ス、且又孫七郎儀小畠方と内縁有之候付、同人ゟも鰹節一連差送り同様悦ニ罷越候、尤袴無脇差扇子ニ而一同罷越候事

一則右衛門様御事則兵衛様、三十郎様御事則右衛門様、右之通先月廿七日出書状ニ松坂店ゟ申来り候間、御悦状宗恵様、則兵衛様、則右衛門様御三名宛ニ而差下可申旨京都ゟ申来り候付、則今夕京店江為差登申候

四月六日　晴天　金サシマヽウ入ツヽ　銭チヽウ入ツサ厘　肥後米サシチヽウ入　昼休

一先月廿四日晩江戸元方臨時御寄会之上左之通

此度支配役　是迄組頭役　高井勘兵衛

此度組頭本役　是迄組頭格　福井　兵助

此度組頭格　是迄平筆頭　中井亦次郎

是迄支配役　朝田　伴七

此度相続筋依願首尾能御暇并望性金等被仰渡候

右之通被仰渡候段、先月廿五日出元方御状并店状ヲも申来り候、依之悦状差下申候

一今夕月並寄会相勤取組方申合并加入方之儀、是迄致世話来り候分ハ格別、向後新ニ頼被申候方有之候共急度断申遣可申段示合申候、此儀於店表無拠致世話候処、向方ニ寄被致心得店表ニ徳用も有之様被存、且若鱗物等致出来候節、加入代り銀店表ゟ振

替致返済呉候様被申候方も有之、却而店表江恨ヲ被申候族も有之候付、向後新頼之方者可成丈断申積りニ候、夫共格別無拠筋ニ候ハヽ、京都店江及通達差図次第取可申事

一三好又次郎遣過銀舟イヽウ入カ厘（百一匁九分六）今日三好門兵衛方ゟ相納、此口皆済相成候付、扣帳消置申候

四月七日　朝之内曇　四ツ時ゟ快晴　金サシツヽイセ入　銭チヽウ入チウ厘　肥後米サシチイエ入　昼同事

一小畠久兵衛宿入婚礼首尾能相務候為御礼入来、且右為祝儀喜三郎、文次郎江包扇子三本宛、別宅三人江も同断三本入一箱宛致到来候、将又孫七郎赤飯一重、生肴（小鯛一枚はまぐり小）一折致到来候、但別段使舟（百）文、紙二折

一孫七郎今日新田会所為見分罷越候

四月八日　晴天　金サシツヽイセ入　銭ウヽ也　肥後米休日　昼ツヽ

一若山両替森権兵衛、高垣藤七、都筑忠兵衛ゟ当店支配人宛書状到来、御用大判三枚相調度候間直段致吟味申越呉候様申来り候付、則炭安方ニて承合候之処、（二十匁）セシイ両（二匁）セ歩（二匁）セ朱之由申越候、依之右返答ニハセシイ両野歩、銀シヽ位ニ候ハヽ、大方相調可申候、乍然此節相庭高下御座候付御請合申儀は難相成、大方右直段ニ候ハヽ、相調可申哉之旨程能申遣候

※（欄外書）「此大判三枚右之通之直段ニ而売上、代り金請取相済候」

一種村氏御事道中工面合有之、南都橋井方一宿、新田会所御立寄相止法際寺辺御順見、今夕夜ニ入候而も御着坂之御積りニ付、御出迎所深江茶屋一ケ所借り請置、同所江提重一組次通り江も酒肴等取繕、文次郎持参御出迎申候処、同所江夜半時御着、暫御休足、無程出立、当地御蔵屋敷江夜八ツ半過御無難御着被成候、尤瀬兵衛儀も致御供罷越候、文次郎事者御蔵屋敷迄直ニ御案内申候

一当店是迄病人有之候節、看病人銘々ニ付置候様子見請申候付、軽キ病症ニ候ハヽ、弐三人ニ看病人一人宛、且養生所之儀も奥座敷并二階江一人宛分り候儀無用、弐三人迄は何れ江成とも一方江相片付為致養生可申旨、将又是迄表通り江下男繻伴（ママ）一ツニ而手際能切水打候、依之見物人も有之如何ニ付向後相止可申段、何れも江申談置候事

一井口孫兵衛弟花房孫市（金）儀、先年ゟ江戸堀麹町家守役為相勤、給料一ケ年銀マ舟（三百八十匁）チシヽ宛差遣候処、勝手向不繰合候哉、是迄年々取立申候宿賃之内銀イヽカ舟（一貫六百八匁九分六）チヽウ入カ厘孫市引込ミ、店表江相納不申候付、度々及催促候得共、今以相納不申候、依之此度孫七郎ゟ井口氏江猶又対談、前件引込銀高当年ゟ五ケ年賦之積り、当時端銀（八匁九分五）チヽウ入サ厘正銀請取、当七月ゟ半季毎銀舟カ（百六十匁）シヽ宛一ケ年銀マ舟（三百二十匁）セシヽ宛年々急度相納被申候様及対談、則右之趣孫兵衛、孫一ゟ改証文取置申候、尤万一孫市方ゟ不相納

儀も有之候ハヽ、孫兵衛方ゟ無相違相納可申趣之手形一通孫兵衛一判ニ而為念取置申候

四月九日　晴天　金サシマヽウ入ツヽ　銭チヽウ入チウ厘　肥後米サシチヽカ入

一種村氏着坂為悦孫兵衛、瀬兵衛御屋敷江参

一樽肴代　宗八郎　巴兵衛　八郎右衛門　三郎助　元之助　樽　一金マ舟疋　種村氏　一鰹節二連　渡辺氏　上同

一生肴一折　右御同人　孫兵衛　文次郎　一酒三升一樽　右同人　上同

右之通持参差送り、猶又跡ゟ文次郎も為御見舞罷越候

一森半平殿御事種村氏為出迎深江江被罷出、於同所瀬兵衛懸御目、何角御咄合之儀も有之候付、今日南都銘酒二樽瀬兵衛持参、御見舞申候

一津久井武兵衛子息小四郎殿御内証安産男子出生、初孫之由武兵衛殿吹聴有之候付、瀬兵衛相談之上武兵衛殿江主中様方ゟ金舟(百)疋為祝儀被遣、名代共ゟ大守袋一ツ差送り、京都ゟ之悦状も於当地相認届、何れも為御悦致参上候

四月十日　晴天　金サシマヽチウ入　銭チヽウ入エチ厘　肥後米

一井口孫兵衛儀勝手ニ付此度尼ヶ崎町壱町目井池西江入町北側江致変宅候、尤是迄変宅之節祝儀差送り候得共、此度相談之上相止申候、乍然悦ニハ何れも罷越候

一瀬兵衛儀笠間御屋敷并森繁平殿江も為御見舞罷越候

一井上伊織殿御事昨夜鴻池新田御泊、今暮時前御屋敷江御着坂被成候付、則右之趣別紙ヲ以京都江及通達候

一種村定右衛門殿ゟ孫兵衛変宅為悦、生肴一折今日致到来候

四月十一日　晴天　金サシマヽウ入サ厘ゟツヽ　銭チヽウ入カエ厘　肥後米サシチヽイ入

一種村定右衛門殿出坂為御土産孫兵衛、文次郎江無地琥珀帯地一筋宛今日致到来候

四月十二日　朝之内小雨　四ツ過ゟ晴　金サシツヽセ入　銭チヽウ入エチ厘　肥後米サシエヽチ入　昼同事

一井上伊織殿着坂為悦鮮鯛一折久次郎持参、御家来福屋弥十郎殿江懸御目主中様方口上程能申取差出候処、則奥之間江御通シ伊織殿御逢厚ク御挨拶有之候、依之右之趣今夕京都店江及通達候

一寺井瀬兵衛儀、当地用向相済候付、今夕舟ニ致帰京候

四月十三日　晴天　金サシツヽイセ入　銭ウヽゟイ厘　肥後米サシエヽチ入　昼同事

一御城代阿部能登守様御屋敷岡孫右衛門殿、村田権左衛門殿、島

村新兵衛殿ゟ昨日久次郎宛御手紙到来、今日御勘定方御役所江罷出候様申来り候付、則致参上候処、何れも御逢被仰聞候者、毎々勝手方預御世話工面能大慶存候、依之左少之品ニ候得共、左之通被相送り候、此段平田弾右衛門、村田万太夫宜得御意候様被申聞候、左之通

御紋付羽二重　八郎右衛門様　御紋付横麻
御袷一ッ宛　三郎助様　御上下一具　深井孫七郎
次郎右衛門様　御目録マ舟(三百)疋杉本久次郎
元之助様

但次郎右衛門様当時御在府之段ハ御承知之由被仰聞候

右之通被下置候付、今夕京都店江本状ゟ委細及通達候

一井上氏、種村氏并渡辺氏御同道ニ而明後十五日出立、讃州金比羅江御参詣有之由、尤外々へは御沙汰不被成内々ニ而御参詣之段承之候、依之右餞別之儀今昼時通り走りヲ以京都店江及通達候

一井口孫兵衛儀笠間御屋敷江為御見廻罷出候

一渡辺九蔵殿ゟ為土産孫兵衛、文次郎江浅草海苔一包宛今日致到来候

四月十四日晴天　金サシツヽイ入サ厘ゟセ入　昼同事
銭チヽウ入チウ厘
肥後米サシエヽウ入

一明後十六日御為替渡り高為伺久次郎罷出候処、仲間江定式方銀(二百貫目)野舟〆ヽ臨時六十日限之方弐朱判野仙(二千五百)サ舟両御渡被下候筈、則割合書付後明書付并先月廿六日上納御納札六通御月番江差上、御書替十人組江持帰り候

一東新田江捨子有之候付、当地御役所江為御届今日利平次罷出、店表へも右之趣申聞候

一京都店ゟ左之通

是迄則兵衛様御勤被被遊候大年寄役、此度則右衛門様江無御故障被蒙仰候段元方ゟ申来り候由、尤御悦状ニは及不申候、猶本店示合可申旨申来り候

右之通通達有之候付、則本店示合御悦状ハ差上不申候

一京都店ゟ種村氏、井上氏、金比羅参詣餞別之儀返書到来ニ付、猶又笠間御屋敷江文次郎罷越内意相尋候処、種村氏、渡辺氏者弥明早朝出立之由、井上氏者延引ニ相成候段承之候

四月十五日　晴天　金サシツヽセ入　昼同事
銭チヽウ入チウ厘
肥後米サシエヽカ入

一今朝御礼久次郎罷出候

一明日渡御為替金銀証文弐通久次郎持参、御月番江差上申候、御書替者十人組江持帰り候

一源右衛門様御儀、御道中御機嫌能昨十四日七ッ時過江戸表ゟ御帰京被遊候段、京都店ゟ申来り候、依之御悦状為差登申候

一種村氏并渡辺氏弥今朝出立、讃州江下向有之候付、為見送り神

崎迄文次郎罷出、京都差図之趣ヲ以左之通

一硝子壺形十綿手器物江氷おろし詰ル　種村氏
尤浅黄帛紗ニ包
島桐箱入絹サナタ

一干菓子一箱　渡辺氏

右之品夜前差送り可申処、彼是遅ク候付、今朝文次郎持参、主中様方御口上程能申取差送り申候処、御叮寧御挨拶有之候

四月十六日　天気　金サシツヽツ入　昼同事
銭チヽウ入カエ厘
暮時大雨留　肥後米休日

一今朝御為替金銀為請取久次郎罷出左之通
（八十六貫五百目）
チシカメサ舟ヽ　十人組
（九十二貫五百目）
一ウシセメサ舟ヽ手前　一（二十一貫目）セシイメヽ　上田組
（二百貫目）
メ銀野舟メヽ渡り高内小玉セシメヽ上納七月十八日

右之外臨時六十日限御為替弐朱判左之通
（二千百五十）　上同（二千百）イ仙舟両　十人組
一皆弐朱判イ仙舟サシ両手前　一（二百五十）上同セ舟サシ両　上田組
（二千五百）
メ皆弐朱判野仙サ舟両渡り高　上納六月十八日

右之通無故障請取申候、尤例之通為御届相廻り申候

一右之節去巳七月十八日上納御納札御書損有之断書左之通

覚

一巳七月十八日上納銀高九拾弐貫五百目御証文諏訪之御名字

旅訪と御座候得共、其侭御請取置被下候間、自然御勘定之節御差支御座候ハヽ、其節於江戸表願上引替候様可仕候、仍如件

巳七月晦日　三井組名代　杉本久次郎印

右之通相認差上置申候

四月十七日　晴天　金サシツヽツサ入　昼ツ入サ厘
銭ウヽイ厘
肥後米休日

一新田利平次当地御役所江罷越候由ニ而立寄ル

四月十八日　天気　金サシツヽツ入　昼同事
銭ウヽイセ厘
肥後米サシエヽチ入

一新田弥助右同断用向ニ付出坂立寄ル

四月十九日　雨天　金サシツヽサ厘　昼イ入
銭ウヽイセ厘
肥後米サシチヽ

一銅座ゟ為替之儀ニ付用事有之候間、壱人罷出候様申来り候付、則嘉十郎差遣候処、元方御金蔵江御納金野舟（二百）両程有之候間、例之通三十日切相納候様若林様、藤本様ゟ被仰聞候由、尤御金蔵納相成候ハヽ、九十日限可有之哉、其段相伺候処当地ニ而相分り不申候付、此度者先九十日限ニ差下シ、於江戸相伺御差図次第上納可致旨被仰聞候、尤右断書者明日差上候様被仰渡候

四月廿日　天気　金サシツヽセ入　昼マ入　銭ウヽ也　肥後米サシエヽツ入

一右銅座断書左之通
書付ヲ以御断申上候
一永松銅山御前貸御手当金、人参座御手当金江戸表江御差下被遊候節は、三十日限上納仕候様先達而於御勘定所被為仰付奉相勤候、此度蓮池元方御金蔵江御上納金は初而被為仰付、殊ニ当地従御金蔵江戸御金蔵江御差下被為成候節、九十日限奉相勤候御儀ニ御座候ニ付、右同様九十日限被成下候様奉願上候、以上

三井組名代
竹内文次郎印
杉本久次郎印

午四月廿日
銅座
御役所

右之通相認差出候処、御金蔵納相止、若林様、藤本様江之御下金ニ相成候付、右差出候書付御差戻し被成候

一井上伊織殿御事讃州江明日出立御参詣被成候由ニ付、為銭別干菓子一折今日文次郎持参、主中様方御口上程能申取差送り申候

四月廿一日　晴天　金サシツヽマ入サ厘　昼ツ入　銭ウヽ也　肥後米サシエヽツ入

一井上伊織殿御事弥今朝出立、讃州江御越被成候

一明後日渡御為替金銀為伺久次郎罷出候之処、仲間江定式之方銀（二百貫目）セ舟〆ヽ、臨時六十日限之方弐朱判セ仙サ舟両御渡被下候筈、則割合書付、後明書付御月番江差上、御書替ハ十人組江持帰り申候

四月廿二日　晴天　金サシツヽセ入サ厘ゟマ入　昼同事　銭ウヽイセ厘　肥後米サシエヽツ入

一明日渡御為替金銀証文弐通今日久次郎持参、御月番江差上御書替十人組江持帰ル

一中井嘉十郎不快ニ付為養生宿元江引取申候

一笠間御屋敷ゟ昨日文次郎宛手紙今日中罷出候様申来り候付、則致参上候処、御紋付麻絹御上下一具拝領被仰付候付、御礼申上、京都へも右之段申遣候、且又此間種村定右衛門殿江同人罷出候節、御有合之由ニ而御紋付御袷一ツ被下置候、是者表向拝領被仰付候御儀共不被存候

四月廿三日　晴天　金サシツヽサ厘ゟイ入　昼マ入　銭ウヽイセ厘　肥後米サシエヽカ入

一今日御為替金銀為請取久次郎罷出左之通
（九十二貫五百目）ウシセ〆サ舟ヽ　手前　（八十六貫五百目）チシカ〆サ舟ヽ　十人組
（二百貫目）銀野舟〆ヽ渡り高内小玉セシ〆ヽ、（二十一貫目）一セシイ〆ヽ　上田組
右之外臨時六十日限御為替皆弐朱判左之通

一皆二朱判イ仙舟サシ両（二千百五十）　手前　一　上同イ仙舟両（二千百）　十人組
上同野舟サシ両（二百五十）　上田組
〆皆二朱判野仙サ舟両（三千五百）　上納六月廿六日
右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候
一右之節去巳年中御為替渡銀訳書目録、東西遠国方御役所江久次郎持参差上候
一伏見布屋弥兵衛方江安永弐年巳十二月、大坂本店、両替店ゟ銀イ（二貫目）〆丶宛取替有之、安永四年未七月両替店ゟ又々イ〆丶取替、其後両替店之内江銀エ舟ツシエ丶元済有之候、然ル処六七年巳前（七百四十七匁）ゟ一向之不埒ニ付、此間中同人呼下厳敷及対談、右エ舟ツシエ（七百四十七匁）丶ヲ是迄延引之利足ニ両替店江引取、元銀高最初之通りマ〆丶（三貫目）ニ引直シ、此度マ舟丶元入為致、向後無利十ケ年賦之積り一ケ（三百目）年マ舟丶と相定、毎年三五七九極月毎銀カシ丶通帳ヲ以請取、（六十匁）年々ニ相済遣候趣致対談遣し候
一岡田金兵衛家質貸銀エ〆サ舟丶外方ニ而振替、前件エ〆サ舟丶（七貫五百目）請取相済申候

四月廿四日　雨天　金サシツ丶イ入セ厘　昼イ入
銭ウ丶セマ厘
肥後米サシエ丶マ入

一去ル十四日朝五ツ時江戸幸橋御門内松平薩磨（ママ）守様御装束屋敷ゟ出火、横町表長屋拾間余り焼失、北風少々有之候得共四ツ時火鎮り申候、阿部能登守様御屋敷御隣ニ候処、風脇ニ而御別条無御座候之段江戸表ゟ申来り、京、江戸表ゟも阿部様江恐悦御状参り候付、今日久次郎御中屋敷江為恐悦罷出候

四月廿五日　朝之内雨天　昼時過晴　金サシツ丶ツサ厘ゟイ入　昼同事
銭ウ丶也
肥後米サシカ丶ツ入

一今日天神講　平（ひりやす）　汁（かわりな）大根輪切からし
一道明寺代参出入又兵衛為相勤候
一松坂店元方御状致到着候処左之通
一昨十九日当店臨時寄会之上左之通
一　是迄上座役　橋本周助　一　是迄上座格　山中半蔵
右此度役頭役申付候　右此度上座本役申付候
右之通被仰渡候段、当廿日出御状申来り候

四月廿六日　晴天　金サシツ丶イ入サ厘　昼セ入サ厘
銭チ丶ウ入チウ厘
肥後米サシエ丶イ入

一小野藤次郎病気全快、昨夕ゟ致出勤候
一清蔵様御儀江戸為御勤番昨朝京都御出立、東海道十二日経御着府之積り御下向被遊候由、尤御在府中者長五郎様と御名乗被遊候旨京都店ゟ申来り候、依之御悦状差下申候
一高麗橋三町目町代与一死去後跡役之儀同人実子新六事与次兵衛と相改、跡役被仰付被下候様、尤未若輩者ニ付親類共申合後見仕為相勤申度旨親類共并新六ゟ町中江相願申候付、一同相談之

上願之通申付候、依之与次兵衛并親類共同道為御礼町中并店表江も罷越候

一京都店引取金銀左之通

一皆弐朱判野仙(二千)両　一銀高野舟セシ(二百二十貫目)ゝ内　セ舟シサ〆ゝ　常是包内　サ〆サ舟ゝ小玉　ツ〆サ舟ゝ爰元

右之通今夕舟ニ野崎新兵衛并出入男平兵衛、幸七、為宰領為差登申候、但当店無人ニ付新兵衛雇遣ス

四月廿七日　朝之内雨降　昼時ゟ晴天　金サシツゝセ入ゟサ厘　銭ウゝイセ厘　肥後米サシエゝイ入

一新田会所ゟ書状差越、当麦作菜種共春中已来冷気御座候故、後レ申候而未実入最中ニ而御座候由、依之綿蒔附も見合罷在、漸此節ニ至蒔附申候由、稲作之儀も春植之分未植付不申候旨、且又東新田先頃之捨子未相片付不申候上、西新田ニ者行倒者致死去御届申上、其外非人、病人、行倒致養生罷在候段申越候付、右之趣京都店江新田方無番状ヲ以及通達候

一安井新十郎殿、松井官左衛門殿、安東丈之助殿ゟ今日久次郎、文次郎宛手紙到来左之通

被仰達儀有之候間、明廿八日四ツ時過壱人西御役所江可被罷出候、已上

四月廿七日　三井次郎右衛門殿

名代中

右之通申来り候付、御請相認遣候

四月廿八日　晴天　金サシツゝイ入ゟサ厘　銭ウゝゟイ厘　肥後米サシエゝイ入

一今日西御役所江久次郎罷出候処、無程手前、上田組一所ニ於御書院次ノ間、殿様并御用人中、表方与力衆御立会之上左之通

午四月廿八日申渡覚

上田三郎左衛門
三井次郎右衛門

此度富家之者共江御用金被仰付候付、其方共も先達而呼出有之、御趣意委細申聞、分限ニ応出金之儀取調候処、当時者為替方手当之外遊銀無之由追々申立候趣無拠相聞得候付、此上取調之不及沙汰候条、是迄之勤向弥不差滞候様可致候

右之通被仰渡候上殿様御退座被遊候、跡ニ而御懸り与力衆三人被仰聞候は、追々申立候趣無拠相聞得候付、此上取調之不及沙汰候条、是迄之通勤向弥不差滞候之様可致旨被仰聞候付、難有奉存候段御礼申上引取、夫ゟ森氏初御用人衆、表方与力衆三人宅々へも久次郎手札持参御礼相廻り申候、右之通首尾能被仰渡候付、今夕無番状ヲ以委細及通達、猶又右ニ付殿様并森氏始御用人衆、表方三人之衆中江之音物之儀上田組承合、跡ゟ可得御

意候得共、其元御存寄も有之候ハヽ可被仰聞候、其趣上田組へも談合可申旨も申遣候

一今午下刻梶木町淀屋橋筋西角ゟ出火、折節西風少々有之、即時ニ東側江燃付大川町地尻へも火移り、東江三十間計焼、西側之方北ハ大川町境迄西江弐拾間計凡半町四方焼、申刻前火鎮申候、尤心斉橋筋西北角家弐軒計引崩申候、且又同所手前抱屋敷は風上ニ而別条無之致大慶候

一右出火ニ付新田会所ゟ人足拾人差越申候

四月廿九日　晴天　金サシツヽイ入サ厘セ入
銭ウヽゟイ厘
肥後米節句前休

一笠間御屋敷江文次郎御見舞申候処、種村定右衛門殿、渡辺九蔵殿御事讃州路ゟ今日御帰坂之御積りニ付、則御屋敷ゟも為御出迎御出被成候付、文次郎儀も御同道申道筋迄罷出申候、尤銘酒一樽持参差送申候、御無難今日七ツ時過御着坂被成候

四月晦日　晴天　金サシツヽゟイ入　昼イ入
銭ウヽイセ厘
肥後米右同断

一種村氏、渡辺氏着坂為悦主中様方御口上取繕鰻拾本種村、同七本渡辺、孫兵衛、文次郎ゟ手紙相添為持差送り申候処、京都江も何分宜為申登呉候様御両所共返書致到来候、猶又今日孫兵衛御帰坂為御悦御見舞申候、且種村氏ゟ鯲御所望ニ付、一升相調別段差送り申候

一今日惣会所ゟ融通一件ニ付、本店呼出有之候付、小畠久兵衛罷出候処、惣年寄金谷与右衛門殿、今井与三右衛門殿御立会御書付ヲ以左之通

諸家用弁并世上金銀融通之御趣意依御下知旧年已来其元共追々呼出シ分限ニ応御用金申付、銘々出金申付、貸付方之儀等も具ニ申渡置候処、惣人数之内ニは追々貸付候者も有之由ニ候得共、諸家向々申込有之候而も無訳相断、未貸付不致者多ク有之趣ニ相聞得候

右御用金被仰付御趣意先達而委細申渡候趣ヲ如何心得罷在候哉、近年諸家用弁世上金銀融通も不宜趣ニ而、右者諸家之返済不埒故、金主共手を引居候ニ可有之哉ニ付、分限之者共ヲ撰、御用金被仰付、直ニ御貸付被成、公金之名目ヲ以貸付被仰付候儀ニ而既返済方滞候節之御取扱も格別ニ御仕方相立、右御用金聊以公儀江御取立之筋ニも無之、於貸付方者損銀無之儀ニ候得は丈夫存、諸家返済方少も不危踏何れゟ申込有之候而も及熟談手広ニ貸付可申筈之処、貸付及遅滞候段、自分之勝手或は過分之利倍等ヲ考候儀ニ可有之哉、左候而者右之御趣意ニ不相当被仰渡ヲ不用道理故、おのすから一統相糺候様ニも相成可申候、銘々出金高申渡候已後者即時ニ貸付可申事ニ候得共、勘弁繰合も可有之儀故、左様ニハ成兼可申哉ニ付、先ハ其分ニ差置候得共、是迄余程之月数相立候而も貸付

不申者共も有之段、全申渡候趣ヲ心得違罷在、貸付等閑ニ打過候事と相聞得候付、尚又右之趣申渡候間、得と相弁当時ゟ諸家ゟ申込有之候分ハ勿論、此上申込有之節も及熟談早々貸付可申候

右御口上ニ而被仰出候趣承知仕候、是迄諸家方へ貸付候分御名前書上候様被仰渡、是又承知仕候、右御請書仍如件

一右之通被仰渡候付、外方一統御請致印形候、依之明朔日御断書差上候積りニ候、且右之節渡辺新右衛門方先達而イ仙(二千)両と書上候得共相済不申、身元改御願申上候処、猶又此節御紛之上イ仙(二千五百)サ舟両ニ而御聞済有之候

五月朔日晴天　金サシツヽサ厘イ入　銭ウヽツサ厘　肥後米節句休　昼同事

一今朝御礼無御座候、乍然笠間御屋敷へ者種村氏、渡部氏讃州ゟ帰坂為悦孫兵衛今日罷出候

一当月御月番佐野備後守様、御金奉行本多喜三郎様、下シ番手前当番也

一今朝鱠大根(しそう)　汁常之通　平(ふき)焼(とうふ)　昼汁大根葉　焼物鯛脊切(こもふ)　懸汁　夜酒肴鯛子(あら)

一今朝六ツ時天満組屋敷安井新十郎殿裏隠居出火有之、右限りニ而火鎮り申候、依之見舞左之通

一酒三升并握飯一重、煮染一重　安井氏

酒三升宛　河方　由比　安東江

右之通差送り、猶又御見舞申候

一明後三日渡り御為替金銀為伺文次郎罷出候処、三組江定式銀高(百貫目)舟〆ゝ、臨時六十日限二朱判野仙サ舟(二千五百)両御渡被下候段被仰渡候、則割合後明書付御月番江差上申候、且先月十八日上納相済候御納札三通御月番江差上申候、御書替手前江持帰り候

一融通一件、本店返答書今日差上左之通

乍憚口上

一昨晦日被召寄御書付ヲ以先達而為金銀融通結構之御趣意ヲ以御用金被為仰渡、右金高直ニ其本人江永久御貸付ニ被為仰付難有御請奉申上候処、右金子貸渡候哉未何方江も貸シ不申候哉、委細書上可仕旨被仰付奉畏候、先達而追々奉申上候通、私義呉服商売仕罷在候処、近年甚不操合ニ付、商売物仕込金も他借等仕相拵居申候仕合ニ而、当時金子甚払底ニ御座候故、未何方江も一切貸付不申候、当時殊之外逼迫仕罷在候得共、此末随分操合勘弁仕、少も貯金出来仕候ハヽ其節者無油断御諸家方江貸渡候様可仕候、右之通聊相違無御座候間、右之趣宜被仰上可被下候、此段口上書ヲ以御断奉申上候、已上

天明六年午五月朔日　越後屋八郎右衛門　出店預　久兵衛

惣御年寄中様

右之通相認、久兵衛持参差上申候処、何れも御詰合無之候間、

差置罷帰り候様下役中被仰聞差上罷帰り候

一京都店本状昨日到来、二条御蔵御入用金ウシマ(九十三)両当月三日当地御金蔵ゟ御請取被成候付、御蔵手代椹奥次郎殿罷下り被申、無故障御請取被成候上、此方江御渡例之通為替ニ而為御取登被成度段御頼之由ニ而、則皆弐朱判ウシマ(九十三)両之御三判手形一通下り申候、且右奥次郎殿事大坂江初而罷下り被申候間、万端心添呉候様、訳而御頼之由申来り候

一佐野備後守様若殿与八郎様御奥様於江戸表三月廿八日御安産、御男子様御出生被遊候由ニ付、右之趣京都江申遣、為御祝儀御肴一折差上申候、尤此料金マ舟(三百)疋、尤京都ゟ恐悦御状下ル、依之右目録今日久次郎持参差上申候

五月二日　晴天　金サシマヽチ入ウ厘ゟウ入　銭ウヽエチ厘　肥後米休

一明日渡御為替金銀証文弐通今日文次郎持参、御月番江差上御書替手前江持帰り申候

一今暮半時過天満西町牧野判四郎殿屋敷長屋出火有之、無程火鎮り申候、尤座敷向台所表門は別条無之、塀者打崩申候、就右見舞左之通

一酒三升、握飯一重、煮染一重　牧野平左衛門殿江

一酒三升宛　安井、河方、由比、安東江

右之通差送り猶又御見舞申候、尤牧判、牧平親類之由候

五月三日　晴天　金サシマヽチ入ウ厘ウ入　銭ウヽエチ厘ゟサ厘　昼ウ入　肥後米休

一今朝御為替金銀為請取文次郎罷出左之通

一ツシツゞサ舟ヽ　手前　(四十四貫五百目)　一(十二貫目)シセゞヽ　ツシマゞサ舟ヽ(四十三貫五百目)　十人組　上田組

ゞ銀舟ゞヽ渡り　内セシゞヽ小玉(二十貫目)　八月六日上納

右之外臨時六十日限御為替皆弐朱判左之通

一皆弐朱判イ仙舟サシ両(一千百五十)　手前　一　上同イ仙両(一千)　上同マ舟サシ両(三百五十)　十人組　上田組

ゞ皆弐朱判野仙サ舟両(二千五百)　上納七月六日

右之通無故障請取申候付例之通為御届相廻り申候、尤先月十八日江戸上納相済候御納札引替も相済申候

一二条御蔵方御請取弐朱判ウシマ(九十三)両椹奥右衛門殿今朝無故障御請取、直ニ手前江為替御頼被成候付、例之通御三判手形ヲ以請取申候、尤御同人御用向相済今夕舟ニ御帰京ニ付、為餞別饅頭五十差送り申候

一今初夜半時立売堀阿波橋北江入町出火在之候処、無程火鎮り申候

五月四日　晴天　金サシツヽゟサ厘　昼サ厘ゟイ入　銭チヽウ入サ厘ゟウヽ　肥後米休

一阿部能登守様御家中村田権左衛門殿、島村新兵衛殿御事、先月

廿三日御出京、八郎右衛門様、三郎助様、元之助様江為御土産龍門御上下一具宛御到来被遊并孫七郎江給帯地二筋御差越、孫七郎江御面談被成度候之間、木屋町三条上ル町御旅宿江罷越呉候様被仰聞候処、同人儀此節大坂店勤番ニ罷越、勿論於大坂表右御屋敷江罷出不申候付、致不快分同役共参上為致可申旨返書認遣、清太郎御旅宿江罷越懸御目候処、御酒御吸物御差出被成候上、御両人被仰聞候者、年来旦那方勝手向御世話相成、一同忝存候、是迄何角御無沙汰申置候上御頼申入候も気毒存候得共、一昨年砂降領分大損毛、又候去年凶作ニ而必至と差支、当秋収納迄之所取続難出来、其上臨時物入等相嵩致難渋、差当り当節句前払方差詰申候、依之何共申兼候得共、当時金高(一千五百)イ仙サ舟両御調達之儀御頼被申入候、返済之儀者九月、十月両度ニ無相違返済可致候、此段宜御頼申入候様能登守被申付候、弾右衛門上京御頼可申筈此節公用ニ相懸り大坂難相離、万太夫上京之積支度致候処、時候相中其上差懸り候用向出来、不得止事拙者共罷登候、右両人も何分宜御頼申入候様申之候段御演説ニ付、不取敢御断申達、御意重ク御座候条罷帰り主人共江申聞候上、尚又参上御断可申上旨程能申達罷帰り候

一右旅宿見舞為着悦左之通

一生肴一折両人宛　主中様方ゟ　一干菓子一箱　孫七郎　清太郎ゟ

右之通差送□(虫損)候、尤清太郎儀是迄右御屋敷江罷出不申候得共、何れ向後毎度罷出不申候而は相成申間敷ニ付、連名ニ而差送り候段申来り候

一右御頼一件主中様方江申上、何れも相談之上何れニ素手ニ而之御断も相立申間敷ニ付、当五月切御用達金舟サシ(百五十)両、元利引継金高(二百)セ舟両御請可申上旨、先月廿七日清太郎参上御返答申上候得共、御聞済無之候付、猶又何れも及相談候之処、強而右之通ニ而御断申切候ハヽ気障りにも可相成、其上当冬御渡シ物等ニ差支可申哉ニ付、詰り之所マツ舟両ハ調達不致候半而者相済申間敷(三四百)ニ付、夫ゟ日々旅宿江清太郎参上、段々御懸合申、前件舟サシ(百五十)両元利引継候而金高ツ舟(四百)両来ル十月切利足月イ(一)歩イ(一)之積り御用達申積り御対談相済申候

一右御両人ゟ先月廿八日清太郎江生肴一籠致到来候

一右御用談相済候付、御両人共先月晦日夕舟ニ御帰坂被成候付、為餞別左之通

一数寄屋縮一反宛　主中様方ゟ　一扇子十本入一箱　宛　孫七郎ゟ　多葉粉入五ツ

右之通差送り候段申来り、着坂着悦状主中様方ゟ一通、孫七郎ゟ壱通、清太郎ゟ同一通、是者清太郎宅江権左衛門殿為挨拶御出ニ付着坂悦旁差下申候

一右之通御対談相済候間、御屋敷ゟ御案内次第此度新調達金ツ舟(四百)両之内当五月切舟サシ(百五十)両去十二月ゟ当五月迄之元利引継残金相納舟サシ(百五十)両之御証文差戻シ、改金ツ舟(四百)両之御証文申請候様本状ゟ申来り候

一右之通申来り有之候処、昨夕方村田権左衛門殿、島村新兵衛殿ゟ

久次郎江手紙到来、此度於京都御頼申入候調達之内、当月切舟(百五十)サシ(二百四十)両元利致差引、残金今四日相納呉候様申来り候付、則致差引残金セ舟ツシ(六匁)両、銀カヽ今朝久次郎致持参候処、村田権左衛門殿御逢一通り御挨拶有之、右証文未御印形相揃不申候間、(二百四十)後刻自是証文為持遣シ可申候、其節下地之舟(百五十)サシ両証文残金野舟ツシ(六匁)両、銀カヽ引替相渡呉候様被仰聞候ニ付、承知之段御請申罷帰り候、然ル処八ツ半時過下役衆前件金ツ舟(四百)両之御証文御持参致取引呉候様被仰聞候付、則久次郎懸御目候之処、彼是世話之段御挨拶之上左之通

預り申金子之事

金四百両者　　但文字金也

此利月壱歩壱定

右者阿部能登守為要用預り申所実正也、返済之儀は当十月限摂州知行所物成、米代を以元利無相違急度返済可申候、為其仍如件

天明六丙午年五月

島村新兵衛印
原田五左衛門印
村田権左衛門印
岡　孫右衛門印

三井八郎右衛門殿
三井三郎助殿
三井次郎右衛門殿

三井元之助殿

前書之通相違無之候、以上

平田弾右衛門印
村田万太夫印
飯島茂太夫印

右之通御証文御渡被成候付、当五月切舟(百五十)サシ両御証文返上并正(二百四十)金セ舟ツシ(六匁)両と銀カヽ御渡申、則利足請取書左之通

覚

一金百五拾九両三歩　永百五拾文

内

金百五拾両　　元金

金九両三歩　永百五十文　右之利巳十二月ゟ午五月迄月壱歩壱六ケ月分

〆

右者調達金元利御返済被下慥請取申候、以上

午五月

杉本久次郎印

夕田弥太兵衛殿
関口大助殿

右之通相認遣取引相済候付、則今夕京都店江本状ゟ委細及通達候

一寺井瀬兵衛儀、当地并若山御用向ニ付、今昼舟ニ罷下り無難八ツ時過致着坂候

五月五日　天気風立　諸相場休日

一今朝御礼久次郎、文次郎罷出御両殿并御金方天満与力衆勤方之分夫々相廻り申候

一笠間御屋敷江孫兵衛、瀬兵衛、文次郎罷出候

一森繁平殿江今日瀬兵衛罷出、融通一件上ケ物并森印江挨拶之品も持参差送り、猶又本店筋右一件内意等申込候事

一今朝汁ふき　平昆布竹子　昼汁すり込　鱠鱠皮大根　平鱠てんふら　酒有

五月六日　晴天　金サシツヽイ入　昼休　銭チヽウ入也　米相庭休

一今朝西方寺江半兵衛参詣ス

一上島太郎兵衛事当地并紀州御用向ニ付昨夕舟ニ罷下り、今朝無難到着、猶又瀬兵衛と万端示合有之候

一今日御金方ゟ手前、十人組并十人両替御呼出有之、五月十六日上納之積金高ヱ(七千)仙両、弐朱判弐割半差之積御買上入札被仰付候付、即答申上候は、先達而弐朱判無差別と被仰出候付、小判難相調御座候間、皆弐朱判上納被仰付被下候様御願申上候処、未御金方江右体之儀相届不申候付、此度は弐朱判弐割半差之積上納可致候、追而右願書差出可申旨被仰付候、彼是押合候上不得止事三組割合ニ申談、十人両替方は日々相庭書上乍致不念之段御叱有之候、則割合左之通　書上相庭サシツヽイ入マ厘之所サ毛引下ケサシツヽイ入セ厘サ毛替

一金高ヱ(七千)仙両　内イ仙ヱ舟両　手前　一番
マイ仙カ舟両　十人組　二番
仙ヱ舟両　十人両替三番

右之通不得止事御請申上、則一同請書差上申候

一今晩店寄会相勤、猶又取締之儀申談候上、井上氏勤柄行作等之儀も孫七郎ゟ申談、将又店出入医師之内導引菅田改吉田兵部と申仁於表向不行儀之事共有之、且取替銀も余程有之候付、右之仁今夕相招右取替銀済方之儀其外行作不宜候段も申談候処、向後急度相改可申旨申之罷帰り候

五月七日　天気　金サシツヽイセ入　昼ツヽサ厘ゟイ入　銭チヽチ入カヱ厘　七ツ時ゟ曇　今日ゟ建替　筑前米サシセヽサ入

一今朝六ツ半時備後町堺筋東江入北側畳屋二階ゟ出火有之候処、右家限りニ而火鎮り申候、尤四町目手前抱屋敷風脇ニ而別条無之候

一今日佐野備後守様於御屋敷種村定右衛門殿御振舞有之候付、右為御取持鴻池善右衛門殿并同所名代利兵衛、手前ゟ瀬兵衛、文次郎御頼ニ付罷越候、尤瀬兵衛初而御目見被仰付、分而御懇御意有之候、夜八ツ時前首尾能相勤罷帰り候

五月八日　雨降　金サシツヽイ入ゟサ厘　昼ツヽサ厘　銭チヽチ入エチ厘　筑前米サシセヽツ入　実入ウ斗チウ升

一奥村次右衛門先頃ゟ不快罷在候処、一両日別而相勝レ不申候付

京都ゟ西三省様并本店田中嘉右衛門為見舞罷下り被申候
一上島太郎兵衛、寺井瀬兵衛今昼時出立、紀州江罷下り申候

五月九日　晴天　金サシマヽチ入サ厘ウ入　昼同事
銭チヽチ入エチ厘
筑前米サシセヽチ入

一奥村次右衛門病症西三省様御覧被成候処、御見立爰元医師と差而相替儀も無之、次第快方可有之趣ニ付、三省様御儀今昼舟ニ御帰京被成候
一井上伊織殿御事讃州ゟ一昨七日御無難御帰坂ニ付為悦鱸三雙主中様方口上取繕久次郎持参、福屋弥十郎殿江向差出候処、則伊織殿御逢御叮嚀御挨拶之上、何分京都江宜為申登呉候様被仰聞候、尤御同人御事来ル十四日朝御出立陸地御旅行之積八幡江御参詣、同夜伏見泊り、十五日御出京之段御家来福屋氏相咄被申候、依之右之趣京都江申遣候
一佐野備後守様御儀、今般両川口浚住吉浦新田開御用懸り被蒙仰候段森氏一昨日瀬兵衛江御咄有之候付、聞流ニも相成不申、則右之趣京都江も及通達、彼地ゟ恐悦状取寄為御祝儀御肴料金マ舟(三百)疋右披露状一所ニ今日久次郎持参差上申候処、厚ク御挨拶被仰出、京都江宜敷申遣候様森氏御申聞被成候
一田中嘉右衛門御用向ニ付出坂之由ニ而本店庄太郎同道入来、并井口、山中、宅々江も入来有之候

五月十日　雨降　金サシマヽウ入サ厘ゟツヽ　昼同事
銭チヽチ入チウ厘
筑前米サシセヽエ入

一渡辺九蔵殿御事今日道明寺江参詣ニ付、文次郎為案内罷越候
一松浦弥二郎殿御事御用向ニ付、先達而大津江御登り、当六日御出京被成候由、然ル処近々之内御出坂可被成旨ニ而、今日孫兵衛、久次郎、文次郎江為御土産紅葉海苔弐袋宛致到来候
一当節季賄方払之内ニ而引落貸方江引取候分、其外内請取之分左之通
一サシサヽセ入セ厘　中川新七皆済　一シヽ鍵屋多兵衛内請取
一セシカヽチ入平井清左衛門内請取　一シヽ出入卯兵衛内請取
一シヽ　出入儀兵衛内請取　一セシヽ和勢屋仁兵衛内請取
一セシヽ　和勢屋新兵衛内請取　一シヽ　出入又兵衛内請取
一セシヽ　天満屋内請取　一シヽ　出入平兵衛内請取
一舟ヽ　三好門兵衛内請取　一セシサヽ　石井遊野内請取
一セシヽ(五百三十七匁二)　堺屋与次兵衛内請取　一セ舟ヽ　布屋弥兵衛内請取
〆サ舟マシエヽセ厘　当五月節季取立
右之通取立申候
一此度御買上金上納証文順席之儀、十人両替之方御為替方ゟ上席ニ相認、十人両替ゟ相認差上候付、為御伺御金方江久次郎罷出候処、十人両替者御金方御支配ニ無之候付、何れ共急度難被仰付候得共、先御為替方上席ニ可有之儀ニ候、併此度之所者入札順番ニ致置可申候、已後之所者組々別証文ニ致可遣候間、此段兼

而相心得候様被仰渡候、尤此度之入札手前一番、十人組二番、十人両替三番右之通ニ候得共、兎角十人両替上席ニ可相成趣相見得申候付、猶相談之上迚も之儀疑と相紛置可然哉、依之近々森繁平殿江向先内意申込候積候

五月十一日　天気　金サシマヽウ入サ厘ゟツヽ　銭チヽチ入エチ厘　筑前米サシセヽエ入　昼同事

一抱屋敷之内古手町、梶木町、斎藤町、江戸堀一町目、二町目、玉水町、糀町、京町堀、奈良屋町、山本町、四郎兵衛町先達而一通り孫七郎見廻り候得とも、猶又今日半兵衛、彦次郎同道相廻り申候

五月十二日　天気　金サシマヽウ入ウ厘ツヽ　銭チヽチ入サカ厘　筑前米サシセヽサ入　昼同事

一今日相記候儀無之候

五月十三日　天気　金サシマヽチ入サ厘　銭チヽチ入ゟサ厘　筑前米サシセヽカ入　昼ウ入ゟマ厘

一井上伊織殿事弥明朝出立八幡御参詣、十四日夕伏見御泊り御上京被成候付、京都ゟ差図之通り銘酒三升入一樽、白縄巻樽ニして今日久次郎持参差送り申候処、御逢御叮嚀御挨拶被仰聞、何分京都江宜申遣候様被仰聞候、尤兼而陸地御旅行御積り候処、俄ニ陸地相止、明朝御乗船、八幡御参詣、伏見御泊りニ相成候段福井弥十郎殿御咄被成候、依之右之趣京都江本状出口走りニ而申遣候、但右銘酒之儀余り宜酒無之候付、不得止富士見酒ヲ三千年酒と致改名遣候事

一上島太郎兵衛、寺井瀬兵衛、紀州御用向相済、今日無難致帰坂候、尤彼地願込之様子至極宜、何れニ近々御様子吉左右相知レ可申と之御事ニ候、依之上島太郎兵衛儀直ニ今夕乗船致帰京候、且田中嘉右衛門儀奥村氏病気見舞旁罷下り居候処、病人も順快ニ付右上島氏同船ニ而致帰京候、寺井瀬兵衛儀者種村氏当十五日於大坂今宮神事并有気被相祝候付用事有之、其上森繁平殿江も引合之用事有之候付、今暫逗留ス

一寺井瀬兵衛并竹内文次郎、笠間御屋敷江罷越ス

一今般御買上金之内弐朱判之方今日於銀座包立候付、藤次郎持参、包立無故障相済申候

一右同断後藤方包立役人今十三日昼舟に罷下、明十四日包立候筈ニ付、右旅宿上町岩田屋伝兵衛方江為挨拶藤次郎遣ス

五月十四日　曇天　金サシマヽチ入サチ厘　銭チヽチ入イセ厘　筑前米サシセヽエ入　昼ウ入　朝之内小雨

一御買上金今日後藤旅宿上町岩田屋伝兵衛於宅包立無故障相済申候、尤先格之通為挨拶虎屋饅頭百入一折遣ス、且手前ゟ藤次郎罷越ス

一明後十六日御為替渡り高為伺久次郎罷出候処、仲間江銀舟〆ヽ（百貫目）

御渡被下候様被仰渡候付、割合書付後明書付并先月廿六日当月六日江戸上納相済候御納札七通御月番江差上、御書替十人組江持帰り候

一明後十六日納金銀左之通

一金舟マシマ（百三十三）両（一）イ歩（五匁）銀サヽ　京愛岩（ママ）山感徳院拝借金　去巳年分返納

一金サシ（五十）両　京漆問屋冥加金　去巳年分

一銀チ〆カ舟ヽ（八貫六百目）　京造酒屋冥加銀　去巳年分

〆

右金銀今昼舟ニ京都店深井助九郎并出入男吉兵衛持下り、舟中無難今八ツ半時致着候

五月十五日　曇天　金サシマ□ウ入ゟセ厘（虫損）　昼ウ入チ厘　銭チヽチ入マツ厘　筑前米サシセヽエ入　折々小雨

一種村定右衛門殿御事於大坂今宮神事并有気相祝被申候付、惣主中様方并三ケ津名代共ゟ祝物左之通

二見軽台

金銀土器并定紋付塗盃添京ゟ下ル　一鯖酢一桶　竹子拾五本　京江戸大坂名代連名

鮒雀焼　ふの焼玉子

ふくめ　ふくの皮煮付

ふく溜　ふ酢漬

ふき　右ふ七種於大坂台ニ組器物具懸

生鯛一折　大坂調

右之通今日瀬兵衛、文次郎持参、主中様方御口上取繕差送り御取持申上候、尤孫兵衛不快不罷出候

一今朝御礼久次郎罷出候、尤今日小田切様御屋敷江御城代様被為入候付、東様御方御礼不被為請候

一明日渡御為替証文且京都御役所納金銀証文両通御月番江差上、御書替十人組江持帰ル

一右之節先月廿六日当月六日江戸上納相済候御納札之内、御印移り有之候付御断書左之通

覚

一当午四月廿六日上納之内銀高九貫六百八拾五匁四分九厘七毛之御証文御印移り、同五月六日上納之内銀高六拾貫目之御証文しみ御座候得共、其侭御請取置被下候間、自然御勘定之節御差支之儀御座候ハヽ、其節於江戸表御認替願上引替候様可仕候、為其仍如件

午五月十四日　三井組名代　杉本久次郎印

右之通断書相認差上引替相済申候

一太田検校殿事、昨昼舟ニ罷下り被申候事

五月十六日　雨天　金サシマヽウ入ウ厘ツヽ　昼ウ入
銭チヽチ入マ厘
筑前米休日

一今朝御為替銀請取御買上金上納且又京都御役所納金銀等久次郎持参無故障相納、御納札両通ニ申請、御買上金代り銀も無故障請取、定式御為替銀舟〆ヽ(百貫目)三組江是又無故障請取申候、則割合左之通

一ツシカ〆ヽ(四十六貫目)　手前　一(十貫五百目)シ〆サ舟ヽ　上田組
〆銀舟〆ヽ(百貫目)渡り高　内小玉銀セシ〆ヽ(二十貫目)　上納八月十八日

ツシマ〆サ舟ヽ(四十三貫五百目)　十人組

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り候

一京都御役所納金銀御納札両通今夕差登せ可申処、大雨ニ付出舟無之候付、出舟次第明昼舟夜舟之内見合為差登申積りニ候

一寺井瀬兵衛、竹内文次郎、種村氏江昨日之為挨拶罷越候、瀬兵衛儀者夫ゟ森繁平殿江参り、本店融通一件御礼等之儀及内談候

一当午年中御為替ニ相渡り候小玉銀、丁銀ニ振替上納仕段於江戸表御願申上候処、願之通被仰付候旨十人組江申来り候付、於当地御金方江御届申上、左之通

覚

一当午正月十六日渡りゟ追々奉請取候定式御為替銀高之内、小玉銀当年中奉請取候分丁銀ニ振替上納仕度段、例之通於江戸表奉願上候処、願之通被為仰渡候付、当四月十八日上納御証文ニ小玉銀無御座候、清水様御銀之分者丁銀、小玉共上納仕候儀ニ御座候、右之段御断奉申上候、以上

三井組名代　杉本久次郎印
十人組名代　佐藤惣兵衛印
上田組名代　山本彦四郎印

宛なし

右之通相認御届申上置候

五月十七日　昨夜中ゟ　金サシマヽウ入チウ厘　昼ツヽ
雷雨降　銭チヽチ入セマ厘
筑前米休日

一今暁寅刻長堀問屋橋北詰西角浜納屋材木置場ゟ出火、本家建江火移候而家数四五軒焼失、六ツ半時火鎮り申候

一本店融通一件御礼之儀森氏江瀬兵衛及内談候処、不及其儀事ニ候得共、夫ニ而ハ気済不致候ハヽ軽クして内々差出可申旨被申候付、猶又内談之上左之通

御印　御紋付数寄屋縮五端、内浅黄二反、玉子一反、島二反
御肴代金サ(五十)仙疋、尤縮未出来不致候付、今日ハ目録ニ而差上置、追而出来次第差上候積、金方直納

森印　定紋付同二反、御肴代サ仙疋、且御内証御子息江数寄屋縮一反宛　但縮之方跡ゟ金方直渡

右之通今日瀬兵衛持参、繁平殿江懸御目差上候処、厚ク御挨拶有之候、扨又右之節御為替組、十人両替順席之儀申込候之処、不及申御為替方上席可有之候、併表向御申立候ハヽ、此方ゟ御金

方江申達候様可致候得共、内々之取計ニ候ハヽ、御金方ゟ此元江被相尋候ハヽ、何時ニても御為替方上席之段可申達旨、猶此儀ハ杉本久次郎江可申談と被申聞候、右之外光林屋敷、鴻池縁談之儀等色々之御咄有之候由

一融通筋一件ニ付残御用人、与力三人江左之通

御用人
福島台右衛門殿　此両人ハ八郎右衛門様、次郎右衛門様御連名ニ而差送り、本店二ツ割
勝浦恒右衛門殿

懸り与力衆
安井新十郎殿　此三人ハ次郎右衛門様御一名、八郎右衛門様分は此間本店ゟ差送り候由
松井官左衛門殿江
安東丈之助殿

一金（二千）イ仙疋宛

一金（五百）サ舟疋宛

右之通口上書相認、久次郎持参差送り申候

一寺井瀬兵衛儀、紀州、笠間、森氏対談筋相済候付、今夕舟ニ致帰京候

一京都御役所納金銀御納札両通助九郎并出入吉兵衛為持、寺井氏同舟ニ而為差登申候

五月十八日　天気　金サシマヽウ入サ厘ツヽ　銭チヽチ入マツ厘　筑前米サシセヽ也　昼同事

一御益様御儀被遊御安産御女子様御出生、御二方共御機嫌克御肥立被遊候間、九郎右衛門様、伝蔵様宛御悦状差上可申旨京都店ゟ申来り候付、則右御歓状今夕為差登申候

一松浦弥二郎殿御事当地并伏見御用向有之候付、今十八日京都御出立、伏見御用向相済次第十九日夕舟ニ御出坂可被成候間、大坂御逗留中先格之通相勤可申旨京都店ゟ申来り候

五月十九日　晴天　金サシマヽウ入サ厘　銭チヽチ入ゟイ厘　筑前米サシセヽイ入　昼同事

一太田検校殿御事何角之為挨拶御出被成候

一笠間御屋敷江文次郎御見舞申候

五月廿日　曇天　金サシマヽウ入ウ厘ツヽ　銭チヽエ入ウ厘チ入　筑前米サシセヽイ入　昼同事　八ツ時ゟ雨降

一松浦弥二郎殿御事今朝京橋二町目会所江御着坂之段、一ツ橋様御用達播磨屋仁兵衛ゟ為相知申候付、主中様方口上取繕、生肴一折今日文次郎持参差送り申候

一右御同人今日店表江御入来、何れも懸御目候

一孫七郎今朝ゟ伊丹江罷越、七ツ時前致帰店候

五月廿一日　曇天　金サシツヽイ入ゟサ厘　銭チヽエ入エチ厘　筑前米サシセヽツ入　昼同事　折々晴

一明後廿三日御為替渡り為伺、久次郎罷出候之処、仲間江銀舟（百貫目）ゝ御渡可被下旨被仰渡候、則割合後明書付御月番江差上申候

一松浦弥二郎殿江着坂為悦今日久次郎罷越候

一今朝津久井武兵衛殿店表江入来、後刻種村定右衛門殿御入来可

被成候間、軽キ支度差出シ呉候様被仰聞候付、御請申上候、尤津久井氏無程御帰り被成候、種村御氏八ツ時御入来ニ付店座敷江御通シ申、支度酒等差出シ、孫兵衛、文次郎御挨拶申候、尤家来衆江も支度酒差出申候

一村田万太夫殿御子息権左衛門殿死去之段承候付、為御悔今日万太夫殿方江久次郎罷越候

五月廿二日　曇天　金サシツヽイ入ゟサ厘　銭チヽエ入エチ厘　筑前米サシセヽサ入　昼同事ゟセ入
折々雨降

一明日渡御為替銀証文久次郎持参御月番江差上、御書替者上田組江持帰り申候

一今夜亥刻天満天神正遷宮有之候、并座磨(マヽ)末社稲荷遷宮、且博労町之社も今日遷宮有之候、何れも相応ニ参詣有之候

一種村定右衛門殿、渡辺九蔵殿御事当地御用向相済、明廿三日御出立、昼七ツ前後御乗舟、山崎ゟ御揚長岡天神江御参詣、乙訓寺江御参詣、廿四日夜伏見御泊、翌廿五日宇治江御廻り、同日遅ク候而も京都御着之積り御登り被成候、尤太田検校殿も御一所ニ御登被成候、依之大坂名代ゟ餞別左之通

一団扇七本箱入　種村氏　一扇子五本一包　永松伊兵衛殿
有馬花山椒二曲　一御肴一折　太田検校殿
一同三本入箱入一曲　渡辺氏　但於京都料物ニ而差送り候

右之通為持差送り、猶又為御暇乞罷越候

五月廿三日　雨降　金サシツヽマ入サ厘セ入　銭チヽエ入チウ厘　筑前米サシセヽサ入　昼イ入マ厘

一今朝御為替銀為請取久次郎罷出左之通
(四十三貫五百目)
一ツシカメヽ　手前　ツシマメサ舟ヽ　十人組
(四十六貫目)　一(十貫五百目)
シメサ舟ヽ　上田組
メ銀舟メヽ渡り高(五貫目)　内セシメヽ小玉(二十貫目)　八月廿六日上納

右之通無故障請取申候付、為御届例之通相廻り申候

一今日店影待相祝候、茶食　汁もそく　平ひりやうす竹子　肴黄身くらけ

一種村氏、渡辺氏并太田氏共弥今八ツ時御乗船被成候付、舟場迄孫兵衛御見送り申、文次郎儀は鯛舫味噌漬一桶持参致御供、先山崎迄罷越候積りニ候、尤京都ゟ為御出迎山崎江五十川清太郎罷出候積り之段、兼而京都ゟ申来り有之候付、於山崎清太郎、文次郎相談之上文次郎儀京都迄も致御供可罷越哉、又は山崎限ニ而罷帰り可申哉、兎角山崎之模様次第ニ両人相談之上相極申積りニ而罷越候

一井上伊織殿御事、当月九日京都御出立御帰府被成候段、此間京都店ゟ申来り候

五月廿四日　天気　金サシツヽマ入サ厘ゟセ入　銭チヽエ入チウ厘　筑前米サシセヽセ入　昼セ入セ厘

一今日相記候用向無之候

五月廿五日　晴天　金サシツヽセ入サ厘　銭チヽチ入イセ厘　昼同事　筑前米サシセヽ也

一五十川清太郎、種村氏為出迎橋本ゟ山崎江相廻り、同所ニ止宿相待居候処、昨廿四日朝五ツ時前着舟、久々ニ而懸御目候、夫ゟ所々御参詣被成候、兼而は昨廿四日夕伏見御泊り之積り有之候所、御着早ク御座候付俄ニ宇治御泊りニ相成候、翌廿五日同所御発駕、所々御参詣、廿五日夜初夜時前京都御着被成候、尤清太郎、文次郎も致御供、京都迄罷越申候

一初鰹出候付御両殿江二本宛、両御家老衆三軒、同御用人衆四軒、笠間御屋敷三軒江一本宛差送申候

一天満天神正遷宮御座候而、今日は天気も宜参詣夥敷、諸方ニ作り物俄ねり物、夜分者大坂中一同家並高挑燈差出、浜側橋々一同右同断、段尻嘶子抔も有之、参詣人日之内ハ勿論、夜分迄も不怪致群集候事

一今日道明寺代参庄次郎、供男又兵衛罷越ス

五月廿六日　天気　金サシツヽセ入セマ厘　銭チヽエ入ウ厘チ入　筑前米サシセヽ　昼同事

一宗義様二十三回忌御祥当ニ付、西方寺江本店吉太郎、両替店ゟ喜三郎参詣ス

一明後廿八日北野播宇於座敷伊勢講相勤申候段、当番林源兵衛、渡部新右衛門ゟ廻文来ル

五月廿七日　晴天　金サシツヽイ入チウ厘　銭チヽエ入サ厘　筑前米サシセヽ也　昼セ入サ厘

一種村定右衛門殿、大坂御逗留中生鰹御所望被成候処、未其節者出不申候、然ル処一昨日ゟ出申、今日二番鰹之由ニ而肴屋致持参候付、御同人江致進上候積りニ而、生鰹五本陸地走り出入儀兵衛ニ為持京都店江為差登申候

一松浦弥二郎殿ゟ見世中江為見舞深代寺蕎麦、組肴一重、切作一重今日致到来候付、為御礼久次郎分罷越

五月廿八日　晴天　金サシツヽセ入イ厘　銭チヽエ入カ厘　筑前米休日　昼セ入ツサ厘

一戸川鉄蔵様当地用達佃屋吉兵衛方ゟ今般鉄蔵様江片桐石見守様御妹御縁組御願之通被仰出候段為相知来り候付、則右之趣京都江申遣候

一孫七郎、今日住吉御田植并堺生船為見物罷越、暮時過罷帰り候

一伊勢講江孫兵衛、半兵衛、久次郎罷越、本店ゟ庄右衛門、藤兵衛、吉次郎罷越被申候

五月廿九日　晴天　金サシツヽセ入サ厘　銭チヽエ入チ厘　筑前米サシイヽチ入　昼同事

一松浦弥二郎殿江一昨日到来物為挨拶生鰹二本、今日孫兵衛、久次郎、文次郎ゟ手紙相添差送り申候

六月朔日　曇天　金サシツヽセ入サ厘　昼同事
小雨　銭チヽエ入ウ厘
筑前米休日

一今朝御礼久次郎罷出申候
一竹内文次郎、種村氏勤方相済昨夕舟ニ罷下り、今朝無難致帰坂候、尤於京都主中様方店々江当春御役替被仰付候為御礼相廻り候、尤御持分於南御宅御酒被下置候上、御上下一具致拝領候
一当月御月番小田切土佐守様、御金奉行寺尾善左衛門様御勤被遊候、尤下シ番手前也
一今朝鱠大根しそう　汁な　平焼竹子とうふ　昼汁ふき　焼物あし　夜肴長いも蒲鉾生貝
一松浦弥二郎殿御事当地御用向相済、明朝陸地御旅行枚方御泊、三日伏見御泊り、四日大津御着之御積り御登り被成候、依之名代共暇乞相勤軽キ煮肴一折差送り申候

六月二日　雨降　金サシツヽセ入マ厘　昼セ入ツサ厘
折々晴　銭チヽチ入イ厘
筑前米サシイヽチ入

一昨日井川善助店ゟ申来り候は、加州御屋敷江貸付有之候御印質米年賦証文差出候様申越候付、今日久次郎并新太郎罷越、善助江致面談候処、已来御印之方弐朱之利付、質米之方壱朱之利付ニ而、下地之御証文御用ひ此度御継紙被成、当時御役人御仕法之衆中御印形被成候段申聞候付、直ニ今日御継紙被成下候哉と相尋候処、今日は御用多候間、来ル六日四ツ時又々罷越候様被申聞候付、右御証文之写両通差出、猶御仕組置被下候様相頼、扨御元入之儀相尋候処、此儀当時ニてハ一向相分り不申候、御勝手相直り候ハヽ御繰合次第相渡り可申哉、先当時之姿ニてハ年々利足計御渡被成候御積り之由、猶存寄有之候ハヽ追而相願可然旨被申聞候付、程能及挨拶引取申候
一右之利足算用於此方致見候処、左之通

御印方
一残銀セ舟カシカメ舟ヽ（二百六十六貫百匁）　年セ朱（二歩）
一ケ年利足サメマ舟セシセヽ（五貫三百二十二匁）

米質方
一残銀ウ舟セシイメマ舟ツシチヽウ入ウ厘（九百二十一貫三百四十八匁九分九）　ウ毛（九）　年イ朱（一歩）
一ケ年利足ウメセ舟シマヽツ入ウ厘（九貫二百十三匁四分九）
メ利足計シツメサ舟マシサヽツ入ウ厘（十四貫五百三十五匁四分九）

右之通相当り候、右者先達而及承候御仕法ゟ宜相成候付、牧印ゟ之移りニても有之、右之通宜相成候儀と存候付、猶又近日牧印江久次郎罷越候而、右之挨拶且御元入願方等之儀も相尋申積りニ候、依之右之趣京都店江も委細及通達候
一松浦弥二郎殿弥今朝御出立被成候

六月三日　雨降　金サシツヽセ入サカ厘　昼セ入サ厘
銭チヽチ入也
筑前米サシイヽチ入

一明後五日渡り御為替為伺文次郎罷出候処、仲間江銀舟メヽ（百貫目）御渡被下候筈付、則刻割合書付後明書付等御月番江差上申候、且右

之節先月十八日江戸上納相済候御納札四通御月番江差上、御書替手前江持帰り候、然ル処右御納札之内弐通、墨付一通、御印移り一通有之候付、例格之文言ヲ以御断書差上引替相済申候

一今日佐野様於御役所御種人参代金御為替被仰付、手前請取番ニ付文次郎罷出、左之通

一　金(二千五百九)セ仙サ舟ウ(一)両イ歩　六月三日請取
　　銀(十二匁五分三)シセヽサ入マ(五)厘サ毛　七月廿六日上納

内
(二千百五十四)イ仙舟サシツ(三)両マ歩　手前
(二千九十)イ仙ウシ両
(十二匁五分三)シセヽサ入マ(五)厘サ毛
(二百六十四)セ舟カシツ(二)両セ歩　上田組

一　十人組

〆

右之通割合手形差上申候、尤十人組、上田組之手形も一所ニ文次郎持参差上、外組ゟ罷出不申相済申候、但此義先格ニ而有之由

一本川九十九殿江先達而二才計之男子養子致入家被申候付、京都江申遣主中様方ゟ為祝儀肴代金(二百)セ舟足、名代ゟ守袋一ツ、鰹節

一連差送り申候、尤主中様方ゟ之御悦状は京都ゟ御肴一折と認入有之候御状ニ付、一所ニ為持遣候

六月四日　曇天　金サシツヽセ入マツ厘　昼セ入ツサ厘
　　銭チヽエ入ウ厘チ入
　　筑前米サシイヽチ入
　　昼時過晴

一明日渡御為替証文今日文次郎持参御月番江差上、御書替手前江持帰り申候

一本川九十九殿御事、御内用有之明朝出立江戸表江罷下り被申候付、先格之通為餞別金(二百)セ舟足名代ゟ差送り御暇乞相勤申候、尤御内用之由ニ付、当地限ニ而京都江不申遣、勿論主中様方ゟ之御餞別も差送り不申候得共、江戸表江ハ右之趣及通達候

六月五日　天気　金サシツヽセ入カ厘　昼セ入マ厘
　　銭チヽエ入カエ厘
　　折々曇小雨　筑前米サシヽセ也

一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通

一　銀(四十六貫目)ツシカ〆ヽ　手前　銀(四十三貫五百目)ツシマ〆サ舟ヽ　十人組
　　銀(百貫目)シ〆サ舟ヽ　上田組

〆銀舟〆ヽ内小玉(二十貫目)セシ〆ヽ　上納九月六日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候

六月六日　天気　金サシツヽセ入エチ厘
　　銭チヽエ入カエ厘
　　筑前米サシイヽチ入

一南都御役所御為替銀三貫六百目、壱貫弐百目、先月廿六日江戸上納無故障相済、御納札右之通二通為差登、外組も同様致到着候、此度之引替番手前江相当り候付、外組御納札一所ニ取集、今朝文次郎出立、南都御役所江手形為引替罷越候

一加州御印質米手形継紙之儀、当月二日之所ニ相記有之趣昨夕牧

野平左衛門殿江久次郎参上委細御咄申、猶又相頼候処、先達而右之儀被申聞候節井川善助江一通り相咄候処、其後未拙者へハ何等之返答も不申聞候、然ル処其元江直々ニ引合、此度仕法之趣継紙致相済候様相成候ハヽ、跡々之為ニ相成申間敷存候、何れニも井川方ゟ此方へも一応申聞候上、手形継紙被申請候方可然旨牧野氏被申聞候付、今日加州御屋敷江久次郎参上、今日手形御継紙被成下候御儀ニ付、今一応井川方江引合申度儀御座候間、暫之所御延引被下候様御断申上候処、左候ハヽ得と引合相済候上ニ而宜旨御申聞被成候、右牧野氏御申聞之趣内々井川方心得ニ相咄置可申と、久次郎同人方へも参り候処、折節京都江登り申候由ニ付、不得止事加州御屋敷江直ニ御断申上候

一今晩当店月並寄会相勤候

六月七日早朝ゟ大雨　金サシツヽセ入カエ厘　銭チヽエ入エチ厘　筑前米休日　昼休

一御種人参代金御為替割其外遊金都合皆小判千六百五拾両、今夕飛脚便りヲ以京都店江為差登申候

一昨夕寄会之節御屋敷方名代大蛇之目傘之儀并居風呂昼時過ゟ初夜四ツ過迄も仕廻不申候付、已後風呂始方昼八ツ半過ゟ始可申旨、且爰元店ニ是迄消炭一切相見得不申候付、此儀等申談、将又秋季ゟ下男一人減シ候而不苦間敷旨申談置候事、右跡ニ而井口氏江孫七郎ゟ内々示合申儀有之候事

六月八日　雨天　金サシツヽセ入チ厘　銭チヽエ入エチ厘　筑前米サシセヽカ入　昼マ入サ厘　昼半時入止曇

一竹内文次郎儀、京都御役所御納札引替無滞相済、今暮時過無難致帰坂候

一戸崎おいく死去、今日葬式有之候、藤次郎儀内縁も有之候付、何角兼帯之心持ニ而差出候

六月九日　天気　金サシツヽマ入マツ厘　銭チヽエ入エチ厘　筑前米サシセヽツ入　昼同事　七ツ時過ゟ雨天

一種村定右衛門殿、渡辺九蔵殿御事京都御用向相済、昨朝祇園会山鉾御覧之上昼時出立、木曽路御旅行道中十四日経、来ル廿日御着府之御積り御帰府被成候、尤為御見送り之儀茶屋鴻池名代加納迄罷越候付、清太郎儀も不得止事同所迄見送り申積り之段申来り候

一今日店々寄会於本店相勤被申候付、孫七郎、孫兵衛、半兵衛、久次郎、文次郎罷出候、差而相替相談も無之候、尤式目京都月並御寄合之通

料理　汁（ねいも からし）　平（宵鯛 割ねぎ）　焼物（うなぎ）　肴（塩いり肴 ふのやき 岩茸）

六月十日　雨降　金サシツヽマ入サカ厘　銭チヽチ入イ厘　筑前米サシセヽサ入（二十五貫目）　昼同事

一伏見町加賀屋四郎兵衛方江御印セシサメヽ右同町掛屋敷二ケ所

為引当請取置候処、右二ケ所此節外方江セシメ〻之家質ニ差入（二十貫目）
正銀セシメ〻相渡可申候間、残銀サメ〻致用捨呉候様申越候、（二十貫目）（五貫目）
依之色々懸合見候得共、是非サメ〻致用捨呉候様押而申聞候付、
不得止事明日致出訴候積りニ而、夫々江相届置申候処、今夕夜
ニ入候而右町内会所ゟ壱人罷越候而、右一件今一応致相談度筋
有之候間、明日御出訴之儀御見合被下候様申来り候付、先明日
之所者見合可申旨申遣候

六月十一日　雨降　金サシツ〻マ入カ厘　昼同事
昼時止曇　銭チ〻エ入ウ厘チ入
筑前米サシマ〻イ入

一加賀屋四郎兵衛方ゟ手紙ニ而鈴鹿屋利（ナキマヽ）利足請人ニ為致可申候
間、家質ニ引直呉候様申越候得共、家質ニ引直候時は布屋済方
無覚束、其上利足請人不宜候付不承知之段及則答、弥明日致出
訴候積り夫々江相届申候

六月十二日　天気　金サシツ〻ツ入イセ厘　昼同事
初夜過ゟ大雨雷鳴　銭チ〻チ入イセ厘
四ツ落　筑前米サシマ〻マ入（二十五貫目）

一加賀屋四郎兵衛方御為替滞銀セシサメ〻弥今日御訟訴申上候、
則願書左之通

乍恐書付を以奉願上候

一御為替銀之内銀高弐拾五貫目伏見町加賀屋四郎兵衛、同手代
太助両判手形ヲ以、去巳十月廿日限相究御銀相渡置候処、日限
相済不申候、尤為引当同町同人家屋敷二ケ所書入ニ取置申候、
乍恐右之者共被為召出相済候様被為仰下候様奉願上候、以上
但加賀屋与左衛門儀は請人ニ御座候付、相手取不申候
天明六年午六月十二日　三井組名代　杉本久次郎印
御奉行様

右之通相認御願申上候処、阿部領左衛門殿御申聞被成候者、加
賀屋与左衛門儀家屋敷書入証文ニ致連判罷在候得は、証人加判
両様之内ニ而相手取相願候筋ニは無之哉と御尋ニ付、久次郎則
答申上候は、与左衛門儀は家屋敷計之致加判候付、相手取不申
候と申上候処、然は其趣致加筆可申旨被仰候付、右但シ書之処
今日は加筆ニ而御済被下候、無程御前江双方被召出御定法之通
六十限（日ヵ脱）相済可申段土佐守様被仰渡候付、御礼申上退出、即刻御
勝手江も為御礼罷出候、且遠国方御役所江先格之通書付相認御
届申上候、則左之通

覚

一御為替銀之内銀高弐拾五貫目、伏見町加賀屋四郎兵衛、同手
代太助両判手形ヲ以御銀相渡置候処、相済不申候付、今日奉
願上候、依之御届申上候、以上　三井組名代　杉本久次郎

午六月十二日

宛なし

右之通相認差上申候、尤前件加賀屋与左衛門事銀証文ニ印形無
之候而も書入証文ニ印形有之候上ハ、其方願方次第ニ而連判証

人加判、何れニ相願候而も当人同様済方日限等被仰付候事ニ候得共、其方ゟ相手取不申候趣ニ候得は、其通り之儀と阿部領右衛門殿先刻御前被仰渡前被仰下候得共、差掛り致方無之候付右之通但シ書相認差上候由、将又文次郎儀是迄右体出訴之節罷出不申候付、今日為手習久次郎同道初而右一件ニ罷出候

一右加賀屋与左衛門相手取、御願申上候筈之処、全手前心得違ニ而願書江与左衛門名前書加不申候、依之猶又相談之上四郎兵衛同様御日限被仰付、無相違皆済仕候様御召出被仰付候様、猶又御願申上候積りニ候、依之与左衛門町内江も改相届申候

六月十三日　大雨降　金サシツヽツ入カヱ厘　銭チヽチ入サカ厘　筑前米サシツヽ　昼サ入イセ厘

一右加賀屋与左衛門願書相認、今日東御役所江久次郎罷出、阿部領右衛門殿江内々入御覧候之処、難相分趣被仰、彼是隙取今日之御召出間ニ合不申候、依之又々明日罷出申積りニ候

六月十四日　晴天　金サシツヽツ入サチ厘　銭チヽチ入ツ厘　筑前米サシマヽサ入　昼同事

一明後日御為替渡り高為御伺、今日文次郎罷出候処、仲間江銀舟（百貫目）〆ヽ御渡被下候筈ニ候、則割合書并後明書付等差上申候、且右之節先月廿六日江戸上納相済候御納札五通御月番江差上、御書替十人組江持帰り申候

一前件加賀屋与左衛門願書弥今日差上左之通

乍恐書付ヲ以奉願上候

一御為替銀之内銀高弐拾五貫目伏見町加賀屋四郎兵衛、同手代太助両判手形ヲ以去巳十月廿日限相究御銀相渡置候処、日限相済不申候、尤為引当同町同人家屋敷弐ヶ所、道修町壱町目加賀屋与左衛門連判書入ニ取置申候、然ル処昨十二日右四郎兵衛、同手代太助両人被為召出相済候之様被為仰付被下候様奉願上、与左衛門儀相手取不申候様奉申上候付、右両人御召出六十日限被為仰付被下、難有奉存候、併右御日限家屋敷ニ而御銀不足仕候ハヽ下ニ而対談難行届奉存候、何卒右与左衛門御召出、四郎兵衛同様御日限無相違皆済仕候様被為仰付被下候様、尚又奉願上候、以上

天明六年午六月十三日　三井組名代　杉本久次郎印

御奉行様

右之通御願申上候処、御前江双方御召出、四郎兵衛同様六十日限済方被仰付、目安方於御役所請書印形御取被成候、尤御懸り阿部領右衛門殿ニ候、尤願書昨日差上候姿ニ而今日右之通被仰付候

一佐野備後守様御姫様、室賀壱岐守様江御入御座被遊候御方、当月三日於江戸表御死去被遊候由ニ付、其段京都店江申遣、先格之振合ヲ以御菓子一折差上申積りニ候処、漸一日之御慎ニ而御出勤、明朝御礼も例之通御請被遊候付、上田方申合、上ケ物者勿論、御悔ニも罷出不申承流シニ而相済申候

六月十五日　晴天　金サシツヽツ入ウ厘サ入　昼ツ入チ厘
銭チヽチ入セマ厘
筑前米サシマヽサ入

一明日渡り御為替証文今日文次郎持参、例之通御月番江差上、御書替十人組江持帰り申候、尤先月廿六日上納相済候御納札引替も相済申候

一今朝御礼文次郎罷出候

一出雲、肥前、阿波御蔵屋敷稲荷御神事ニ付、何れも夥敷作り物有之、参詣群集ス

一今夕月並之通酒出ル、尤肴　鯛塩煮　玉子ふの焼　右之節当店井口氏初若キ者、子供ニ至うかい之節杓直ニ口江付うかい致候者六七人も有之、其上清キ手水たらい、金たらゐ江直ニ足入あらい候者共も有之候付、右之儀今夕井口氏初支配人中江も申談候上、風呂場江左之通板ニ而為相認差出置申候

うかひ之節口江杓直ニ付候儀堅無用并金たらい江直ニ足差入あらひ申間敷事

午六月

右之通為相認差出、猶又一同江申談置候

六月十六日　曇　金サシツヽツ入ゟセ厘　昼同事
銭チヽチ入マツ厘
正九ツ時
月帯九分戌亥
筑前米休日

一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通

（四十六貫目）
一ツシカメヽ　手前　（四十三貫五百目）ツシマメサ舟ヽ　十人組
一（十貫五百目）シメサ舟ヽ　上田組

メ　銀舟メヽ内小玉セシメヽ（百貫目）（二十貫目）　上納九月十八日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候

一阿部様御用人村田万太夫殿并御勝手方元メ衆ゟ書状相添、先達而御用達金御請申上候付、左之通

一金舟足宛（三百）　八郎右衛門様　三郎助様　次郎右衛門様　元之助様
一金マ舟足（三百）　一金マ舟足（五百）　一金サ舟足　深井孫七郎　五十川清太郎

右之通被下置候付、御礼状京都ゟ認来り候付、内見之上右ニ而宜存候付致封メ夫々相届申候

一今日御霊宵祭昼料理　汁　菜　平　鱧摘入　酒なし

一土岐様御屋敷栗田唯右衛門殿御事病気ニ付退役被仰付候由、跡役未相知不申候付、高池三郎兵衛ゟ知ス

六月十七日　晴天　金サシツヽツ入エチ厘　昼休
銭チヽチ入セマ厘
筑前米休日

一御神事当日朝汁茄子　平竹子午尻　昼汁鱧さくら　鱠鱧皮朝うり

平鱧てんふら　焼生鰺　酒無　夜食茶漬　夜酒午尻しらか
硯蓋生かい　巻きす　鮒豆　井鉢（マヽ）鮒桜煮　錫鉢朝うり

右之通之料理方ニ而表江挑燈出シ、手前見世常之通暖簾懸ケ、当日は天秤仕廻相休申候、尤客無之故前ニ掃除と申候様成義も無之候、昼三好門兵衛并出入男四、五人押懸ケ参り、夜分酒之節門兵衛、平五郎両人見得申候、別宅之内山中氏入来ニ候、右夜酒計、見世ニ而若キ衆一同吸物差出、朝昼者台所ニ候

※「（欄外書）地車拾三番餝大鞁（ママ）四番有之」

六月十八日　晴天　金サシツヽマ入チ厘ツ入　昼セ入セマ厘　銭チヽチ入セマ厘　筑前米サシマヽサ入

一伏見町加賀屋次右衛門、同九郎兵衛家質銀三口、追々利足相滞候付色々致対談候得共相渡シ不申候付、不得止事元利共致出訴候積りニ相極、昨十七日同町会所江も相届置申候

一家質元銀拾八貫五百目　加賀屋次右衛門
滞利足壱貫弐百七拾弐匁八分

一同元銀拾七貫目　加賀屋九郎兵衛
滞利足九百九拾四匁五分

右二口次郎右衛門様直御名前ニ付、出店預り喜三郎罷出候積り、則家守藤次郎奥印之訴状相認、昨日伏見町会所江為持遣し、今日及出訴候旨相届置候

一家質元銀拾七貫目　加賀屋次右衛門
滞利足壱貫百六拾九匁六分

右者阿波屋伊兵衛名前ニ付右之趣訴状相認同人方江為持遣、町内届等相済申候、出訴之節同人直ニ罷出申積

右為出訴弥今日東御番所江喜三郎、阿波屋伊兵衛罷出候所、於御前先例之通来月十八日迄之内下ニ而対談相済候ハヽ其通、若相済不申候ハヽ来月十八日双方罷出対決被仰付候段御裏御印被下置候付、則伏見町会所江両通共店庄助ニ為持遣請取書取置申候、尤右訴状御用帳ニ留有之、此所略之ス

一爰元店ニ而炭薪等相調候節、是迄目方等相改候様子見請不申候付、支配人中江相尋候処、炭薪とも凡一間ニ炭三十俵、薪二十貫目持十五荷宛出入方ゟ売（ママ）上ケ候由ニ而、炭一俵之目方何程有之候哉存候者、支配人中者勿論賄方并男頭等も同前ニ付、薪之儀目方改候哉之段相尋候処、是迄相改候儀無之只一荷弐拾貫目持と心得罷在候而已之由、依之炭薪共為取出目方相改候処、一俵カメサ（六貫五百目）舟ゝ之俵と相見得、正目有之も有之、又サメウ（五貫九百）舟、カメセ（六貫二百）舟、カメマツ（六貫三四百目）舟ゝ位之方多有之候、俵数五俵之内右之通段々不同有之候、薪之方一荷凡六束持と相見得申候付、右之積り（十七貫八百目）ニ而目方相改候処、六束ニ而シエメチ（十七貫八九百）舟ゝ、シエメチウ（十八貫目）舟、シチメゝ迄有之、凡弐割余之欠ニも相当り可申候、右ニ付米之儀并燈油、酒、醤油等之儀も相尋申候処、飯米は一石宛ニ定、升目改請取申候由、其外酒、醤油、燈油等ハ樽詰ニ而先方ゟ持来り候侭之由ニ候、右之通仕来り余りはつと致候儀ニ付、已来炭薪共目方相改被申、其外樽詰之類も夫々気ヲ付相改被申候様支配人衆、賄方江も申談置候

六月十九日　晴天　金サシツヽサ入ゟセ厘　昼サ入ツサ厘　銭チヽチ入セ厘　筑前米サシマヽエ入

一今日相記候用向無之候

六月廿日　天気　金サシツヽサ入　錢チヽチ入イセ厘　筑前米サシマヽサ入　昼ヅ入セマ厘
今晩六ツ前大白雨

一京都両御役所御入用銀弐拾貫目来ル廿三日爰元御金蔵ゟ御請取被成候付、右御証文并写御添簡等京都店出入男吉兵衛、甚兵衛昨夕舟ニ持下り、今朝無難着、前件御証文御添簡等相改請取候、右出入男両人共直ニ今夕舟ニ帰京ス

一右之節当地御屋敷江京都主中様方ゟ之暑気御見舞御状当月廿五日之日付ニ而、右御証文便りニ持下、是又請取申候、尤御音物等之儀例之通本状通達別紙書抜ヲ以委細申来り候

一右之節笠間御家中杉浦大蔵殿御親父素為殿、同舟ニ而御出坂、当店江入来ニ付文次郎御挨拶申、軽キ支度差出申候、尤当地毛利石見守様御蔵屋敷御留守居ニ而御逗留(四十)被成候由ニ候

一大脇利左衛門殿ゟ当店江無拠金高ツシ両預り置候処、御同人今日入来、右金子此節入用有之候間、不残相渡呉候様被仰聞候付、喜三郎懸御目預り手形引替相渡申候、彼是世話之段厚ク挨拶有之候

六月廿一日　天気　金サシツヽマ入チ厘ツ入　昼休
夕方ゟ冷気　錢チヽエ入チウ厘　筑前米サシマヽチ入

一明後廿三日渡御為替為伺久次郎罷出候処、仲間江銀高舟〆ヽ(百貫目)御渡被下候様被仰渡候付、則割合書後明書付等差上申候、且又右之節当月六日江戸上納相済候御納札三通御月番江指上、御書替上田組江持帰り申候

一右之節京都両御役所御請取銀弐拾貫目之御証文写一通御月番江差上置候

一今日上難波宮御神事ニ付、地車五番餝大鞁(ママ)五番有之候

六月廿二日　曇天　座摩御神事諸相庭休
冷気袷単物着

一明日渡御為替銀証文并京都両御役所御請取銀弐拾貫目之御証文等今日久次郎持参、御月番江差上御書替手前江持帰り候

一今日本店神事ニ付、昨日当店支配人中宛本店支配人中ゟ手紙到来、今明日店表神事有之候、差而不珍、殊ニ御存知之通御徳意方御入来ニ而致混雑候得共、深井様御在坂之御事ニ御座候得は、宜御申入被下、御指合無御座候ハヽ、何れも様被仰合、夕方ゟ御凌旁御出可被下候、右之段別宅中ゟも宜敷申進候様被申之候、右得其意如斯御座候、以上

六月廿一日

右之通申来り候付、則答見合、参上可致旨程能返書相認遣し置候、右之儀是迄例格申来り候哉之段相尋候処、是迄本店神事ニ付右躰之手紙致到来候儀曽而無之由、然ル処先頃中西庄右衛門殿当店山中氏江相咄被申候由、深井氏在番中御酒ニ而も進申度旨、兼而奥村氏被申居候処、自身病気店表ゟ彼是用事多、段々致延引候旨御申聞ニ付、山中氏程能挨拶被申、御神事之節見世之景

気見物ニ被参候様成儀可宜哉と返答被申候儀有之候由ニ付、全右之趣意ニ而申来り候儀と被存候、然ル処勤番之儀当年限と申候ても無之、殊ニ是迄爰元店江別段呼手紙参り候例も無之、已来之当り障りニも可相成哉ニ付、今日夕方無拠用事有之趣申立程能断申遣し候事

一今日座摩御神事為拝見、村井新十郎出見世江罷越候、但地車三番大鞁（マヽ）一番其外ナガシ等有之候

六月廿三日　天気　金サシツヽセ入ツサ厘　昼同事
銭チヽチ入イセ厘
昼七ツ時過大地震両度　筑前米サシツヽエ入

一今日御為替銀為請取久次郎罷出、京都両御役所御請取銀共無故障請取申候、則左之通

（四十六貫目）　（四十三貫五百目）
一ツシカメヽ　手前　ツシマメサ舟ヽ　十人組
一（十貫五百目）　シメサ舟ヽ　上田組
（百貫目）　（二十貫目）
メ銀舟メヽ内小玉銀セシメヽ　上納九月廿六日
一銀セシメヽ京都両御役所御請取銀
右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り候、尤右之節当月六日江戸上納相済候御納札引替も相済候

六月廿四日　雨天　金サシツヽマ入ゟセ厘　昼休
折々晴　銭チヽチ入セマ厘
今巳五刻十雨入　筑前米休日
今寅刻巳後地震両三度
一今朝せんさい餅　平揚豆腐（なすひ）　昼常之通ニ候

一天神宵祭ニ付例年之通笠間於御屋敷御酒被下置候付、夕方ゟ孫兵衛、文次郎罷越候

一明日天神祭岡ニ而致見物候哉、舟ニ而可致拝見哉、尤舟之儀例年直段極り無之候、今年之処三人乗申候網舟ニてもサカメ（五六貫）位之旨ニ付、右直段自分ニ差出シ舟ニ而致見物候ニ及不申候、岡ニ而致見物可申候間、爰元堂島抱屋敷借屋之内江成共参り可申段申之候処、天神祭之儀は舟ニ而見物之方宜敷御座候間、諸入用致割合参り可申哉之段山中氏、杉本氏被申呉候得共、勤番之儀当年限と申ニても無之、各方江御苦労懸ケ候儀も気之毒、又此時節柄、店ゟ御振舞之儀も如何成物ニ候間、兎角岡ニ而見物致可申、乍然堂島借屋之内江参り候而も不苦候ハヽ、此方江参り可申旨申之候処、左候ハヽ堂島借屋見物勝手宜敷方江明早朝案内可申遣旨山中氏被申聞候

（表紙）
一天明六年六月廿五日ゟ　七月廿八日迄

大坂店勤番日記　（別一五七二―二）

深井孫七郎」

六月廿五日朝之内天気　天神祭ニ付
其後曇小雨　諸相場休日
九ツ時過ゟ晴
夫ゟ地震両度
一今日道明寺代参、出入儀兵衛参詣為致候

一去ル十二、三日両日之大雨ニ而新田三ヶ所作物之分不残打倒、其上崩所切レ所等夥敷致出来候付、見分致呉候様利平次昨日申来候、依之今日為見分井口孫兵衛新田へ罷越申候、尤右修復料凡マツメヽ程相懸り可申様之趣ニ相聞得申候、猶聢と積りを書付差越申筈ニ候

一今日天神祭孫七郎見物所之儀、堂島抱屋敷借屋之内ニ而致見物候ニ相極置候処、今朝ニ相成時節柄故舟不景気ニ而、此間迄(五、六貫)カメ文と申候舟、イメサカ舟ニ相成候間是非舟ニ而可致見物、尤右直段位ゟ下直成ル儀も無之旨ニ而、段々相進メ被申候付、再応断申候も如何ニ付、左候ハヽ如何様共致世話被呉候之様、杉本氏、并石井氏は当時賄方之儀ニ付相頼置、猶又山中氏江孫七郎申談候者、舟之儀俄ニ下直ニ相成候由ニ而何れも厚く御世話被下忝存候、右ハ此間も申候通、勤番当年計之事ニても無之候、然ル処当年舟直段格別下直ニ有之候迚、来年之買置も相成申間敷存候、譬此度之所各方割合ニ而御出被下候共、例格之様成行年々御割合御苦労懸ケ申候儀も気之毒、又御時節柄店表ゟ御振舞被下候儀も如何成物ニ御座候、依之岡ニ而見物致可申旨申候儀ニ御座候、乍然舟之儀段々と御世話被下候付、弥舟ニ而可致見物候得共、舟賃之儀ハ例年相極り不申、年ニゟ高下有之候得は、当年之舟賃ハ私ゟ差出可申候、尤右舟江弁当等持出候儀ニも御座候ハヽ、是者随分軽クして店表ゟ御差出被下候様致度候、左候得は各方江割合之御苦労も懸り不申、又舟之儀御世話被下候趣意も相立可申哉ニ候間、先当年之所者右之通御取計被下、明年ゟ者勤番了簡次第ニ御取計可被成旨申談、弥舟ニ而致見物候、尤案内人之儀右之通之意味合ニ付、役人之分ハ除之、岡田彦次郎、賄方石井彦四郎、林庄助同道致度旨申候処、両石井断、林氏一人之案内ニ而御神事御渡り見物致候、尤夜ニ入候而、山中氏、小野平五郎舟江被参、夜四ツ時致帰店候、尤団尻四拾九番迄有之候、併是者宵宮限りニ而大方仕舞、今日者余り引通り不申候

六月廿六日　雨降　金サシチヽツ入　銭チヽチ入マツ厘
朝五ツ時大雷白雨　筑前米サシサヽマ入

一右雷落候ケ所左之通

安治川　久宝寺町　かち屋町　山本町
伏見堀花屋橋　炭屋町

右之通落申候由、追々噂有之候

六月廿七日　曇天　金サシツヽマ入ツ厘　銭チヽチ入ツサ厘　昼同事
涼気　筑前米サシサヽチ入

一今日御城代様御中屋敷并土岐様御屋敷江久次郎暑中為御伺罷出候、尤御城代様江従京都御差上被遊候御菓子御状箱相添久次郎持参差上申候

一笠間御屋敷江暑中為御見舞今日孫兵衛、文次郎罷出候、尤右同

人ゟ之音物も今日差送り申候
一御両殿并御家中御金方其外天満与力衆中手前勤方之分、今日久次郎、文次郎罷出相勤申候、尤音物左之通
一御両殿江沙糖(ママ)白目五斤入一曲宛　但白木台乗久次郎文次郎ゟ
一御金奉行御二方様江右同断五斤入一曲宛　右両人ゟ
一両御家老御用人御取次目付書簡方共一同唐目弐斤入一曲宛名代両人ゟ差送り申候
一両地方支配与力衆七人江久次郎、文次郎ゟ唐目弐斤入一曲宛差送り申候、右之外筑後御屋敷ハ岸本安次郎名前、今治御屋敷は宇野政七郎名前ヲ以御役人方江音物有之候、其外者京都通達之通夫々差送り申候事
一今日土岐様御屋敷ゟ店表江御使者入来、暑中為御尋八郎右衛門様江御紋付御帷子一ツ、孫七郎江御役人中御状相添御袴地一行被下置候付、今夕本状ゟ右之趣及通達、例之通御礼状取下シ、溜等も例年之格ヲ以御礼状到着之上一所ニ差送り候積りニ候

六月廿八日　雨降　金サシツヽマ入サカ厘　銀チヽチ入ツサ厘　筑前米サシサヽウ入　昼同事
午刻地震

一佐々木佐京(ママ)殿用向ニ付出坂、店ニ而被致逗留候
一京都店出入男当地本店江用向有之、森氏へも用向有之罷下り、今朝無難致着候
一新田利平次植足シ稲苗并崩所切レ所、其外何角為相談、今日致出坂候付、右之趣則今夕京都店江及通達候、委細新田状有之候付略之ス
一今日生玉神事ニ付、両御役所江新町并島之内ねり物参り候由ニ付、西御役所江孫七郎、久次郎同道見物ニ罷越、見物相済八ツ時罷帰り候、団尻も六七番有之、是も御役所江参り申候

六月廿九日　雨降　金サシツヽツ入ゟセ厘　銀チヽチ入カヱ厘　筑前米休日

一佐々木左京殿次男勝四郎と申者、是迄当店ニ相勤罷在候処、親類内無拠相続筋之儀有之候付、暇之儀相願被申候、誠ニ無余儀趣ニ付願之通首尾能暇為祝儀銀子三枚差遣候、尤右之趣爰元店支配人中立会被申渡候
一今日住吉神事雨天ニ而淋敷方ニは候得共、団尻七八番も引出し申候

七月朔日　天気　金サシツヽサ入セ厘　銀チヽチ入カ厘　筑前米サシエヽ也

一今日御屋敷御礼無之候
一当月御月番佐野備後守様、御金奉行酒井与左衛門様、下シ番手前ニて候
一今朝鱠(朝うり)しそう　汁常通　平(こもふ)丸茄子午尻　昼汁常通　焼物鰹骨切
夜酒　取肴鰹小串煮しそう　ゑいてんかく　湯とうふ

一京店出入藤兵衛今朝陸地罷登り申候

七月二日　曇天　金サシツヽサ入サヱ厘　昼ツ入チ厘
銭チヽチ入サカ厘
筑前米サシチヽヱヽサ入
折々小雨

一京都店ゟ本状到来、御所司様御組紙筆墨其外諸入用銀七百九拾九匁五分、来ル五日当地御金蔵ゟ御請取被成候御証文一通、同写一冊右御添簡等出入吉兵衛、甚兵衛持下り改請取申候、尤右両人直ニ今夕舟ニ帰京ス

一津久井武兵衛殿暑中為見舞店表江入来

一佐々木左京殿勝四郎召連今夕舟ニ京都江向罷登り被申、夫ゟ直ニ帰郷之由ニ候

七月三日　晴天　金サシツヽサ入マサ厘　昼同事
銭チヽチ入ツサ厘
筑前米サシヱヽセ入

一明後五日渡御為替為伺今日文次郎罷出候処、仲間江銀サシ〆ヽ(五十貫目)御渡被下候筈、則割合書後明書差上候、尤右之節先月十八日江戸上納相済候御納札三通并京都御請取銀七百九拾九匁五分之御証文并写共御月番江差上、御書替手前江持帰り候

一岡田彦次郎儀昨日迄致出勤候処、昨夜中ゟ時気当り候哉致服痛(マヽ)余程六ツケ敷様子付、今朝ゟ喜三郎罷越、医師方彼是江懸御目候処、少々見直し候方之由ニ候

一今晩店月並寄会相勤候上、宇野藤五郎事病気ニ付、先達而暇願差出候処、今夕願之通申渡、為合力金子シ(十)両并京都勤仕之内年褒美銀チシチヽ(八十匁)共相渡、御礼一札取之置候

一右寄会之節毎月天神、昆沙門天、威徳天等無懈怠餝可申儀、且見世早ク明ケ可申儀等一同江申談置候

一牧野平左衛門殿子息平馬殿病気養生不相叶昨朝死去ニ付、為悔久次郎罷越、今夕天満寺町於妙福寺葬式有之候付、是又久次郎罷越候、且又右朦中為見舞菓子料金野舟(二百)疋、久次郎、文次郎ゟ差送り申積り候、右者加州一件此節引合之儀も有之候付、一通りゟ致宜遣し候事

七月四日　晴天　金サシツヽカ入サ厘ヱ入　昼サ入マ厘
銭チヽチ入ヱチ厘
筑前米サシカヽヱ入

一明日渡御為替銀証文今日文次郎持参、例之通御月番江差上御書替手前江持帰り候

一右之節京都御役所御請取銀御証文猶又於御金方御改被成候処、是迄右御証文京都両御奉行様方御奥印ニ有之候処、此度ハ御裏印ニ有之、先格と致相違候付、明日銀子御渡難被成旨被仰渡、右御証文御戻し被成候付、不得止事今夕右御証文出入平兵衛、儀兵衛為持京都江差登せ、本状ヲ以右之趣委細及通達候

七月五日　雨天　金サシツヽサ入チ厘　昼カ入マ厘
銭チヽチ入ウ厘
筑前米サシヱヽセ入

一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通
一セシマ〆ゝ　手前　（二十三貫目）　セシイ〆サ舟ゝ　（二十一貫五百目）　十人組
〆銀サシ〆ゝ　（五十貫目）　内小玉シ〆ゝ　（十貫目）　一サ〆サ舟ゝ　（五貫五百目）　上田組　上納十月六日
右之通無故障請取候付、例之通為御届相廻り候、尤右之節先月十八日江戸上納相済候御納札三通引替相済申候
一爰元店出入平兵衛、儀兵衛儀、今朝京都ゟ罷帰り候
一江戸店ゟ先月廿九日出四日切仕立飛脚、手前、上田組申合為差登候書状今夕初夜半時致着候処、此度金銀融通之儀ニ付諸国寺社、山伏、百性、町人共ゟ金銀差出候様被仰付、右出銀御領は其所之御奉行御代官御預所役人、私領者其領主地頭ゟ江戸最寄は江戸三井組、上田組、大坂最寄ハ彼地三井組、上田組江可差出候之間、請取之右出金之分当分両組江御預被仰付、右取扱ニ付諸入用之儀は取調相伺可申、尤右御預之儀は当分之御儀ニ而御座候旨松本伊豆守様并御勘定金沢安太郎様御立会御人払ニ而被仰渡候旨、尤右者宮門跡方尼御所は相除キ、諸国寺社、山伏之分本寺本山并重立候社家ニ而取調へ、其末々之趣ニ随ひ上之分一ケ所ニ而金（十五）シサ両と定、其已下者相応之出金高本寺本山并重立候社家ニ而相極、末寺触下、支配等江可申渡、且諸国御領私領并百性ハ持高百石ニ付銀（二十五匁）セシサゝ宛、但於大坂表此度御用金差出候者ハ相除キ候積りニ候、右同断町人之分ハ間口壱間ニ付地主ゟ銀（三匁）マゝ宛、但大坂表ニ而此度御用金差出候者ハ相除キ候積り、右之通当年ゟ来ル戌年迄五ケ年之間出金被仰付、御公儀ゟも御金被差加、一同大坂表於会所利足七朱之積ヲ以諸家江御貸付ニ相成、返済引当之儀者大坂表通用之米切手并領分之内相応之村高証（ママ）入ニ書入、万一相滞候節ハ米切手御定法之通御取計切手米為相渡、村高ハ最寄御代官江預り其物成ヲ以返済之積、勿論右出金銀之分御用相済次第出金銀致候者共江御戻シ被下、利足ハ七朱之内会所諸入用之分引之、其余之利足ハ右元金銀御戻し被下候節、是又致出金銀候者共江可被下、尤出金銀納方之儀は諸国共寺社山伏銘々之出金銀高本寺本山ニ而取極申渡候上、日数二十日之内百性（ママ）町人者前書申渡候趣相達次第、是又日数廿日之内致出金、来未年ゟハ正月中之積り可致出金旨被仰渡候段申来り候付、右之趣昨今京都江も懸ケ合、上田組江も追々及相談不得止事御請申上候積りニ相極申候、且右一件已後度々通達可有之ニ付、此書状ゟユ印と相定可申段江戸店ゟ申来候

七月六日　雨天　金サシツゝヱ入サ厘　銭チゝチ入ウ厘　筑前米サシチゝイ入　昼休
亥刻過晴

一右ユ印御用筋ニ付、当朔日江戸店ゟ四日限仕立飛脚之書状今昼四ツ着坂ス、并右ニ付京都店ゟも通り走り之書状今朝五ツ時、今昼八ツ時過、同七ツ時過追々三ケ度着ス、依之右一件爰元、上田方示合候上為相談、今夕舟ニ久次郎御請書上田印形持参、上京ス

一今日於西方寺例年之通墓参、且自空様三十三回忌御祥当十一日有之候処、定式墓参今日有之候付、右御法事引上、今日御回向御頼申候、然ル処今日参詣之刻限ゟ雨強降候ニ付、定式墓参りは延引、自空様御法事計相勤候積ニ而、本店、両替店ゟ支配人一人宛参詣之積り候、依之孫七郎申候者、定式六月一日ニ極候墓参は延引、十一日御祥当ヲ引上候方、雨天ニても両店ゟ支配人之内一人宛参詣是非被相勤候積り候ハヽ、墓参定式之方も一所ニ相勤被申候方可然旨申候付、両替店ハ喜三郎参詣、中元包銀共持参相済候、本店ゟ支配人一人参詣と被申聞候処、致如何候事候哉、藤兵衛殿、武右衛門殿参詣被申候、尤本店者墓参りの方延引、右自空様御法事計之積りニ候

七月七日　曇天　金サシツヽチ入サ厘　銭チヽウ入イ厘　昼サヽサ入　筑前米休日

一今朝御礼御両殿并御家中御金方天満与力衆、文次郎罷出相勤申候、尤久次郎儀京都江罷登申候付、御屋敷方江者当分不快之断申上置候

一笠間御屋敷江今日為御礼孫兵衛、文次郎罷出候

一今日見世休日　献立朝猪口　鱠朝うり　汁な　平午尻こもふ　ねいも

昼素麺　酒　吸物鱠綿ほうし　ねぎ　肴鮪一種

一両本願寺於対面立花為拝有之候

七月八日　快晴　金サシサヽイ入ゟサ厘　銭チヽチ入チウ厘　昼サヽツサ入　筑前米盆前休、後十七日ゟ

一今日天気ニ付例年之通西方寺江墓参可致旨本店ゟ申来り候、然ル処、当店之儀者一昨日致墓参、定式中元包銀も差送り相済有之候事本店ニも承知ニ可有之処、右之通又々申来り候儀如何之儀ニ候哉と相尋候処、七月六日両店申合舟ニ而参詣、西方寺迄ハ精進料理、西方寺江上り候得は、彼寺ゟ素麺差出被申、夫ゟ銘々墓江参詣之上又々乗舟行水等有之、魚類料理ニ相成致緩々大方夜ニ入下向之由、尤右諸入用之儀者本店、両替店年番ニ而相勤、店出シ致来り候旨、扨右参詣人之儀大方西方寺旦那之当役計ニ支配人付添参詣申儀ニ而、当時奥村、井口抔西方寺旦那無之故参詣無之由相咄被申候ニ付、是迄は右之通之仕来りニ而可有之候得共、七月六日之墓参りハ両店ゟ支配人一人宛之参詣ニ而可宜、別宅中不残参詣と申儀ニても無之、大方西方寺旦那計参詣と申ニてハ自身勝手強キ相当り、御時節柄不相応ニ可有之哉、猶本店江も被及内談可然旨山中氏江申談置候、尤今日之所は差懸り候儀ニ付断ヲも難申半兵衛、文次郎罷越候、本店ゟ中西庄右衛門殿、奥田吉太郎殿罷越候

一大坂三郷町中ゟ毎年差出候人足賃銀、先年御改已後年々銀高相増、別而近年町役銀多ク相懸り、町人共難儀之趣相聞得候付、此度両御役所并惣会所諸入用減シ方御取調へ之上卯辰巳三ケ年之平均銀高七百七拾八貫八拾壱匁壱分七厘九毛八絲之内、弐百

九貫五百七拾目余此度相減シ、已来壱ヶ年出銀高五百六拾八貫五百八匁三分四厘七毛六絲ニ而、右之外出銀相懸り候儀無之候間、節季毎々出銀高者毎年七月、十二月ニハ当御役所江可書出候、尤右之書付は通達町江取集可差出候、右之趣相心得三郷町々江其方共ゟ可申通候、右之通之御触有之候

七月九日　晴天　金サシカヽサカ入　銀チヽチ入ウ厘ウ入　筑前米盆前休　昼ヱヽイ入
大暑

一小野儀右衛門儀勝手ニ付、此度過書町住所引払本店江出勤、妹儀者小野平五郎方江引取申候段、本店ゟ為知来り候、依之右之趣当店掛り江知せ遣候

※「小野跡岸本安次郎引越」（欄外書）

一杉本久次郎京都御用談相済、昨夕舟ニ帰坂ス

一ユ印御用一件京都御存寄、且当地同断上田方存寄等於京都御相談之上御請書江戸表江御差下、猶又彼地存寄等六日七日両夕四日切仕立飛脚ニ而京都ゟ通達有之候付、爰元ゟ仕立者差下不申候、右京都ニ而相談之趣久次郎帰坂之上、猶又上田組江も申合此度右取立御用被為仰付難有奉存候段、今日御城代様御中屋敷并両御役所御広間両御勝手江書付ヲ以御届申上置候、則左之通

乍恐以書付奉申上候

先月廿九日於江戸表金銀融通御用向蒙仰難有奉存候、右之段御届旁奉申上候以上

午七月

宛なし

※「此書付西之内中半切認尤印形なし」（欄外書）

御為替三井組名代
杉本久次郎

右之通手前、上田銘々ニ相認差上申候、尤上田方者自身罷出被申、手前方ハ久次郎罷出申候、且右御届書下書京都ゟ下ル、京都も今日右同様御届有之筈ニ候

七月十日　晴天　金サシカヽマサ入　銀チヽウ入ツサ厘　筑前米休　昼同事
甚暑

一明後十二日渡御為替為伺文次郎罷出候処、仲間江銀サシ〆ヽ（五十貫目）御渡被下候筈、則割合書付後明書付并先月廿六日江戸上納相済候御納札四通、且又京都御役所御請取銀七百九拾九匁五分之御証文并写御添簡等、昨夕舟ニ京店出入吉兵衛、甚兵衛持下り、今朝無難着御証文同写御添簡共請取候付、右之御証文等も御月番江差上、右御書替何れも上田組江持帰り申候

一笠間御屋敷元〆衆ゟ孫兵衛、文次郎御手紙相添、谷新左衛門殿、茂手木平兵衛殿ゟ被仰越候由、例年之通晒壱疋宛被下置候付、御礼答相認遣候

一三郎助様御儀当地御屋敷方江暑気御見舞且当月末頃江戸表為御勤番御下向被遊候付御暇乞御兼被遊、今昼舟ニ御下り被遊、舟中御機嫌能今七ツ半時御着被遊候、将又当地御両殿江御上ケ物之儀、是迄年頭と御暇迄御兼被遊候節者定式御扇子ニ御肴添御

差上被遊候得は、暑気御見舞と御暇乞御兼被遊候節も定式御帷子ニ別段交肴一折御添御差上被遊候ニ此度ゟ御改被遊候間、已来右之通取計可申旨、本店ゟ申来り候

七月十一日　晴天　金サシカヽセ入ゟツ入　昼セ入
暑気強　銭チヽウ入ヱ厘
七ツ時過雷鳴　筑前米盆前休

一明日渡御為替証文并京都御役所御請取銀御証文等文次郎持参、御月番江差上御書替手前江持帰り候

一三郎助様御儀、今朝ゟ当地御屋敷江暑中御見舞、江戸御下向御暇乞御兼、御城代様御中屋敷并御両殿、同御家中、天満与力衆、御金奉行様方、同手代衆其外御屋敷方、町方共御勤被遊候、尤右御上ケ物并両御家中天満与力衆江音物定式之通ニ付略之ス、右之内御両殿江之御肴者此度改差上ル

一御城代阿部能登守様ゟ今夕方店表江御使者入来、此度江戸表江罷下候付為御餞別晒布料金サ舟(五百)疋平田弾右衛門殿、村田万太夫殿手紙相添被下置、且万太夫殿御自分手紙相添為餞別田麩五種入一箱、将又岡孫右衛門殿、原田五左衛門殿、島村新兵衛殿ゟハ品無之手紙ニ而暇乞被仰聞候、右之通御使者御持参被成候付三郎助様最早御乗船御帰京之趣取計、御使者江者右品々致請取遣申候、尤右両品共直ニ三郎助様江御渡申上候、右御請御礼状者京都ゟ御差下シ被遊候御積りニ付、右御手紙今夕為差登、猶又右之趣本状ゟ委細及通達候、猶御礼状到着相届候節、右御使者江溜〆弐朱一片、中間壱人江鳥目百文紙相添遣し候積り候

一三郎助様御出坂ニ付、為御悦今朝本店別宅衆中支配人并組頭被参、猶又今夕方右之衆中為御暇乞被参候

一御同所様御儀、当地御用向無御故障相済候ニ付、今夕舟ニ御同道藪田堅吾殿并御供西谷東吾其外草履取等帰京ス

七月十二日　晴天　金サシサヽチウ入　昼カヽイセ入
暑気強　銭チヽウ入カヱ厘
筑前米盆前休

一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通

(二十一貫五百目)
一セシイ〆サ舟ヽ十人組
(二十三貫目)
一セシマ〆ヽ手前　一(五貫五百目)サ〆サ舟ヽ　上田組
(五十貫目)　(十貫目)
〆銀サシ〆ヽ　内シ〆ヽ小玉　上納十月十八日
(七百九十九匁五分)
右之外京都御役所御請取銀ヱ舟ウシウヽサ入

右之通無故障請取申候付、例年之通為御届相廻り申候、右之節先月廿六日江戸上納相済候御納札引替も相済候

一三郎助様、京都御屋敷方御土産之儀御同所様御出坂、一両日已前ゟ堺表出入肴屋藤兵衛、七兵衛相願候付、時之柄温気殊ニ盆前市立仕舞之砌旁彼是及対談候処、堺表市立は十三日迄有之候付間違候儀は曽而無之請合候段申之候付、何れも相談之上御両殿初其外共一統塩煮肴可宜ニ付、右之通請合之儀ニ候ハヽ、弥塩煮肴ニ相極可申候間、無間違取計今十二日八ツ時過迄ニ致持参候様申付遣候、然ル処今日九ツ時右堺七兵衛罷越、肴払底難

致出来旨断申聞候、依之過急之儀外ニ致方も無之、菓子之方ニ可致と直様虎屋相招及相談候処、是以今日之故蒸菓子損シ可申、箱も過急ニ難出来旨申之、半断同前之仕義相成候付、不得止事御両殿江虎屋出来合桐箱入干菓子一箱宛両御家中拾三軒、北御用人四軒、両公事方与力八軒、右之分両面焼饅頭五十宛之積り取計、則今夕爰元出入男ニ為持為差登、猶又右之趣別紙ゟ委細及通達候

一右之通堺肴屋不行届致方ニ付、今日ゟ藤兵衛并七兵衛店出入留申付置候

七月十三日　晴天　金サシサヽウ入サ厘カヽ　昼カヽイ入　銭チヽウ入マサ厘　筑前米休　暑気強

一融筋本店ゟ御猶予之願書今日差上被申候積りニ付、昨日森氏江文次郎参上、内意申込候処、先差出し見可申旨被仰聞候付、今日本店小畠久兵衛願書持参、安井新十郎殿江向差上被申御前江被入御覧候処、御取上ケ無御座候、其節安井氏内々被申聞候は、右之類彼是多分有之候付、其元計御取上被遊候と申儀難相成候、依之御下ケニ相成候旨御申聞被成候

一今日西地方御役所ゟ手前、上田組御呼出有之候付、手前ゟ久次郎、上田ゟ吉郎兵衛罷出候処、此度被仰渡候融通金銀包方其外納方、請取方等之儀御尋之上書付差上ル様被仰渡候付、御請申上置、猶又今夕安井新十郎殿江久次郎参上、右一件一通り御咄申上、当地御役所江江戸表ゟ之御通達振り等荒増承り、明日差上可申書付等之儀も御尋申候

一聖霊会ニ付西方寺今朝店表江入来有之候

七月十四日　晴天　金サシカヽマツ入　銭チヽウ入マサ厘　筑前米休　昼ツ入

一今日西地方御役所江昨日御尋之書付相認、久次郎、吉郎兵衛同道差上申候、尤書付并委細之訳者融通方帳面ニ留置、此所略之ス

一退役并諸出入方江取替有之節季取立之分、夫々対談通り取立申候、委敷取立帳面ニ留置候

七月十五日　曇天　諸相場休日

一中元御礼何れも申合夫々相勤候、勤番孫七郎ハ本店并同所宿持三人且両替店宿持両人計相勤、大坂宿持并退役中迄も相互取遣有之候由、尤何れも継上下ニ而麻上下ニ而ハ無之候事

一今日料理方朝鱠（朝うり）しそう　汁な　平午尻（焼とうふ）頭いも　昼汁すいき　平ひりうす（白酢）小な　焼物なすひ　てんかく　酒肴無　夜酒も無之候

七月十六日　曇天　諸相庭休

一小野平五郎今日店表江中元為礼入来、夕飯給被申、勘定場江通

り、此度之融通筋京、江戸ゟ之通達書状引出し見被申候、且先頃も勘定場ニ而本帳繰出し、手前之帳合ニ有之候哉写取被申候付、今日之仕義旁不相済儀と存、改呼寄、井口氏立会、心得違之段急度申渡、猶又已来無断勘定場江罷通り被申間敷旨申渡置候、依之掛板相改置申候

一爰元店別宅中五節句出礼之節供之者大方店表ゟ参り候仕来りと見請申候付、御屋敷方勤、家方勤夫々訳も可有之候得共、何れも一時ニ不罷出代り々被参候様、家方勤之分相互申合被申候ハヽ、高直成雇賃相減シ、右ニ付何角失譬も無数相成候趣相考被申可然旨申談置候

一今日料理方朝鱠（朝うり しそう）　汁（赤みそ 小な）　平（白とうふ あんかけ からし）

昼汁（鱈さくら たゝきな）　平（鱈筒切 平こんぶ）　酒肴無　夜酒も無之候

七月十七日　天気　金サシカヽゟイ入　銭チヽエ入サカ厘　筑前米サシカヽチ入　折々曇

一今日相記候用向無之候

七月十八日　天気　金サシカヽセ入ゟサ厘　銭チヽエ入チ厘　筑前米サシチヽサ入　昼同事

一京都店ゟ別紙到来、八郎兵衛様御方御対様御儀、昨夜亥刻御安産御男子様御出生被遊、御二方様御機嫌能御肥立被遊候間、八郎兵衛様、八郎右衛門様宛御歓状為差登可申旨申来り候付、則為差登申候

一六月十八日及出訴候伏見町加賀屋次右衛門、同九郎兵衛家質滞願御日限今日候処相済、両人共病気ニ付其段御断申上候間、手前ゟも罷出呉候様申聞候ニ付、店ゟ喜三郎代庄助、阿波屋伊兵衛代卯蔵罷出右病書断書ニ致奥印、佐野様御役所差上申候所、来月十八日双方猶又罷出候様被仰渡候

七月十九日　天気　金サシカヽサ厘ゟイ入　銭チヽエ入チウ厘　筑前米庚申ニ付休　昼同事

一八郎右衛門様御儀、当地御屋敷方江暑中為御見舞御下向可被遊候処、未御不快ニ付其御儀無御座候ニ付、今日為御名代御両殿江文次郎罷出、定式精好平御袴地二具桐箱入一箱宛持参差上并両御家中御家老、御用人、御取次迄金野舟疋宛（二百）、書簡方目付衆江者金舟疋宛（百）、是又定式之通差送り相廻り申候

一先月十二日及出訴候伏見町加賀屋四郎兵衛方ニ相滞候御為替御用銀（二十五貫目）セシサヽ済方之儀、右引当家屋敷外方江家質ニ差入、銀子致調達候由、尤右打銀当五月ゟ七月迄之処半減ニ而致用捨呉候様此間ゟ段々（二十五貫目）相頼候付、何れも相談、当月之所半月致用捨遣、則右元銀セシサヽ且当五月ゟ当月中迄之打銀共今日町代清助持参請取相済申候、乍然右済口御届之儀者一両日中中合罷出申度旨申聞候付、先今日之所者（当地）仮請取書遣置、表向済口御届相済候上本証文引替遣シ申積□致対談、銀子請取申候

一今日川口御船為拝見罷越、紀伊国丸、土佐丸、浪連丸右ニ添候御巻御茶器御刀懸其外御手道具等、右之外御海大一艘、小四五艘有之候、尤右拝見十八日ゟ廿日迄之由

一当店勤番交代之儀、最初御定之通弥半年代り之積り、猶又被仰付候間、孫七郎八月江入候ハヽ勝手次第罷登り、於京都示合相済候上、代り役罷下り被申候積り之段、此間内番状ゟ申来り候、然ル処今日又々内番状致到着候処、兼而右之通之御思召ニ御座候処、此度融通御用被仰付候ニ付、先当時交代延引、是迄之通相勤可申、右ニ付宗巴様御思召も御座候旨申来り候、依之御断ヲも難申上御請申上候

七月廿日　天気　金サシカヽサ厘　銭チヽエ入チ厘　筑前米カシイヽイ入　昼同事

一今日相記候用向無之候

七月廿一日　天気　金サシカヽサ厘　銭チヽエ入チ厘　筑前米カシイヽイ入　昼同事

一明後渡御為替為伺文次郎罷出候処、仲間江サシゲヽ（五十貫目）御渡被下候筈ニ付、則割合書後明書付并当月六日江戸上納相済候御納札等御月番江差上、御書替上田組江持帰り候

一加賀屋四郎兵衛、同与左衛門御為替銀相済候届之儀、今日罷出呉候様申越候付、則済口届書相認東御役所江久次郎罷出、由比甚右衛門殿江懸御目書付差上候処、御前江被仰上候間、差上置可申旨被仰渡相済申候、尤向方ゟも同様御届申上候

一先達而店町内苧屋喜兵衛、同半兵衛江融通金マ仙（三千）両宛被仰付候ニ付、不如意之御断申上置候之処、当十九日御呼出御免被仰付候、尤此度被仰出候間別三匁之出銀差出候様被仰渡候

七月廿二日　晴天　残暑強　金サシカヽサ厘ゟイ入　銭チヽエ入カエ厘　筑前米カシヽイ入　昼同事

一明日渡御為替銀証文文次郎持参御月番江差上、御書替上田組江罷帰り申候

一此度被仰出候融通筋家別間口一間ニ付銀三匁宛出銀之儀、次郎右衛門様は御為替御用且此度融通御用被仰付、源右衛門様御儀者御広敷御用御勤被遊候付、右御両所様当地御名前屋敷之分不残前件三匁宛之出銀御免被成下候様上田組申合、西御役所江今日書付差上候処、地方田坂直右衛門殿御請取、大坂御用達之銘々都而江戸表江御伺相成、未御返答無御座候、右書付は差上置候様被仰渡候

一右之節直右衛門殿被仰聞候は、先日申渡候当地右御取集銀、来月三日迄ニ御役所江取立候銀子ニ而請取可申哉、夫迄ニ江戸表ゟ金納之御沙汰無之候ハヽ、当月晦日頃右之趣御断書差上候様御申聞被成候付、承知之段御請申上置候

一戸田因幡守様当地用達平野屋嘉十郎手代罷越、此度被仰出候御

用金納方之儀委細承り申度旨申聞候付、荒増相咄猶又御差出書案請取書案見せ申候而、追而相納之節前広ニ案内被致候様申遣候

七月廿三日　晴天　金サシカヽサ厘ゟイ入　昼カヽサ厘
残暑強　銭チヽチ入ゟイ厘　筑前米サシウヽエ入

一此度被仰出候間口壱間ニ付三匁宛出銀之儀ニ付、当地手前抱屋敷有之候町々ゟ追々尋来り候付、八郎右衛門様、源右衛門様、次郎右衛門様御名前之分御役所江夫々御断書差上置候間、宜御取計可被下旨、町々江申遣候

一八郎兵衛様此度御出生之幼様宗之助様と御名附被遊候段、京都店ゟ申来り候

一杉本久次郎儀、今日就吉辰安土町難波橋筋南横町西側借宅江引移り申候付、先格之通相祝、鰹鱠小焼物并軽キ取肴ニ而、次座喜三郎計致盃事　但右弘之儀、追而相勤申度旨ニ付、右之趣京江戸店江及通達候、当地本店其外家督退役中江も為相知候

一今日御為替銀為請取文次郎罷出、左之通

一セシマ〆ヽ（二十三貫目）　手前　一セシイ〆サ舟ヽ（二十一貫五百目）　十人組
サ〆サ舟ヽ　上田組
〆銀サシ〆ヽ（五十貫目）　内シ〆ヽ（十貫目）　小玉　上納十月廿六日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候、尤当月六日江戸上納相済候御納札引替も相済申候

七月廿四日　晴天　金サシカヽイ入サ厘ゟセ入　昼同事
残暑強　銭チヽチ入イセ厘　筑前米休日

一江戸大水当月十二日ゟ同十八日迄大雨降続（虫損）、両国川筋強キ水ニ而川上隅田川辺吉原土手水越山谷辺一□ニ水入、所々家流レ両国橋大間橋杭ぬけ、通路留り、新大橋、永代橋落、浜町薬研堀辺、水道橋、何れも舟筏ニ而致通路、神田川筋供（ママ）水ニ而川岸通りは勿論、所々橋落水場家流レ、死人多ク、其外山手所々崩レ、小石川辺、水戸橋御屋敷辺舟筏ニ而致通路、本所深川ハ不及申、浅草観音此所も舟筏ニ而致通路、江戸中大水死人多ク有之候旨、今八ツ時飛脚屋方ゟ為相知申候

七月廿五日　晴天　金サシカヽツ入サ厘　昼ツサ入
残暑強　銭チヽチ入カ厘　筑前米サシマヽウ入

一道明寺江代参出入男参詣ス

七月廿六日　曇天　金サシカヽマ入　昼セ入サ厘
折々小雨　銭チヽウ入　筑前米カシマヽサ入

一西地方御役所ゟ呼来り候付、文次郎罷出候処、堺御役所御種人参代御為替被仰付、則左之通

一　金弐拾両三歩　七月廿三日請取
銀九匁七分九厘壱毛　九月十八日上納

右之通無故障請取申候、尤追而上納之節贄安芸守様宛御納札申請差上候様被仰渡候、且此度は小金高ニ付、手前一手ニ請取、

其段外組江申達置候

一京都両御役所諸冥加金銀当地御金蔵納御為替被仰付、則左之通

金弐百五拾六両三歩
一銀拾四匁三分壱厘
此永弐百三拾八文五分

七月廿五日請取
十月十六日上納

銀百拾八貫六百拾三匁五分九厘五毛

右御為替金銀無故障(状カ)請取候間、追而上納之節御納札八通ニ申請為差登可申旨本店ゟ委細通達有之候

七月廿七日　天気　金サシカヽイ入ゟサ厘　昼イ入サヱ厘
折々曇小雨　銭チヽチ入カヱ厘
筑前米カシカヽイ入

一加賀屋四郎兵衛、同与左衛門方御為替銀(二十五貫目)セシサヾヽ(二百)滞口相済候付、東目安方与力七人、東御用人弐人江為挨拶金野舟疋宛久次郎、文次郎ゟ差送り申候

七月廿八日　天気　金サシカヽサ厘ゟイ入
折々曇風立小雨冷気　銭チヽチ入サカ厘
筑前米

一今暁寅刻前舟町中筋北横町西側裏借屋ゟ出火有之、横町江焼抜凡拾弐間四方程焼失、卯刻火鎮り申候、手前抱屋敷玉水町、斎藤町風下候処、別条無之候、乍然家賃ニ取置候堺屋幸次郎家屋敷半類焼相成申候

（以下次号）